

JOURNAL OF MONGOLIAN STUDIES

モンゴル研究

No. 28

モンゴル核問題特集号

特集号発行に際して

モンゴルの核問題

芝 山 豊

「ウランは原爆の原料になる。私たちの大地から掘り出してはいけない」

－ 2012 年、マルダイヘー

今 岡 良 子

モンゴル国ドルノゴビ県におけるアレバ系コジェ・ゴビ社のウラン鉱毒事件

－ 2013 年 6 月 15 日現在のまとめ

今 岡 良 子

削減された核関連予算

－ 2013 年度首相直轄予算 第 6 プログラム

「放射性鉱物資源と核エネルギーの利用」－

今 岡 良 子

「ウランは掘らん！ウランは売らん！原発？私たちにはいりません」

－ 福島市民と心は 1 つというメッセージを安倍首相に届けた

モンゴルの反核運動家たち

今 岡 良 子

モンゴル国の代表的な反核運動団体の紹介

箕 原 丈

「苦しみも未来もともに」 モンゴルの反核運動リーダーとの対話

緊急勉強会：「モンゴルを襲う核のゴミ－モンゴル核廃棄物処分場問題は

終わっていない」から

吉本 るり子

《年 表》

モンゴル国のウラン鉱山開発、原発建設、使用済み燃料処分場問題に関する年表

今 岡 良 子

《用 語 集》

核エネルギー関係用語集（日本語－モンゴル語）

箕 原 丈

モンゴル研究会

大 阪

2013

特集号発行に際して

3.11を経験して間もなく、われわれは、日米によるモンゴルでの核廃棄物処分場建設計画を知ることになった。英文の小さな記事は、やがて毎日新聞による大スクープ記事となって、日本・モンゴル両国民、そして世界の人々に衝撃を与えた。スクープの後、多くの人たちは、この人倫にもとる密約は破棄されたと信じた。

かかる事態を予想できたはずのモンゴル研究会会員たちは自分たちの不明を恥じながら、事態の分析とその後の動向に注視した。関係政府の否定コメントやモンゴル大統領の国連演説があっても、会員たちの疑念は晴れなかった。すべての情報は、モンゴルのウラン開発と原発導入が日米をはじめとする原発保有国の核廃棄物問題につながることを示しており、危機的状況が続いていると判断せざるを得なかった。折にふれ、モンゴルの危機について発言し、文章を書いてきた者たちは、深刻な事態に対処するために、互いのリソースをもちより、モンゴル核問題研究会をたちあげた。その時点でもなお、事態進行への見通しは甘かったと言えるかもしれない。2013年3月の日本首相のモンゴル訪問、5月の日本の原発輸出開始によって、モンゴルの核問題は一気に加速した。時を同じくして、モンゴル国では、ウラン開発との関係を疑われる家畜の被害が明らかとなってきた。

本特集号は、深刻化するモンゴルの核問題の現状とそれに深くかかわる日本と世界の問題を少しでも多くの人々に伝える責任があるとの思いから、モンゴル研究会内のサブグループ、モンゴル核問題研究会が音頭をとって緊急に編んだものである。

グローバルなコンテキストからのモンゴル核問題の本質理解、モンゴルでいま起こっている核汚染に関する報告の他、資料として、削除された予算案、反核運動家たちの行動とその主張などを紹介した。また、それらの記事をよりよく理解するために必要なモンゴル核問題関連年表を付し、巻末には、今後の当該分野研究の重要な工具となるであろう、モンゴル語日本語対照の核問題用語集を掲載している。

大阪外国語大学モンゴル語科のモンゴル研究会が『モンゴル研究』という雑誌を創刊したのは1974年度末(発行1975年2月)のことである。それ以来、大阪外国語大学が大阪大学外国語学部となった今日も、雑誌発行は継続され、40周年を目前にしている。関わるメンバーは現役学生から創刊当時の執筆・編集者まで、年齢も立場も多様である。しかし、共通の思いは創刊のころといささかも変わることはない。『モンゴル研究』は、より善き世界のためにモンゴルから学ぶ、利権や権威とは無縁の研究の拠点である。暗澹たる現実を前にして、挫けそうになりながらも、モンゴルの自然と人々の暮らしを守るために働くモンゴル人の活動に励まされ、なんとか作りあげたこの一冊が、より善き明日へのささやかな貢献となることをこころから祈念している。

モンゴル核問題研究会

第 28 号 2013 年

特集号発行に際して..... 1

「ウランは原爆の原料になる。私たちの大地から掘り出してはいけない」

モンゴル国ドルノゴビ県におけるアレバ系コジェ・ゴビ社のウラン鉱毒事件削減された核関連予算

— 2013 年度首相直轄予算 第6プログラム

「ウランは掘らん！ウランは売らん！原発？私たちにはいりません」

— 福島市民と心は1つというメッセージを安倍首相に届けた

モンゴル国の代表的な反核運動団体の紹介…………… 箕原 丈……………78

「苦しみも未来もともに」 モンゴルの反核運動リーダーとの対話

緊急勉強会：「モンゴルを襲う核のゴミーモンゴル核廃棄物処分場問題は」《年 表》

モンゴル国のウラン鉱山開発、原発建設、

《用語集》

核エネルギー関係用語集（日本語－モンゴル語）…………… 箕原 丈……………89

モンゴルの核問題

灰が多くなれば火杵(トウルガ)の膿

オルドスの口碑¹⁾より

芝 山 豊

小論は、日本のモンゴル関係の公式文書からウランの文字が消えた理由、モンゴルウラン開発の真の受益者、核燃料サイクルのバックエンドとしてのモンゴルなどを考察することを通じて、モンゴルの核問題の本質を探る試みである。

I 消えたウランの文字が意味するもの

2013年3月末の安倍総理モンゴル訪問に関する日本メディアの報道は、実に画一的なものであった。その多くは、自衛隊の能力構築支援も含むパートナーシップを対中包囲網の一環として評価している。毎日新聞の「日本とモンゴル 地球儀を眺めるように」と題された社説も例外ではない。

・・・そのモンゴルは今、中露両国の間に埋没しないためにも西側への接近を強めている。とりわけ日本のことは「第3の隣国」と呼び、初の経済連携協定(EPA)を日本と結びたいとして既に交渉入りするなど、対日期待感は非常に強い。・・・こうしたモンゴルからの「ラブコール」に、日本はもっと積極的に対応する必要がある。日本はモンゴルと10年に戦略的パートナーシップの構築で合意し、政治や経済の分野だけでなく文化・人的交流を進めているが、まだ十分とは言えない。・・・今回の首相のモンゴル訪問は4月末に見込まれるロシア訪問と5月に想定される日中韓サミットにつながる、対外戦略の一環だ。日露、日中関係をにらむ、大きな外交ゲームの布石でもある。・・・²⁾

日本とモンゴルの協力関係強化について、安倍総理は、モンゴル各紙に写真と署名入りの寄稿文を掲載させ、次のように説明した。

・・・日本とモンゴルは、2010年に「戦略的パートナーシップ」の構築を共通の外交目標として掲げました。以来、両国は着実に協力と交流を積み重ね、「戦略的パートナーシップ」を推進してきました。そのような両国関係を支えるものは何でしょうか？私は、自由と民主、平和、助け合いの「3つの精神」ではないかと思います。そして、そのような精神に支えられた両国関係を飛躍的に発展させたいと思

1 A・モスタールト 磯野富士子訳『オルドス口碑集』(東洋文庫)1966年 263頁

2 毎日新聞 2013年03月29日

い、今回、私は訪問を決意しました。

・・・日本とモンゴルが貿易・投資を拡大することは、両国経済に活力を与えます。特に、モンゴルの強みともいえる豊富な鉱物資源において、協力を進めていきたいと思います。多くの日本企業が高い関心を有しており、日本からの投資が増加すれば、モンゴルの経済成長を力強く後押しすることになるでしょう。また、日本は、インフラ、エネルギー、環境、農牧業、防災、医療等の幅広い分野で、モンゴルの開発を支援しています。（下線は筆者による）

安倍総理は、前回総理在任中の2007年に打ち出した「今後10年間の日本・モンゴル基本行動計画」ではなく、民主党政権管総理時代の2010年の「戦略的パートナーシップ」の発展を強調した。

下線を付した部分は2010年の「戦略的パートナーシップ」共同声明の以下の部分と呼応している。

・・・モンゴル側は、モンゴルの石炭、銅、ウラン、レアメタル・レアアース等の鉱物資源開発において、先端技術と経験を有する日本からの協力が最重要であるとの立場を表明し、開発事業への日本企業の参入を積極的に支持する政策は不変であることを強調した。日本側は、モンゴル側の立場を歓迎するとともに、投資環境の整備を含む具体的な施策の実施に期待を表明した。双方は、モンゴルの鉱物資源開発における互恵の関係の構築は両国の国益に適うものであり、戦略的に推進していくべきとの認識で一致した³⁾。

「戦略的パートナーシップ」を継承するという以上、「豊富な鉱物資源」の中には当然ウランも含まれていると考えねばならない。「日本・モンゴル経済連携協定(EPA)官民共同研究報告書」には次のように記録されている。

・・・双方は、とりわけ投資や進出を促進するための透明で一貫した規則や規制を維持すべく、エネルギー・鉱物資源分野における安定供給及びビジネス環境整備のためのメカニズムを構築することに関心を示した。・・・日本側は、日本企業による投資を促進するため、原子力エネルギー法で規定されているモンゴル政府が無償で取得できる権益の比率についての改善を求めた。・・・日本の産業界からの代表者は、モンゴルにおける事前通知のない突然の法改正が外国企業にマイナスの影響を与えている事例があると指摘した。この関連で、日本側は、鉱物資源法、原子力エネルギー法及び関連の法令の改正前に情報・意見交換を行うことを求めた。日本側は同様に、これら法令が改正された直後に通知が行われることを求めた⁴⁾。

2012年3月12日付英文毎日新聞は、バトボルド首相訪日において自然資源と核の平和利用が議題

3 <http://www.kantei.go.jp/jp/kan/statement/201011/19nichimongolia.html>

4 外務省によれば、「日モンゴル経済連携協定(EPA)官民共同研究は、双方の産学官の代表が出席し、2010年6月にウランバートルにて第1回会合、同11月に東京にて第2回会合、2011年3月にウランバートルにて第3回会合が開催され、両国で協議を行ってきた結果、両国首脳に対する日モンゴルEPA交渉入りの提言を含む報告書が完成した。」とされる。引用は外務省による仮訳 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fta/pdfs/j_mongolia_epa03_jp.pdf 英文は http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fta/pdfs/j_mongolia_epa03_en.pdf

となることを示し、訪日前のウランバートルでのインタビューにおいて、モンゴルの最初の原発を日本の指導で導入したいとの期待が述べられたことを伝えている。日本原子力研究開発機構のWEBサイトには、2011年8月、2012年9月のウランバートルでの「原子力の平和利用と核不拡散に関するセミナー」実施に加えて、日本国内の講師育成研修コース、「環境放射能モニタリングコース」、「原子力／放射線緊急時対応コース」、「原子炉工学コースⅠ」、「原子炉工学コースⅡ」、「原子炉工学コースⅢ」に、2012年からモンゴルの研修生が加わることが記載されている。

さらに、2013年1月21日付の日刊工業新聞は「原発輸出は再び前進する可能性が高まっている」として、以下のように伝えている。

日本は現在、米国や韓国、ヨルダン、ユーラトム（欧州原子力共同体）など11カ国1機関と、原発輸出の条件となる原子力技術の平和利用と技術協力などの法的枠組みを定めた原子力協定を発効している。またインドやブラジル、モンゴル、タイなどと交渉している。

この報道の通り、2013年5月トルコへの日本の原発輸出が決定した。2013年5月3日、原発輸出を成長戦略に位置付ける安倍総理はトルコのエルドアン首相とアンカラの首相府で会談、日本の原発輸出を可能にする原子力協定を締結することで合意し、日本に優先的な交渉権を与えることや防衛当局間の協議促進を定めた共同宣言が発表された。

地震大国日本の首相自ら「原発のセールスマン」として同じく地震大国のトルコへの原発輸出交渉をまとめたことが堂々と公表されているのに、トルコと並んで新聞が名指ししたモンゴルへの原発輸出やウラン開発が安倍総理の名と並んで報じられないことがないのは、関連の事実がないからだろうか。

既に、2009年7月、日本の経産省は「日本国経済産業省資源エネルギー庁とモンゴル国原子力エネルギー庁との原子力エネルギー及びウラン資源に関する協力覚書」という長い名称の協定を結んでいる。2010年の「戦略的パートナーシップ」共同声明にもられたウラン開発に関する両国のプログラムは文部科学省の助成事業も含め、原発関連分野でモンゴルの人材育成なども着々と進んでいる。しかし、2011年夏以降、モンゴルのウラン開発に関する記述が日本の公式文書に見当たらない。それは、毎日新聞のスクープ報道で明らかになった日米のモンゴル核廃棄物最終処分場計画への両国民の強い拒否反応のためである。

3.11の震災から僅か2ヶ月で明らかになった日米のモンゴル核廃棄物最終処分場計画は世界に大きな衝撃を与えるものであった。同年7月、共同通信は日本、米国、モンゴル3カ国政府の合意文書の内容を次のように伝えている。

モンゴル産のウラン燃料を原発導入国に輸出し、使用済み核燃料はモンゴルが引き取る「包括的燃料サービス（CFS）」構想の実現に向けた日本、米国、モンゴル3カ国政府の合意文書の原案が18日明らかになった。モンゴル国内に「使用済み燃料の貯蔵施設」を造る方針を明記し、そのために国際原子力機関（IAEA）が技術協力をする可能性にも触れている。モンゴルを舞台としたCFS構想が実現すれば、核燃料の供給と、使用済み燃料の処分を一貫して担う初の国際的枠組みとなる。福島第1原発事故を受け、当面は構想の実現は難しいとみられるが、民間企業も含め後押しする動きが依然ある。

共同通信が入手した合意文書原案(英文)は、地球温暖化防止やエネルギー安全保障、経済発展の観点から原子力利用拡大に支持を表明。原発導入国に燃料供給を保証し、使用済み燃料の問題にも対処できる「核燃料サイクルの多国間アプローチ」が重要だとしている。その上で(1)商業ベースのCFS確立のために3カ国が定期協議する(2)使用済み燃料貯蔵施設の造成をめぐり、モンゴルへの技術協力の可能性をIAEAと協議する一などの方針を示している。

複数の日本側関係者によると、日本政府内では経済産業省がCFS構想を主導、2月には米国が作成した文書への署名を目指したが、外務省などが異論を唱えたため見送られた。また、2月作成の経産省資源エネルギー庁の内部文書は、モンゴルを舞台にしたCFS構想を、同省と東芝、米エネルギー省、モンゴル政府が「水面下で検討中」だと説明。モンゴル産ウランを加工した核燃料を新規原発導入国に供給し、使用済み燃料をモンゴルが引き取る計画の概要を示した上で、新規導入国のアラブ首長国連邦(UAE)とモンゴルが接触を開始したと記している⁵⁾。

この報道の後、大掛かりな国際調査報道が期待されたが、結局、内外のメディアが存在を確認したとする合意文書が紙面に掲載されることもなく、関係各政府は計画を否定した。そして、2011年9月モンゴル大統領の「核廃棄物」の持ち込み否定の国連演説を境に注目は消えていった。毎日新聞の会川記者のボーン・上田賞受賞後、毎日新聞も含め、日本語の大手メディアは、モンゴルの核問題を全くといってよいほど報道していない。

米国エネルギー省副長官ダニエル・ポネマンや日本の経産省出身の内閣官房参与が関わったとされる最終処分場計画を日米政府が否定するとすれば、廃棄物処理と一体のものであるウラン開発自体への関与をも否定しなければならない。かくて、2011年5月以降、日本政府から出されたモンゴル関係公式文書からウランの文字が消えていった。

2011年9月のモンゴル大統領の国連での演説はモンゴルでの最終処分場建設をきっぱりと否定するものであったし、同時期、IAEA総会でのモンゴル代表の発表も大統領の演説と矛盾するものではなかった。だが、否定されたのは、あくまで「最終処分場」問題であって、ウラン開発そのものの否定ではないし、中間貯蔵の是非でもない。

翌2012年9月のIAEA総会でのモンゴル代表の発言のトーンは前年と明らかに違っている。

・・・ウラン資源について言えば、モンゴル国は、現在、国家の開発目標と課題に対処するために、ウランを役立てることを計画中である。モンゴル国はウラン利用が核燃料サイクルのすべての段階において核物質の安全性を保証することを含む課題を提起することをよく承知している。従って、核施設の安全性とセキュリティの強化並びに法的枠組みの整備にさらなる重点を置かねばならない。加えて、将来の発展と核開発に求められる諸段階に備えて人材の育成が極めて重大である。・・・⁶⁾

モンゴル政府は、国家目標としてのウラン開発のためには、核開発をおこなった国々の経験と助言を求めるとするモンゴル国政府は核燃料サイクルへの積極的参加を表明しており、日本の支援による

5 共同通信2011年7月18日

6 Statement by Amb. J. Enkhsaikhan, Head of the Mongolian delegation in the general debate of the 56th General Conference of IAEA

ウラン開発方針に変更がないとの認識を示している。実際、日本の当事者の対応もそれを裏付けている。

モンゴル政府がウラン開発を隠していないのは、モンゴル側にとって、ウラン開発問題と最終処分場問題は一体のものではないという認識があるからである。最終処分場建設はなくなったが、ウラン開発は継続するというのがモンゴルの立場である。最終処分場という名でさえなければ、核燃料の「貯蔵場」を建設することは可能である。

しかし、自国の使用済み核燃料の保管場所さえまならない日本がモンゴルに核燃料の「中間貯蔵場」を建設するということは、他国を核のゴミ捨て場にすることに等しく、2011年に日本の小学生が正確に指摘した倫理的問題を惹起する。

アメリカ軍の作戦名から出た Tomodachi Initiative を連想させる命名の「エルチ・イニシアチブ」と称する「戦略的パートナーシップ」の加速的推進の発表に「戦略的パートナーシップ」において個別に示した資源名の列挙ではなく、豊富な鉱物資源やエネルギーといった総称的な用語が用いられたのは、個別の鉱物名ウランをあげることになんらかの差し障りがあったからに違いない。

2006年8月28～29日、小泉首相がカザフスタンを訪問して「原子力平和的利用協力の促進に関する覚書」に調印した⁷⁾。2006年は、IFNEC 国際原子力エネルギー協力フレームワーク (International Framework For Nuclear Energy Cooperation) 構想がブッシュ政権下アメリカ合衆国エネルギー省から発表された年である。使用済み核燃料再処理のための国際協力体制の構築によって、使用済み核燃料の再処理時のプルトニウムを燃料化するための仕組みである。「ブッシュの戦争」に追隨した小泉政権は IFNEC エネルギー政策にも素直に従った。カザフスタンとの覚書で、日本は、カザフスタンの加工施設を利用して、濃縮済天然ウランの再転換、(英仏への再処理委託時に発生する)回収ウランの再濃縮後の再転換、ペレット製造、ウランのくずの精製などへの道を開いたのである。

カザフスタン訪問に先だつ2006年8月10～11日、小泉総理はモンゴルを訪問している。このモンゴル訪問について、海外のメディアは、3億5千万ドルの無償支援を約束したことで安保理非常任理事国の権利をモンゴルから譲り受けたと報じているが、実際、ポスト小泉の第一次安倍内閣において、モンゴル国は本命視されていた非常任理事国への立候補を断念し、日本の支持にまわった。

2013年の安倍総理のトルコでの原発売り込みの後、三菱商事と千代田化工建設は5月13日、モンゴル政府が2016年に開港を予定する新ウランバートル国際空港の建設事業を約500億円で共同受注したと発表している。総事業費の約9割は円借款で賄われるという。モンゴル国が希求するインフラ整備への多額の援助の見返りとして日本は何を期待しているのか。日本政府が「豊富な鉱物資源」の中にウランは含まれていないと明言しない限り、日本・モンゴル両国民の怒りにふれた最終処分場建設を含むウラン開発が浮上するという懸念を払拭することはできない。

II モンゴルウラン開発の受益者

2009年2月、共同通信は人民日報を引いてモンゴルが2021年までに小型原発の完成を目指しており、「日本の大学と原子力分野での人材交流を進めているほか、ロシアと一月末にモンゴルのウラン鉱を共同開発、ロシアで濃縮することに合意した」と伝えている。

7 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_koi/kaz_uz_06/kaz_o_k.html

モンゴル国民の中にも、モンゴル国の核開発は中止されたと考えている人々がいるようだが、モンゴル国の現在の連立政権が決定した2012年のモンゴル国家大会議決議第37号によって定められた2012～2016年の施政方針の中に、核の問題について明記されていることは以下の2点だけである。

- 1) モンゴル国内に核廃棄物を埋設することの禁止。
- 2) モンゴル国内でのウラン採掘・精製はイエローケーキ段階までとすること。

これら2点は、2011年以前に決定していた2009-2011年法整備、2012-2016年研究炉導入、2017-2021年原発導入という計画を阻害するものではない。

日本の協力による実験用核反応炉導入計画は予定通り進行している。実験炉導入以降の展開は、日本の1950年代以降の原発の歴史を顧みれば自明のことである。モンゴルでの原発稼働は既にカウントダウンの段階に入っていると言っても過言ではない。

モンゴル国の年間電力消費量は、2010年の統計で33億7500万キロワットである。(日本はその250倍以上)。原発を導入しなければならない状況にあるであろうか。代替エネルギーについて、2012年10月24日付日本経済新聞は次のようなニュースを伝えている。

ソフトバンクはモンゴルで風力発電事業を始める。同国政府から南部の砂漠にある遊休地の賃借権を取得した。面積は東京都全体に匹敵する約2200平方キロメートル。2014年中にも出力30万キロワットの発電所を稼働させる。総工費は500億円程度の見込み。現地電力会社に売電し、将来はロシアなど近隣国への電力輸出も検討する。

記事が示す通り、モンゴル国は風力や太陽光など再生可能な発電のメッカとなる可能性を秘めた場所である。人口300万程度、人口半分以上が都市に集中し、大きな油田こそないが、豊富な石炭を有するモンゴル国が原発導入にこだわる理由とは何か。

9.11以降の世界情勢を背景に、2002年(奇しくも東電の原子炉ひび割れ記録改竄が公表された年)に始まった世界の「原子カルネサンス」では、原子力は、あらゆるエネルギー源のなかで、最も安価ですぐれたエネルギー源だと主張されてきた⁸⁾。日本が教えられてきた通り、モンゴル国もそう教えられてきた。しかし、フクシマ後、それまで繰り返されてきた低コスト、地球温暖化防止、CO₂削減といったお題目は色褪せたものとなった。賞味期限切れのお題目を除けば、モンゴル政府の説明はオクトルゴイ(金・銅)やタワントルゴイ(石炭)の開発に電力が必要だというものである⁹⁾。石炭鉱山開発に火力発電所が足りないので、原発を置くという論理はにわかに理解しがたい。われわれが理解し得る理由は、「モンゴル国内に豊富なウラン鉱脈があるから」という一点をおいて他にない。

モンゴル国にとって、国際競争力のある安定的鉱物資源開発は焦眉の急であり、世界で有数の埋蔵

8 ステファニー・クック 藤井留美訳『原子力 その隠蔽された真実』(飛鳥新社、2011年)17章等を参照

9 STRATEGIES AND FUTURE DEVELOPMENT OF ENERGY AND CURRENT STATUS OF NUCLEAR ENERGY PROGRAM IN MONGOLIA "Technical Meeting on Options o Enhance Energy Supply Security using NPPs based on SMRs" 3-6 October 2011, Vienna, Austria http://www.iaea.org/NuclearPower/Downloadable/Meetings/2011/2011-10-03-10-06-TM-NPTD/3-Wednesday/5_MONGOLIA_Tsuren_TM3-6Oct2011.pdf

量をもつウラン鉱床を最大限に利用しない手はない。ウラン原鉱石の輸出では意味がない。より大きな収益をあげるためには、ある程度までモンゴル国内で核燃料として精製せねばならない。そのためには技術移転が必要であるが、核兵器製造へ直接つながるウラン精製の技術移転には必ず国際管理が必要である。核不拡散のたてまえから、冷戦終了後、非核武装宣言を行っていることは、モンゴル国にとって技術移転を受けるのに有利となる。アメリカや日本、IAEAを中心とする国際管理体制は、モンゴル国の国家安全保障上、大きなメリットがあり、とりわけ、貿易面で過度な依存状況にある中国への牽制ともなる。さらに、原発が稼働してプルトニウムをもてば潜在的な核兵器保有国として国際政治上の存在感もますますことになる。こうしたシナリオに従えば、ウラン精製の技術を得るためには、原発導入が不可避というわけである。

2007年、来日したエンフバヤル大統領は50万kW程度の原発を持ちたいとの希望を正式に表明した。以来、モンゴルの原発導入はモンゴル国民の選択であるという言説が日本でなされることになる。

しかし、原発導入がモンゴル国民の総意であるとは言えない。2011年5月のスクープのきっかけとなった米紙への即応をはじめ、ウランバートルでの市民デモや、専門的な知識を有するアリオンボルドを代表とする反核市民活動ゴロムト¹⁰⁾など原発導入に反対の意見をもつ人々がいる。2012年10月には、ガンバートル、バットエルデネ、ボロルチョローン国会議員3名が2013年予算に盛り込まれた核関係予算の削除を求めた旨の記者会見を行っており、広く国民に支持されている。

また、仮に原発導入がモンゴル政府の政策だとしても、それはモンゴル国の完全に主体的な選択だと言えるだろうか。

奇しくも、2011年3月11日、京都、国立京都国際文化会館で、『揺りかごから墓場まで』と称する「核燃料サイクルサービス多国化」に関するシンポジウム Multi-nationalization of Nuclear Fuel Cycle – Facilitating a “Cradle to Grave Service” が開かれていた。

東京大学 COE プログラムが開催したものである。東大の記録によれば、地震が起こったまさにその時、作業部会（ワーキンググループ）で各国パネリストによる自国の原子力利用の現状や将来計画、核燃料サイクルの国際化に関する枠組みの提案等の発表が行われていた。

「便宜上、国名が記載してあるが、WG 出席者個人の見解であり、国や出席者が所属する組織の正式な見解ではない。また当該国の参加者による発言とは限らない」と但し書きされたその記録によれば、UNF（使用済み核燃料）等の「モンゴル：引き取りの要件は、モンゴル起源のウランであり、モンゴルで燃料製造すること」との意見が表明されている¹¹⁾。

「UNF 等」という曖昧な記述に注目せねばならない。「等」というからには UNF だけではなく、HLW（高濃度廃棄物）が含まれる可能性がある。

この会議のモンゴル代表の名前は Manus McCaffery と記録されている。もちろん普通モンゴル人に使われる名前ではない。米国が2007年にモンゴルに設置したエネルギー関連研究組織モンアメ（MonAme Scientific Research Center）の研究員であった人物の名前と一致する。このモンアメ主催の Third International Ulaanbaatar Conference on Nuclear Physics and Applications（2012年）にも北海道大学、東京工業大学から発表者が参加しているが、モンアメの設立当初からのパートナーは東京大

10 <http://golomt.org/2013/05/20/ariunbold1/>

11 http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/international/docs/summary_international_meeting_kyoto_20110310.pdf

学である。

2011年12月、『国際核燃料サイクルシステムの構築と持続的運営に関する研究 中間報告』(東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻 協力：日本原子力研究開発機構)という文書¹²⁾には具体的な枠組み構想について次のように記されている。

東アジア地域での多国間枠組み検討の対象とした国

- ・日本、韓国、カザフスタン、ロシア、中国、モンゴル、アジア新興国(その他、IAEAは地域保障措置のパートナーおよび枠組み構築における国際調整役を担う)
- ・今回の中間報告では、検討に含まれていないが、核不拡散上の理由から、枠組みを「アジア環太平洋」と拡張し、米国、カナダ、オーストラリアを含めた形態についても考慮する必要があると考える。

3.11当日、東京大学主催のシンポジウムでモンアメの米国研究員によって代弁された「UNF等」の引き取りを含むモンゴル国の方針は、このシンポジウム以前に内閣府の下におかれている原子力発電・核燃料サイクル技術等検討小委員会に提出された資料の中で、日本側から期待されている内容と完全に一致するものである¹³⁾。

東京大学の研究者や日本原子力研究開発機構の立場は、2011年5月の最終処分場報道や同年9月のモンゴル大統領国連演説の後も変化していない。福島第一の当面の処理も終わらぬ2011年8月10日、モンゴル国原子力エネルギー庁と共催したウランバートルのセミナーでは、日本の使用済み核燃料は高い技術で、原発敷地内に極めて安全に貯蔵されていると断言された¹⁴⁾。1万件近い点検漏れが見つかり、2013年5月にもんじゅの試験運転再開準備を停止するよう命じられた日本原子力研究開発機構からの発言である。

ウラン産出国で、核不拡散の条件に適合し、安定的な民主主義体制をもち、技術や経済的支援においてコントロールしやすい人口希薄な国はモンゴル以外にはみつからない。日本政府にとって、モンゴル国民に本当に原発が必要か否かは全く問題ではないのである。

フクシマ後という文脈の下で、「モンゴルの原発導入は自国の判断」という常套句の裏に隠されたベネフィットを考えれば、モンゴルへの原発導入の選択の主体は自ずと明らかであろう。

2009年の4月、世界が感動したオバマ米大統領「核なき世界」の演説の中には以下のくだりがある。

Countries with nuclear weapons will move towards disarmament, countries without nuclear weapons will not acquire them, and all countries can access peaceful nuclear energy. To strengthen the treaty, we should embrace several principles. We need more resources and authority to strengthen international inspections. We need real and immediate consequences for countries

12 www.flanker.n.t.u-tokyo.ac.jp/modules/labDownloads/index.php?... 文部科学省原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブにより実施された「国際核燃料サイクルシステムの構築と持続的運営に関する研究」の成果がもとになっている。

13 技術等検討小委員会(第9回) 資料第1-2号に「核燃料サイクルの多国間管理について」「最近の多国間管理研究の例」2編の発表用スライドが示されている。なお、「国際核燃料サイクルシステムの構築と持続的運営に関する研究」(研究開発期間 平成22年度～平成24年度)の受託者は国立大学法人東京大学、研究代表者は大学院工学系研究科田中知氏、再委託先は独立行政法人日本原子力研究開発機構である。

14 『モンゴル通信』(国営モンツァメ通信社) 2011年8月12日4面

caught breaking the rules or trying to leave the treaty without cause.

And we should build a new framework for civil nuclear cooperation, including an international fuel bank, so that countries can access peaceful power without increasing the risks of proliferation.

現在の核兵器保有国が特権的に核兵器を保有し続けるが、世界のすべての国に核反応炉を作れるようにする。ただし、その核燃料が兵器に転用されないように international fuel bank を作るというのである。

この計画を実行するためには、プルトニウムを燃料化し、核のゴミ捨て場を作らねばならない。オバマ政権にとって、プルトニウムを一部燃料とする福島第一原発の事故は大きな痛手であった。

米国保守系電子メディアは2011年7月「米国モンゴルへ核廃棄物投棄を促進」と、国内最終処分場予定地ユッカマウンテンを放棄したオバマ政権の立場を報じているが¹⁵⁾、前月6月の米国議会用資料 *Mongolia: Issues for Congress* には以下のような記述が含まれている。

民主主義体制のモンゴルは広大な国土に人口が希薄で都市への人口集中が高いため廃棄物最終処分場の候補地としてすぐれている。しかし、非核武装宣言は核廃棄物の受け入れの阻害要因であり、2011年4月、モンゴルエネルギー省は廃棄物引き受けには法的根拠がないと強く否定している。他国同様、民衆の反対も根強い。ただし専門家たちはこのモンゴルの方針が変更されることがあり得ると信じている。あるアナリストは《使用済み核燃料》は場合によって《核廃棄物》とは別の定義が可能になると指摘している。専門家によれば、使用済み核燃料貯蔵に関する国際間合意は、中国の影響力との均衡のために、モンゴルのロシアとの結びつきを深め、モンゴルで採掘され、ロシアで燃料化された使用済み核燃料の貯蔵が合意されるかもしれない¹⁶⁾。

オバマの核燃料バンク構想に先立ち、既にロシアは、2006年の現地住民での強い反対にもかかわらずアンガルスクに国際ウラン濃縮センター(IUEC)を建設している。この施設によって、イラン等の国際制裁下にある国々を含め、国内でウラン濃縮できない国に対して、ウラン燃料供給が可能になった。原発ビジネスでのロシアの強みは使用済み核燃料の引き取りというバックエンドにある。

かつて遊牧の国であったモンゴルにとって、農耕の国中国は生産・生活の様式で常に対立、敵対する国であったが、常にまた最大の貿易相手国でもあった。そして、現代モンゴル国にとっても中国は最大の取引相手であり、最大の脅威でもある。中国の影響力を牽制するためには、同じく中国と国境を接するロシアとも手を組む必要があり、双方にとってウラン開発協力は不可避という分析だが、読みかえれば、モンゴル産のウランを燃料化して使い、そのゴミを資源と言い換えてモンゴルに戻せば、事実上、日米が窮する核燃料サイクルのバックエンド問題を解決できるということである。

1999年に設立された中華人民共和国の国策企業、中国核工業集团公司(China National Nuclear Corporation 略称CNNC)は、2012年6月、モンゴル国のゴルバンボラクのウラン鉱山についての契約をモンゴル国エネルギー庁との間に成立させていると公表している¹⁷⁾。

15 NEWSMAX.COM Ken Timmerman "US Promotes Nuclear Waste Dump in Mongolia" July 18 2011

16 Susan V. Lawrence *Mongolia: Issues for Congress* June 14, 2011

17 http://mric.jogmec.go.jp/public/news_flash/12-27.html#50 はモンゴル側の7月の発表を報じている。

2012年9月には、モンゴル大統領がイランを訪れ、ウラン濃縮技術が平和利用目的に使われていると世界に向けて宣言した。ロシアの意向に沿って、米国にとって最大の脅威であるイラン核開発に直結する技術を支持した格好だが、実はロシアのビジネスモデルこそ、モンゴルの CFS (包括的燃料サービス) の原型であり、大統領の発言は日米のシナリオに沿ったものだったとも言える。

核不拡散を条件に、新たな国に原発を売るためには、核兵器の材料となる核廃棄物プルトニウムを当該国に置かないことを担保せねばならない。イランの原発は IAEA 査察下でロシアが核燃料供給と使用済み燃料回収に責任を持つ条件で容認されている。近年イスラエルがサイバー攻撃を仕掛けたとも言われるナタンズの濃縮施設が安全だとモンゴル大統領が言い切るの、ロシアの「揺りかごから墓場」までの燃料サイクルの全面支持であると同時に、モンゴルが自国産ウランのバックエンドとなる可能性の示唆とみることもできる。

無論、米国が手を拱いてモンゴルをロシアや中国の核産業のなすがままにしていたわけではない。

2012年3月にはモンゴル国は互惠関係を NATO と結び、正式のパートナーとなった。これは、大国に挟まれたモンゴル国の安全保障上の知恵であり、中国、ロシア以外の「第3の隣国」との関係強化の一環であるが、冷戦終結以降の NATO 再編下で、TPP などの環太平洋構想をもつ米国にとって、中国、ロシアに対する軍事的基盤を確立しつつ、集団的な安全保障の枠内で、ウランの核燃料化や再処理をも視野に入れるモンゴル国に原発を導入し、核燃料サイクルのバックエンドを確保するための布石でもある。

核廃棄物の最終処分場をもたない日本の原子力推進者にとっても、「核燃料サイクル」という「物語」がなくなれば、中間貯蔵という廃棄物処理の先送りも、原発輸出も不可能になり、溜め込んだプルトニウム保有の大義名分さえなくなってしまう。「核燃料サイクル」という「物語」の維持には日本人の目に見えない場所にバックエンドを置くことが不可欠なのである。

東京大学大学院 GCOE プログラム国際保障学研究会は「核燃料サイクル」の構想を以下のように説明する¹⁸⁾。

バックエンド対応(使用済み燃料再処理、HLW 処分)体制確立と並行して、短中期的措置として上述の国際使用済み燃料中間貯蔵(多国間管理による)を設ける。中長期的には、プルトニウム等エネルギー源の効率的利用、使用済み燃料拡散対策、廃棄物の環境負荷低減を目指すことを基本とするため、使用済み燃料の長期貯蔵や使用済み燃料直接処分は考えない。国際核燃料サイクル国は、有効かつ効率的なエネルギーの確保のためにプルトニウム利用(サーマル、FBR)の推進に努める。再処理により得られたプルトニウムについて、非サイクル国は、燃料サイクル国(主に核兵器国)にプルトニウム所有の権利を譲渡する。その代償として等価の代替エネルギー源または経済的支援が補償される。参加国すべてがその国の特性や能力に応じて長期的な HLW の処分について検討・立案する。但し、他国における HLW 処分が可能となる場合は、そのオプションを排除するものではない。

「日本・モンゴル経済連携協定(EPA)官民共同研究報告書」には、「トランジット輸送の通過ポイント

18 「核不拡散から考える「国際(地域)核燃料サイクル構想」の研究」平成21年3月東京大学大学院 GCOE プログラム (GoNERI) 国際保障学研究会 http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/nonproliferation/docs/asia_fuel_cycle_kuno.pdf

の構築及びトランジット輸送に係る関税の削減に関するロシア連邦及び中華人民共和国との緊密な協力」が明記されている。いまま水面下で活動が続いているらしいモンアトムジャパン社は、2011年5月以降もしばらく、自社ホームページ上に地図入りで、モンゴルのウランが中国からロシアのザルビノ港を経て、秋田、新潟、福井へと運ばれると喧伝していた¹⁹⁾。そうした計画は中国とロシアの協力なくしては成立しない。ある意味で、モンゴルの核廃棄物最終処分場計画はアメリカと日本だけではなく、IAEA 指定理事国ぐるみの企みと言えるだろう。

2012年5月モンゴル政府投資計画書に核廃棄物貯蔵施設費用が計上されていたことが発覚した。モンゴルの市民団体の告発に、モンゴル政府は、予定施設が既に被曝被害が問題視されているウラン鉱地域の放射線調査目的のものであるとして幕引きを図った。

当該のドルノド県のマルダイを調査した大阪大学今岡良子氏らの計測結果をモンゴル政府関係機関は否定したが、その後、同地を訪れた西村文和氏は $24 \mu\text{Sv/h}$ をこえる放射性残土が警告なしに放置されている事実を伝えている²⁰⁾。

どこの国でも核廃棄物が置かれる場所は既に核汚染が存在する場所である。核兵器実験場か、ウラン鉱山の周辺、あるいは核施設のあった場所ということになる。ドルノド県にはソ連時代からのウラン鉱山があり、地下深くに長く続く巨大なトンネル施設があると言われている。そして、ウラン採掘後の残土や放射性物質が十分な管理なく放置されている。モンゴル東部のドルノド県は降水量が極端に少ないモンゴルにあって比較的豊かな水があり美しい草原を抱える土地である。東部の草原はウランバートルから遠く、古くからブリヤート系モンゴル人が多く住む場所でもある。首都ウランバートルに住む人々の電力需要に応じて、マイノリティーの暮らす産業の乏しい遠隔地に原発を建築させようとするのは、福島や六ヶ所村の構造ごとの原発輸出と言ってもよいだろう。

問題は東部地域だけで起こっているわけではない。ドルノゴビ県のウランバドラフ郡ではフランスのアレヴァ社の子会社となるコジェゴビ社のウラン試掘によって家畜被害が出ていることが報道されている²¹⁾。井戸からセレンが検出されたが、家畜の死と放射性物質との関係は未だ不明である。同地域では家畜の奇形が頻発するとの報告もある。いずれにせよ、広く牧民の生活圏でウラン開発が行われていることは事実である。

モンゴルの遊牧は、勝手気ままに移動するのではなく、家族を中心とする生産と消費の共同体が四季を通じて、長年利用してきた牧草地を定期的移動する仕組みである。四季の牧草の状態に応じて、人間と家畜が環境にある程度の負荷をかけることによって、草原の生産性を最大限に生かして、循環的な土地利用を行う。雨量の少ない草原で、同じところに留まって家畜を飼うと草原の生産力より採食圧が高まり、草原が疲弊して、砂漠化を引き起こす。砂漠化の原因は遊牧民の過放牧という説明は、多くの場合、遊牧民を追い出す口実に過ぎず、むしろ、定住化が草原破壊の原因である。モンゴルの大地は、富み過ぎず、乏し過ぎない生き方を理想とする牧民たちの営みによってまもられてきた。

しかし、近代主義的な発想からは、彼らの生活様式は人間性の乏しい遅れたものとみられてきた。

19 <http://www.monatom-j.jp/sub4.html> は既に削除されたがWEB上を画像検索すればコピーを見ることができる。

20 ラジオフォーラム 2013年1月12日 <http://www.rafjp.org/program-archive/00/>

21 "Арева"-гийн охин компани "Кожеговь" уран олборлохдоо ямар бодис хэрэглэдэг вэ? 2013 оны 2-р сарын 19, Мянгар гариг, 10:23 http://www.times.mn/index.php?option=com_content&view=article&id=15102:qq----qq-----&catid=11:2011-09-12-13-41-04&Itemid=23等を参照

戦前の内モンゴルで遊牧の調査を行った今西錦司も例外ではない。彼は近代主義的な立場から明確に予言している。「そこでかりに地下の埋蔵資源というものを考えてみるのであります。すなわち草原や砂漠の下から、鉄や石炭がたくさん見つかったとする。するとここで蒙古の自然に対する価値標準というものが一変するのではないかというように考えられる。・・・人間の意志と技術とで、ことをおしすすめてゆけるのである。・・・それは純粋な人間の標準にしたがった自然の利用である²²⁾。」

遊牧を「人間的特質の少ない生産様式」と主張した今西錦司の言う「純粋な人間の標準にしたがった自然の利用」がいまや主流となり、モンゴルのエコロジカルな自然の利用が劣勢になった結果、現在、モンゴルの労働人口の中で農牧業が占める割合は30%程度、GDPに占める割合は14%程度であり、伝統的な遊牧に従事するものはさらに少なくなった。モンゴルの土地のまもり手はもはや完全にマイノリティーなのである。

モンゴルの自然の守護神たる牧民たちこそが、モンゴルのウラン開発で最も大きな痛手を被る人々である。ドルノドやドルノゴビの例が示すように、牧民には十分な情報が与えられていない。

2001年当時のモンゴル国首相エンフバヤル(のちの大統領)は英誌のインタビューに答えて、It is not my desire to destroy the original Mongolian identity but in order to survive we have to stop being nomads と発言している。記事の見出し No Room for Nomads²³⁾ が象徴するように、21世紀、モンゴル国は、グローバル化の嵐の中で、土地所有を前提としない稀有な農牧業中心の国づくりから、父祖が厳しく禁じた大地を掘りかえす地下埋蔵資源開発による国家経営へと大きく舵を切った。それから10年、Mongolia が 'Mine-golia' になったと揶揄されるほどの鉱業ブームに沸いても、それは国民すべてに豊さをもたらしたわけではない。地下埋蔵資源開発で巨大な富を手に入れたのは外国資本と採掘権ビジネスに関わる一部のモンゴル人である。地中海に壮麗な別荘とクルーザーを所有するような富裕なモンゴル人ビジネスパーソンが登場し、ウランバートルの高層ビルに高級ブランド店が軒を連ねるようになって、モンゴル国の貧困率は2012年の推計でも29.8%である。

モンゴルへの原発輸出は、モンゴルの大地と水を放射能で汚染するだけでなく、既に危機にある叡智に富む遊牧という暮らしと文化を消滅させる「とどめの一撃」である。命を育む大地は売買の対象ではないことを証す数少ない生活様式、遊牧の絶滅は、人類と地球にとって、想像を絶する大きな痛手をもたらす悲劇である。短期的な一部への経済効果などではなく、人類史的な観点からみた場合、はたして、モンゴルのウラン開発に受益者は存在するだろうか。

Ⅲ 原子力“バックエンド”最前線としてのモンゴル

2013年3月9日、NHKBS1で放送された「原子力“バックエンド”最前線 ～イギリスから福島へ～」は、東京電力福島第一原子力発電所の事故処理をうけ、「事故処理先進国」イギリスをルポした興味深い番組であった。番組の終盤にロンドンで開かれた UK Civil Nuclear Energy Showcase というイベントが紹介される。その原子力産業のワークショップに参加したイギリスの原子力廃止措置機関 Nuclear Decommissioning Authority (NDA) の職員が強い関心を示すのが、中国の代表団の発表である。

22 今西錦司「草原の自然と生活」(1944)『遊牧論そのほか』(平凡社ライブラリー971)46-47頁

23 David Murphey: No Room for Nomads, *Far Eastern Economic Review*, May 31, 2001

中国代表は北京から1500キロ離れた“remote area”に最終処分場を選んだことを誇らしげに語る。番組で紹介された中国 CNNC による発表の概要は WEB 上で知ることができる²⁴⁾。最終処分場とされる甘肅省北山周辺も、6つの最終候補地の中の内モンゴルも新疆ウイグル自治区もモンゴル族としての故地である。勿論、ウイグルやチベットの人々の土地でもある。

地元にもどった NDA の職員たちが、中国代表の語ったゴビ砂漠について語りあい、笑みをこぼす場面には戦慄を覚えずにはいられなかった。NDA を組織し、真剣にバックエンド問題に取り組むイギリスでも国内の最終処分場に苦慮している。イギリスにもゴビ砂漠のようなところがあればいいのにとイギリス人が思うのは無理もない。しかし、実際は、ゴビ地域であっても、本来、中国代表のセールストークのような無人の土地ではない。中間貯蔵地である内モンゴルも、新疆も、無主無人の無用の場所などありはしない。

2010 年 6 月、既にモンゴル NEA と中国 CNNC は原子力協力覚書を締結している。ゴビを核のゴミ捨て場にするという構想は中国ばかりでなく、1970 年代からフランスをはじめ、多くの国々が思い浮かべてきたことである。モンゴルが IAEA に加盟した 1973 年以降、IAEA から多額の資金援助を受けている。それらの背景には、モンゴルのバックエンドへの期待があることは否定できない。

原発導入はモンゴル国民に電力を安定供給するための必然ではない。世界屈指のウラン埋蔵量を誇るモンゴル国に原発と国際管理による核燃料精製の技術移転をセットで売り込み、世界の悩みの種である「核のゴミ」を「原発燃料の原料」として戻して、「中間貯蔵場」という名目で捨てるためである。

ゴビやモンゴル国をバックエンドにという構想は、単に人口の希薄さからだけでもたらされているのではない。モンゴル人が完全に他者化された存在だからである。

「福島事故の後、モンゴル一般の国民の原子力に対する世論は悪化しているが、モンゴル原子力庁関係者の原子力導入に向けた姿勢に変化はない」とする東京工業大学は既に 2011 年 10 月モンゴル国立大学で「将来の研究内容の議論およびその研究内容に適した研究炉の出力の選定、必要な関連施設の概要を議論した」と公表している²⁵⁾。モンゴルの世論より原子力庁関係者を重視する提案は「制御棒のような可動式燃焼反応度制御は一切不要で、安全はもとより安心を与える」と謳う 4S 系の原子炉らしい。モンゴルでしばしば耳にする「水のいらぬ卓上原子炉」の類である。世界のどこでも本格的実用に供されたことのない原子炉をモンゴル人に使わせてみよう日本人が考えた経緯を、この計画のきっかけをつくった人物自身が綴った文章から見てみよう。

・・・今はスモッグの影響がすくないが冬になるとひどくなるということであった。個人の家庭で暖房に石炭を使うので、これが悪いということである。しかも、モンゴルは石炭が豊富にあるが、質が悪いということであった。それなら分かる。それまで私はモンゴルでは小型原子力発電所を必要としているとばかり思っていた。聞かれたのもそのようなことばかりであった。しかし、実際は家庭で使われている石炭をなんとかしなければならぬということだとわかった。

「原子力発電所ではなく、熱供給用の原子炉のほうが適切なのではないですか」とダワアー先生に言った。「そうですね」とあっさりと同意の返事をされた。原子炉という原発という考えだけしか持っ

24 http://www.nuclearenergyshowcase.ukti.gov.uk/content/resourcelibrary/downloads/Day-1---Market-Briefings-and-Seminars-Stream-A_a915fc.pdf

25 <http://www.crines.titech.ac.jp/projects/collaboration/2.24.html>

ておられなかったようだ。ともかく、このスモッグ問題を解決したいという様子であった。後で調べたところによると、2005年度のウランバートルでの発電量は $3,000 \times 106\text{kWh}$ ということであり、熱需要は $6,000 \times 103 \text{ Gcal}$ ということである。これは電気と熱が拮抗していることを示している。両者のエネルギーを比較すると、発電量を電気エネルギーとして比較すると熱需要の方が大きく、元の熱エネルギーとして比較すると発電量の方が犬食いといったところである。なお、モンゴルの全人口は約250万人であり、そのうちウランバートルの人口は100万人である。

その後、郊外も見えておこうということで、ウランバートルの北東にある国立公園までドライブした。途中よく写真で見えるような放牧の風景が続いていた。車から降りて、暮らしぶりを見た。さすがに少年でも馬を乗るのはうまい。ゲルでの生活はのどかに見えるが、やはり貧しい。これから良いところは残しながら、豊かな暮らしに向かってうまく発展していったらいいと思った。

熱供給炉は消費地の中あるいは隣接して建てざるをえない。今までの原発の歴史は原子炉を消費地から遥かに離れた土地に建て、送電線で消費地まで送っていた。このため、建設地において、なぜそこに建てるのかという疑問や客観的に決められない地元補償費等をめぐって難しい問題が発生した。熱供給炉なら熱を欲しい人達が自分の土地に建てることになる。リスクとベネフィットを蒙る人達が別々にならない。原発のような問題は生じない。健全な発展が望めるのではないかと思った²⁶⁾。

牧民の豊かな暮らしと都市生活者の熱需要供給のための核反応炉がどうむすびつくのかは判然としないが、この小型原子炉のパイオニアの文章からはっきりと読みとれるものは、モンゴルへのオリエンタリズムと呼ぶべきものである。

原発の歴史始まって以来どこでも行われていない実験をモンゴルで行ってみたいとする態度と戦前の日本人研究者たちのモンゴルに対する態度が通底していることの自覚はないだろう。

満州第七三一部隊はモンゴル人をマルタと呼んで人体実験を行ったと言われている。軍隊とは一線を画すたてまえの西北研究所(所長今西錦司)のような、後に日本を代表する優れた学者を輩出したとされる研究機関においてさえ、少数の例外を除けば、多くの研究者がモンゴル人を他者化していたことは事実である。

満鉄の招待を受けて、「満蒙」を旅して、「人の住む地はそこばくの秘密をば納めたれども蒙古然らず」とうたった与謝野晶子は、現地に立ちながら、ほんとうのモンゴルを見ることができず、ついには「満蒙の新国家が若い勇敢な日本農民の大量的移民を望んでいる。」と叫んで、植民地のプロパガンダに協力することになった。

資源エネルギーをめぐって、「モンゴルには無人の荒野が広がっており、無限のビジネスチャンスがある。」といった最近の言説を目にすると、1930年代に「満蒙」について書かれた本を読んだことのある者なら、眩暈にも似た既視感を覚えるはずである。

1972年、東西冷戦が続く中、ニクソン・ショックの頃、日本は初めてモンゴルとの国交を樹立、翌年からの文化交流も着実な成果を収め、日本とモンゴル人民共和国は友好な関係を保ち、1990年の「民主化」以降は、人やものの交流が拡大し、その関係は一層深いものとなった。ODAをめぐる日本商社の贈賄事件や、日本人が加害者や被害者となる事件などもあったが、大方のモンゴル人の親日

26 関本 博「大草原の国での原子力利用 モンゴル見聞録」「原子力 eye」2007年1月号

本の姿勢はかわることはなかった。しかし、日本のモンゴルとの関係には反省すべき点は少なくないことを知る日本人は少ない。1939年のノモンハン戦争ばかりでない。多くのモンゴル人はアジア近代化の先駆となった日本の助力への大きな期待をかけたが、大日本帝国政府は、自国の権益を優先し、その期待を数度にわたって裏切ってきた。1907年以来、第1次日露協約でロシアの「外モンゴル」、日本の朝鮮の特殊権益を相互に容認し、第2次日露協約で両国の満洲権益の確認、第3次日露協約では「内モンゴル」の権益を西部はロシア、東部は日本に分割をすることを取り決めた。日本の敗戦後、1950年の春、オールドス、ウーシン旗のモンゴル蜂起に際し、中国共産党政府軍に編入されたモンゴル騎兵団がその鎮圧にあたり、ともに張家口の士官学校で日本人から訓練を受けたモンゴル人同士が日本刀で殺し合うような悲劇があったことも日本人は知っておかねばならない。そして、朝青龍問題報道の誤訳事件に見られたように、多くの日本人のモンゴル観が自文化中心主義を超えることができないままであることをしっかりと自覚しなければならない。

日本人は、「核兵器」を「原子力兵器」とは呼ばず、「原子力発電」とは言うが「核(反応炉による)発電」とは言わない。「核の平和利用」と言わず、「原子力の平和利用」と言う。日本人は、ほとんど無意識に「核」と「原子」という言葉を使いわけるとは。しかし、英語ではどうか。歴史的にはIAEAの名の元となった Atoms for Peace といった表現があったにせよ、英語では、「核」も「原子力」もすべて nuclear である。nuclear という現実を分節化する名辞が日本語に同時に二つあるということは、その現実をふたつの異なるカテゴリーで認識しようとしているわけだが、この認識は日本の教育によって人為的につくられたものである。この区別を普遍化しようとするのはエスノセントリズムに他ならない。不思議なことに、モンゴル語の原発には цөмийн реактор (nuclear reactor) という訳語があるにも関わらず、最近、атомын цахилгаан станц (atomic power station) という訳語がよく使われている。これが旧来のIAEAの名称から来るものか、日米の原子力分野での人材交流の結果なのかわからないが、今日のモンゴルの原発推進派が日本的な二つのカテゴリーの使いわけを好んで使うことは間違いない。この使い分けは、原発の仕組みが核兵器の材料であるプルトニウムの生産の道具であったこと、使えば使うほど、プルトニウム、核兵器の材料ができてしまうことを意識させない効果をもつものであろう。

モンゴル国のウラン開発のための国策会社モンアトム社のWEBサイトを開くと黄色い粉末を手づかみにする画像があらわれ、CO₂の削減のために原発がいかに有用であるかについての解説などがモンゴル語で掲載されている。(同サイトの英語ページの内容と一致しない。)それらのページを読んでいると、モンゴル国の市民は、ノーチラス号やディズニールランドとともに原発を受け入れていった1950年代の日本人同様、ある方向に誘導されているのではないかという印象が拭えない。

関係者が言うように、モンゴルへの原子炉導入が「リスクとベネフィットを蒙る人達が別々にならない」ことを理想に構想されものだとしても、日本やアメリカが自国で処理できないバックエンド問題を解決するために利用されるとすれば、リスクとベネフィットが公平なものだと言う主張は全く根拠を失う。

2012年、筆者が東京でモンゴルの核問題についての短い講演をした折、何人かのモンゴル人留学

生が感想を聞かせてくれた。理系の学生たちも、遊牧民の草地管理の合理性について初めて聞いたと語ったのである。無理もない。社会主義時代、ウランバートルで高等教育を受けた者の多くは地方から首都に送られた成績優秀者であった。彼らもエリートであり、ただの牧民として故郷に帰ることは稀であったが、少なくとも、モンゴルの生活世界に対する実感をもっていた。しかし、いま、モンゴルの社会の中心となっている世代は遊牧的な世界との接点を全くもつことなく育った世代である。

モンゴルがIAEAの技術提供でウラン開発を行い、核燃料サイクルの一翼を担うということは、ウラン産出国として、核兵器や劣化ウラン弾の材料を世界に提供することであり、また核燃料のバックエンドにも名乗りをあげるのだということを、はたして、彼らモンゴルの若い世代の人々は正確に理解しているだろうか。

原発推進か反対かの立場を問わず、フクシマ後の日本人は、モンゴルのウラン開発と原発導入が、父祖伝来の土地をそのまま自分たちの後の世代へ引き継ぐことをモンゴル人に不可能にする選択であることを正確に伝える責任がある。

核開発はいつもいちばん立場の弱い人々に犠牲を強いるものである。多くのウラン鉱山をもつナバホ・ネーションのアメリカ先住民は現在も放射線被害に苦しんでいる。アメリカの核兵器工場で働いた愛国的労働者も、日本の原発で働いた日雇い労働者も同じである。そして、福島第一の事故によってふるさとを奪われた人々がリストに加わった。

多様な生態環境と文化環境こそがふるさとである。善き社会や善き生は、抽象的な観念の中にあるのではなく、海辺のふるさと、山のふるさと、草原のふるさと、湖のふるさと、砂漠のふるさと、商店街のふるさとや、工場のあるふるさと、摩天楼の林立するふるさとの暮らしの中にある。

今日、鉱山を抱える草原ばかりでなく、ウランバートル市内の放射線汚染も進んでいる。ウランバートルの129の井戸水のサンプルの分析から高いウラン値が検出されており、これが住民の間に様々な慢性疾患が増えている原因の1つではないかという指摘がある²⁷⁾。また、先日、ウランバートルを訪問した日本人ボランティアの計測によれば、ウランバートル市内の空中放射線量は東京よりはるかに高く、福島県会津若松市での計測数とほぼ同じ程度であったという。空中放射線量が高いことの理由はモンゴル国環境当局から正式に発表されていないが、石炭から出る重金属やウランなどの放射性物質との関係がとりざたされる。ウランそのものを掘らなくても、レアアースの採掘は放射性物質を地中から大気内に持ち出すことを意味している。モナザイトなどからレアアースを生産するときにウランやトリウムなどの放射性物質が出ることはよく知られている。中国内モンゴル自治区には世界最大のレアアース鉱床があり、遊牧民に壊滅的打撃を与える環境破壊が続いている。南北モンゴルでは、開発の名のもとに母なる大地が次々に掘りかえされ、残土が無造作に放置され、放射能が風に舞い、井戸水が汚されている。モンゴルの子どもたちはその中で生きていかねばならない。

いまモンゴルの反核運動を支えるSNSで結ばれた人々をはじめとする若い世代の人たちの「ふるさとを金で売り買いすることなどありえない」という素朴で力強い信念が世界をもう一度包みこむとき、脱コンテクストによる普遍ではなく、生活世界というコンテクストに根づいた新たな普遍的価値が生まれると信じたい。

27 Jerome Nriagu, , Dong-Ha Nam, Titilayo A. Ayanwola, Hau Dinh, Erdenebayar Erdenechimeg , Chimedsuren Ochir , Tsend-Ayush Bolormaa "High levels of uranium in groundwater of Ulaanbaatar, Mongolia" Science of the Total Environment 414 (2012) 722-726

その時こそ、D. ナツァグドルジが「歴史のうた」(1936) で高らかに謳ったように、再び「モンゴル」という名が世界に轟く」だろう。核燃料サイクルの呪縛を断ち切った誇り高き人々の国の名として。

追 記

本稿の初校を終えたころ、心が凍りつくような報道があった。

「共同通信の世論調査で、安倍政権による原発輸出の推進方針について、賛成が計49.8%と、反対の計43.0%を上回り、前回5月と賛否が逆転した。安倍晋三首相が中東諸国やインドなどとの首脳外交でトップセールスを展開したことが支持増加につながった可能性がある。前回は賛成41.0%、反対46.2%だった。・・・男女別では、男性が賛成61.7%で、反対の36.4%を大幅に上回ったが、女性の賛成は38.7%にとどまり、反対の49.1%を下回った。年代別は、若年層(20～30代)で賛成が65.0%だったのに対し、中年層(40～50代)では44.6%、高年層(60代以上)では41.8%と若い世代ほど原発輸出を容認する傾向がある。」(2013.06.02 共同通信)

この世論調査結果発表の数日後、安倍総理はフランスのオランド大統領と首相官邸で会談し、民生原子力エネルギーに関するパートナーシップ強化を謳う、《安全保障・成長・イノベーション・文化を振興するための「特別なパートナーシップ」》という名の共同声明を発表した¹⁾。

日仏は、燃料サイクル及び高速炉を含む第四世代炉の準備におけるパートナーシップを深め、ヨルダンなど第三国での受注を目指す日仏合弁企業を両政府が側面支援し、核燃料サイクルや高速炉の研究、廃炉や除染で協力することを決めた。こうして、東南アジア向けの原発輸出も視野に入れた原発セールが加速していくなか、日本では、自国の原発稼働に反対しながら、原発輸出を容認するという若者が増えているというのである。

核燃料サイクルという虚構が続く限り、原発と核のゴミの問題は永遠にわが身にはねかえってくるという現実が全く見落とされている。

『核燃料サイクルの日本型性能保証システム 研究専門委員会 最終報告書』(2012年09月30日 日本原子力学会)のもととなった中間報告書には以下のような記述がある²⁾。

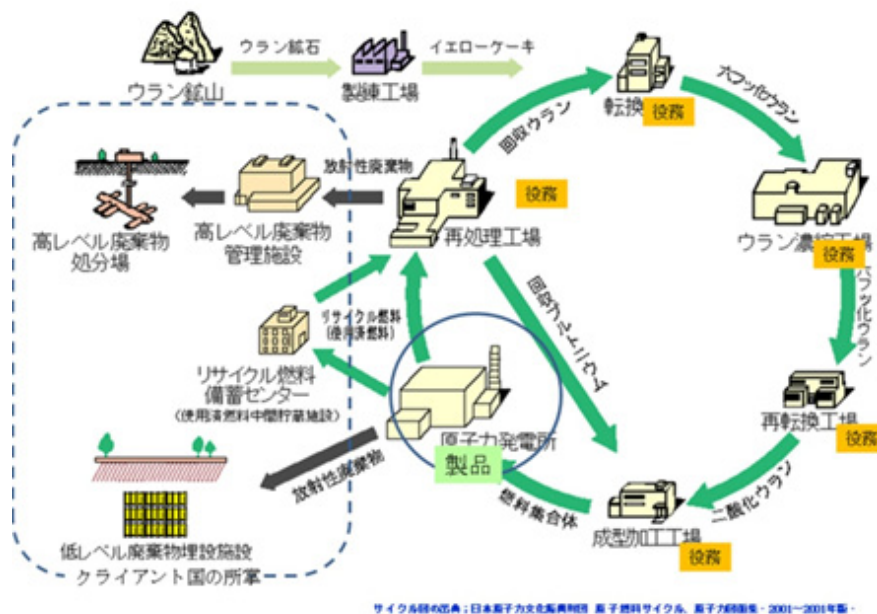
1 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000006048.pdf>

2 「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会 中間報告書
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/SEPP/research/documents/report201012.pdf>

『「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会最終報告書』(日本原子力学会、「核燃料サイクルの日本型性能保証システム」研究専門委員会 平成24年9月)は、中間報告と違い、即座にアクセスできる電子ファイルとしてWEB上に公開されていない。国立国会図書館からとり寄せた最終報告書を読むと、「平成23年3月11日に発生した原子力災害を目の当たりにしたことから、当委員会としても議論の軌道修正が必要と認識し」たものだという。「脱原発依存を進めるにしろ、依存の度合いは別にして原子力発電は当面存在するし、使用済燃料及び各種廃棄物も残存することから、それに必要な技術開発を含め、従来の「国策民営」を今後どのように国として統括するかについて改めて真剣に検討すべき時」としているが、「当初の目的は、我が国の核燃料サイクルの研究開発から事業化の過程で生じた様々な問題、特に現在六ヶ所村で試運転中の再処理技術について、これまでどのような統治機能が働いていたのかを調査し、今後の我が国における核燃料サイクルの研究開発に関するガバナンスのあり方を提言することであった。これについては平成22年12月15日に公表した中間報告で報告した通りである。」と述べ、「我が国の今後の核燃料サイクル技術開発を進め、その事業化を成功に導くには我が国独自の「技術継承・技術移転」プログラムを策定し、それを長期的に推進することが不可欠であるとの認識で一致した。」と中間報告の主張を繰り返し、原発輸出と核燃料サイクルをパッケージとしていく姿勢の堅持を明確に示している。

原子力発電所を海外市場に売り込む場合、特に開発途上国に対しては、発送電設備や運転保守技術まで含んだ、パッケージ化をする必要があり、韓国、ロシアが勝ち取ってきた背景にはこれらを両国が先導して保証したことがあげられる。もちろん、それだけではなく、国同士の軍事面も含めた広範囲な取り決めが裏にあることは周知の事実ではある。我が国としても、原子力発電所を海外に輸出するにあたっては、軍事協力はともかく、国を挙げて売り込みを図ることが不可欠と考える。・・・・

さらに、「原子力発電所の輸出におけるバーゲニングパワーとしての核燃料サイクルサービスの概念」という名の図と注が付されている。



* 主たる輸出品である原子力発電所を売り込むため、国として核燃料サイクルサービスを保証することが、バーゲニングパワーになる。これが、高度な核不拡散技術と放出低減技術を背景とした我が国独自の技術で構成されていれば、諸外国に対して、より強力なメッセージを発信することができる。但し、廃棄物処分についてはクライアント国の責任とすることが基本。

後発の日本が外国に原発を売るということは、燃料サイクル、つまり再処理や廃棄物に関するなんらかの役務を引きうけることを意味している。それはまさに、日本が核兵器の材料と世界で最も危険な廃棄物の処理を請け負うということである。

そして、原発を輸出することは、世界を核のゴミ捨て場にするに他ならない。勿論、原発を買う側は廃棄物処理の面倒は回避したいと願うだろう。売る側は、ならば、核燃料の原料産出国を原発保有国として、ウランの採れた場所へ戻せばよいと持ちかける。これが CFS (包括的燃料サービス) 構想の真の姿である。

実際、2011年7月、東芝は、モンゴルで採掘・加工されたウラン燃料を国際市場に供給し、その使用済燃料に限りモンゴルが引き取り、再処理までの間、中間貯蔵する CFS 構想が「世界的な核不拡散体制の構築という点で意義があること、および核不拡散体制に協力していく当社の立場に変更がない

と米国政府に宛て書簡で伝えたと公示している³⁾。

モンゴルを核のゴミ捨て場にする話はフクシマ後の苦し紛れに出てきたことではない。現在の国際原子力エネルギー協力フレームワーク (International Framework For Nuclear Energy Cooperation、IFNEC) の原型 (GNEP) は米国エネルギー省から2006年2月に発表されるが、わずか、10日後には、日、米、仏間で国際原子力パートナーシップのサポートによるナトリウム冷却型高速炉の研究と開発準備の合意がなされている。

そして、2006年3月21日、ジグジッド在日本モンゴル大使が東京工業大学関本教授を訪問、小型原子炉について情報交換するのである。間髪を容れず、2006年3月26日、エンフボルド首相が来日する。

同年6月のブッシュ・小泉会談の合意に関する経産省「日米原子力エネルギー共同行動計画 (概要)」には「廃棄物管理WG：両者は、先進的な廃棄物形態やサイトを特定しない処分場概念の開発に強い関心を有していることを表明した⁴⁾。」と記されており、2006年8月10日、小泉首相がモンゴルを訪問した。翌年、2007年、モンゴル・アメリカ科学研究センターがウランバートルに設置され、2008年2月、モンゴル首相が来日して、「50万kWの小型原発をもちたい」と発言するに至るのである。

原発輸出と日仏共同声明は、まるで、フクシマはなかったかのように、時計の針を戻した。本文で示したように、2011年5月以降、日本政府と日本の大手メディアはウランということばをモンゴルに使用しなかった。しかし、2013年6月11日の日本経済新聞はモンゴル外相の訪問について以下のように伝えた⁵⁾。

「外相会談で岸田外相は「重層的かつ戦略的に対話を積み重ねたい」と呼び掛け、ボルド外相は「エルチ・イニシアチブの実現を重視している」と述べた。モンゴルは石炭やウラン、レアメタルなどが豊富で資源開発での協力を重視している。」

同日、新華社の日本語経済ニュースは、《中日が“モンゴル資源争奪戦”》という見出しで、日中間でモンゴルのウランの争奪戦が行われていると日本の各商社名をあげて、報道している⁶⁾。中国への牽制という錦旗があれば、もはや、モンゴルのウランは国民に隠すべきものではなくなったのである。

「サイトを特定しない処分場概念の開発」のすべての道がモンゴルに通じている。

しかし、十分な情報をもち知的に訓練された人々 (一部のメディア関係者や官僚、そして原子力産業関係者でさえ)、原発輸出にパッケージ化が必要と言っても、現実には六カ所村の再処理事業もうまくいかず、もんじゅも稼働していない状況下では核燃料サイクルは絵に描いた餅であり、日本がバックエンドに関わることはあり得ないと考えている。全くの正論であって反駁の余地はない。しかし、1930年代から40年代の初めに起こった多くのことも、知的な人々にとって、不合理で、あり得ないはずのことであったことを思いおこすべきではないだろうか。

日本の若年層のマジョリティーに是非、理解してもらわなければならない。

自分たちと同じように、モンゴルの人々が核のゴミを拒否する権利があることを。モンゴルのウランでの核燃料サイクルの物語を成立させる前提は、モンゴル国が民主主義国家であることである。従っ

3 http://www.toshiba.co.jp/information/11070501_j.htm

4 <http://www.enecho.meti.go.jp/topics/images/070426japanese.pdf>

5 http://www.nikkei.com/article/DGXNASFS1103R_10C13A6PP8000/

6 <http://www.xinhua.jp/socioeconomy/economy/348847/>

て、モンゴルは中間貯蔵場という名の最終処分場に決してならないという民意が下されれば、核燃料サイクルは頓挫する。原発のゴミは核兵器の材料である。自分の家のゴミをそっと隣の庭に捨てるようなことはできない。原発輸出は自分たちの庭の核のゴミをいま以上にうず高くするだろう。かつて、日本の家電が世界を席巻したように日本の原発が市場に溢れることを夢みるなら、世界中どこにいても、核のゴミと出会い、被爆国日本が無用の核兵器の材料を世界に供給し続けるという悪夢をみつづけなくてはならない。

バックエンドをモンゴルに押しつけて、世界中に原発を売りつけなくても、日本の原子力産業は不滅である。放射線の恐怖がある限り、10万年後まで莫大な公金を使って廃炉や廃棄物処理を請け負い続ける極めて重要な産業なのだから。

(しばやま ゆたか)

「ウランは原爆の原料になる。私たちの大地から掘り出してはいけない」

－ 2012年、マルダイへ －

今岡 良子

はじめに

私は、2012年8月にマルダイに行きました。本稿は、その報告です。第一に、なぜ、マルダイに行ったのか？第二に、マルダイはどんなところだったのか？第三に、マルダイに行ったことに対する反応は？という3点についてまとめます。三番目については、次号に投稿します。

まず、「マルダイ」の説明をします。「マルダイ」とは、図1のモンゴルの最も東部、ドルノド県北部に赤い点が集中するウラン鉱山の1つ、マルダイ・ゴル鉱山の名前です。もう1つは、ウラン鉱山群の中心にロシア人労働者の町が建設され、「マルダイ村」と名付けられました。この村は、ダシバルバル郡の管轄にありますが、ダシバルバル郡、バヤンドン郡、セルゲレン郡の境界に位置します。

図1 マルダイ村の位



出 所：What Investors Should Know About Uranium In Mongolia <http://seekingalpha.com/article/313775-what-investors-should-know-about-uranium-in-mongolia>

次に、なぜ、遊牧社会の研究を専門とする私がマルダイに行ったのか？という説明をします。少し長くなりますが、おつきあいください。

2011年3月11日、東北大震災。次々と爆発する福島第一原発を見てしまった時、これからは原発問題に向き合わずに生きてはいけない、と思いました。

3月末、モンゴルのブログ「ゴロムト」 golomt.org が、モンゴルは核廃棄物処分場になると問題提起を始めていました。モンゴルに住む知人が見るようにと教えてくれたそのブログを私は毎日見るようになりました。

5月9日、毎日新聞に「日米が核処分場極秘計画」「モンゴルに建設」という文字が踊りました。モンゴルがトップ記事になるのは、1990年の民主化以来のこと、今回は会川記者のスクープです。事故だけではなく、もともと「トイレのないマンション」と言われ、行き詰まっていた原子力発電。そのトイレがモンゴルに作られる。また、トイレができることによって、原発はフクシマ後も生き延びる。この問題に向き合わないモンゴル研究などありえない。モンゴル研究者に育ててくれたモンゴルの大地と人々に恩返しするのは今だと思いました。

こういうことが積み重なり、モンゴルのウラン鉱山開発、原発建設、核廃棄物処分場建設についてインターネットで知り得る情報を集めるようになりました。日本環境学会や原水禁世界大会の科学者集会、日本科学者会議で報告しながら、現地に行き、自分で情報を集めたいという思いが強くなっていきました。しかし、マルダイに行くことを決めるまで、もう2つの寄り道をします。1つは福島、もう1つは会川記者が処分場候補地として伝えたバヤンタルです。

(1) マルダイに行くまでの福島とバヤンタルのこと

① 福島へ

モンゴルでフクシマの苦しみを繰り返さないためには、福島を自分の目で見て、自分の言葉で、モンゴルの人びとに伝える必要がある。福島に行こう。しかし、どうすれば、福島の市民の声を聞くことができるだろうか？　すると、ドキュメンタリー映画監督の藤本幸久監督が、京都大学原子炉実験所助教小出裕章のインタビュー DVD をフクシマで上映するキャラバンをするので参加しないか、と声をかけてくれました。私は迷わず、スタッフとして参加する返事をし、5月と8月に一週間ずつ滞在しました。

写真1 5月19日の放射線量「福島民報」2011年5月20日付け（撮影：今岡）



上映会場には常に100人を越える人たちが集まりました。DVDを上映した後、A4の感想用紙の裏表に思いを書き綴る市民、上映スタッフに語る市民、心に閉じ込めてきた福島市民の苦悩を受け止める場となりました。

写真2 上映会後の意見交換の様子(撮影：今岡)



当時、「がんばろう日本」キャンペーンの最中でしたが、マスメディアを通じて知ることのできない福島市民の複雑な思いを知りました。ここにまとめておきます。

「福島県全土が放射能で汚染されている」という小出裕章氏の言葉にすすり泣く人がいました。上映後、その人は「これですっきりしました。」その方は、家族で移住について話し合う決心がついたそうです。

「移住したいと思う。しかし、年寄りを置いては行けない。」

「今、避難したら、保証されなくなるかもしれない。」

「すぐに移住した人が、親戚からもひどいことを言われているので、移住できない。」

「爆発の翌日、福島を離れたけれど、ビジネスホテル数軒、宿泊を断られました。あれから外に出にくくなりました。」

「郡山ナンバーの車が落書きされた。福島県内を車で走るだけでも、白い目で見られているような気がする。」

「私は子どもを連れて今すぐにでも避難したいが、おじいちゃんがさせてくれない。山下俊一教授が公民館に来て、外で遊ばせても大丈夫だ、と言ったのでおじいちゃんは信じている。」

「学校が授業再開したので、休み続けるわけにはいかない。」

「学校の先生に 20mSv について聞いても、文部省が大丈夫だと言っているから、という理由でとりあってくれない。」

[次頁へつづく](#)

つづき

「ホームドクターが移住してしまった。」
「もうすぐ始まるプールが大丈夫なのか、心配。」
「給食を食べさせないように弁当を作っているが、いつまで続くやら」
移住したいが、そこで仕事が見つからなければ暮らしていけない。」

清朝の分断統治の特徴をモンゴル人は「仲のよい犬の間に骨を放り込む」と言います。日常生活に放射性物質を放り込まれた福島市民は、健康被害以前に、人と人、人と社会の信頼が崩れていくことに苦悩していました。人と人の関係性の崩壊という外から見えにくい被害をモンゴルの人たちに伝えなければならなかったと思いました。

2011年8月5日、京大原子炉実験所の小出裕章が、事故後初めて福島で講演することになり、キャラバンスタッフも、講演会をサポートしました。

写真3 小出裕章大演説会 福島・日本・世界へのメッセージ



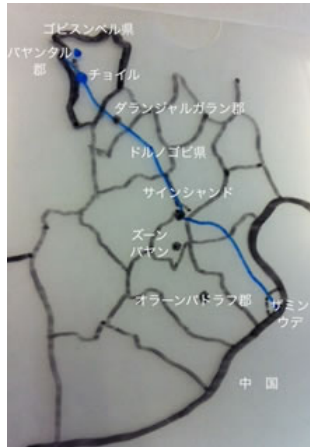
講演の後、市民がマイクを取り、様々な意見を表明しました。ある老人の言葉を下にまとめます。

「福島に生まれ育ち、農業以外に産業のない町に原発が来ることを聞いた時、若い人に雇用ができる、と喜びました。しかし、こんな事故が起こってしまいました。私は長年住んだ家も、田畑も捨てて、避難生活をしています。人間関係も崩れました。故郷を捨てなければならない苦しみ比べたら、電気がない暮らしに耐えることはできる。原発はいらない。心からそう思う。」

私は、この言葉をモンゴルの人びとに届けなければならなかったと思いました。

② バヤンタルへ

図2 バヤンタル郡の位置



8月、毎日新聞の会川記者が候補地の一つとして取り上げたドルノド県バヤンタル郡に行きました。バヤンタル郡は、ゴビスンベル県の北部、ウランバートルから舗装道路で180km。ここには北京とモスクワを結ぶ国際列車の駅があり、中国から陸送する物資が通る幹線道路がある。インフラは整っている。しかし、郡役場の建物は、旧ソ連軍と半分ずつ使っていた建物で、今は、電気もない。隣の経済特区チョイルに移住する人が増え、過疎化が進み、建物の荒廃が激しい。旧ソ連軍基地を何とか再開発したいという気持ちが伝わってくる所でした。

写真4 旧ソ連軍のアパート（撮影：今岡）



役場の前に座っている人たちに「核廃棄物処分場をここに作ると新聞で読んで、心配して来た」と毎日新聞の記事を見せて言うと、役場の事務長アンハーに会うようにと伝えてくれました。待っていると、サングラスにグレーのスーツを来た若者が現れた。農牧業大学を卒業して間もない若手の事務長です。

写真5 バヤンタル郡役場前(撮影：今岡)



まず、彼は「核廃棄物処分場建設については、いろいろ取りざたされたが、政府や県から公式の話としては聞いていない」と答えてくれました。そして、「自分たちの生まれ故郷、これから子どもたちが生きていくのです。郡民あげて反対です。そのことは県知事に伝えています。」と言葉を続けました。私はまずほっとしました。

福島現状を話すと、彼は充分知っていました。名前を聞きませんでした。行政関係者が参加する核関連のセミナーがあったそうです。それには周辺のゴミ地域の郡、ドルノド県からも行政関係者が来ていて、誰もが核廃棄物処分場など、とんでもない、という意見だったと言います。政府は地方行政担当者にセミナーを開くほど、何かを準備しているようです。アンハーは、核廃棄物処分場について「ここには来ないと思う。おそらくドルノド県だと思う。ドルノドに行くつもりがありますか?」と聞かれたので、「行ってみたい」と即答しました。また、「自分たちには情報が必要です。日本語のままでも、誰かが翻訳するので、送ってください。あなたはモンゴル学者なのですから、モンゴル語で書いて送ってください」と言われました。私は安心して、しっかりと握手をして、バヤンタルを後にしました。

写真6 アンハー事務長と握手(撮影：今岡)



バヤンタル郡は交通インフラが整っている。生活インフラはソ連軍撤退により機能しなくなった。チョイルが経済特区になったことをきっかけに雇用を求めて移住する人が増え、過疎化に悩んでいる。郡としても若者の雇用、政府の集中投資による近代化を望んでいる。

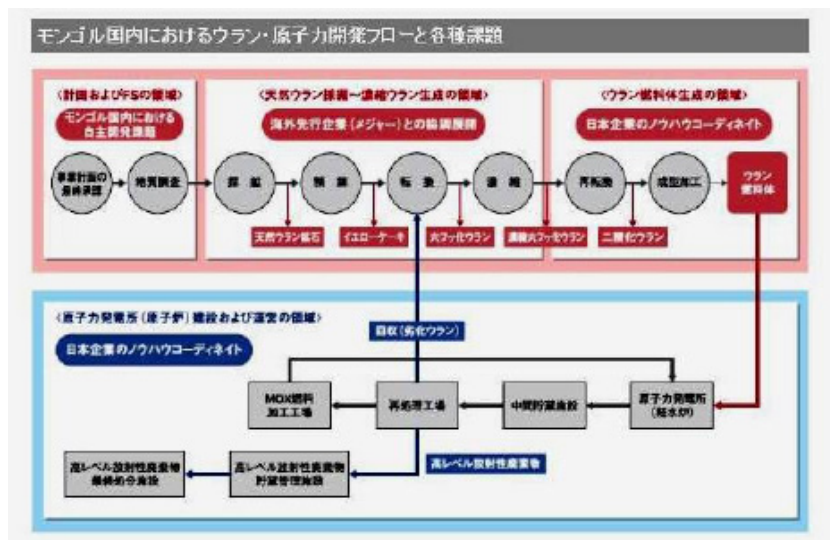
しかし、地元には核廃棄物処分場を受け入れてまで発展したいという民意が大勢ではないことがわかりました。また、モンゴル政府も、ウランバートルから近すぎるバヤンタルに核廃棄物処分場を建設しないだろうと思いました。

(2)そして、マルダイへ

マルダイが候補地と考える理由は5つあります。

- ① モンゴルの最も東、ウランバートルから東に600キロ以上離れていること。
 - ② 少数民族ボリアド(ブリヤート)族が住むところであること。これは、東京電力の原子力発電所を福島に建設するのと似た構造を想像させます。
 - ③ マルダイはモンゴル最大のウラン鉱山でもあります。モンゴル政府は戦略的鉱床の中でウラン鉱床を3つ定めた。その3つとも、マルダイ村周辺にあります。
 - ④ 2011年12月、日本の原発関連企業などに情報を提供するシンクタンクの原産協会が、「モンゴルの原子力発電導入状況とウラン鉱業」に関する報告をまとめています。
- この中でソ連時代にウラン鉱山として唯一開発されたドルノド県のマルダイのことが詳しく書かれ、注目されていることがわかります。
- ⑤ モンアトム・ジャパンという政府直轄の国営企業の日本支社が大阪にあります。ウランの開発から核燃料サイクル、最終処分まで、またインフラ整備のコーディネートを行う企業です。

図3 モンゴル国内におけるウラン・原子力開発フローと各種課題



(モンアトム・ジャパンのホームページより)

このモンアトム・ジャパンが、モンゴルから日本にウランを輸出し、日本から核廃棄物を受け入れるためのインフラ整備の地図を web サイトに掲載していました。そのモンゴル側の出発点が、ドルノゴビ県を中心地、チョイバルサンであり、マルダイから近いことがあげられます。

図4 ドルノド県都チョイバルサンから日本へのルート



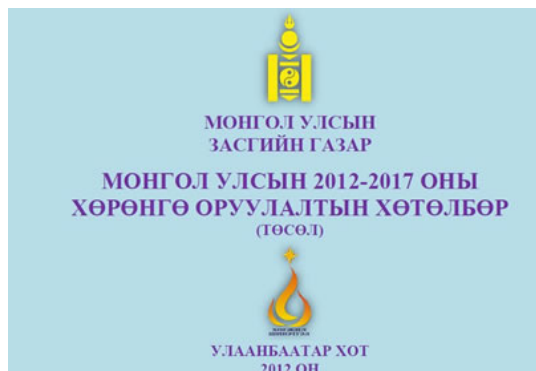
(赤字入りはゴロムト・オルグのホームページより〈原図はモンアトム・ジャパンのホームページ〉。)

モンゴル政府の核関連の事業を続けたいという意志も出たり、引っ込んだりしています。例を3つあげましょう。

① 2012年3月11日に、当時のバトボルド首相が来日、東北震災追悼集会に参加した唯一の外国人の要人でした。この時、当時の野田首相と話し合ったことは、外務省ホームページに要点がまとめられています。日本に出発する直前の共同通信のインタビューに対して、バトボルド首相はモンゴル発の原発を日本から投入する意欲を語っていました。英文の毎日新聞にもその記事が出ていました。しかし、来日後、共同声明や新聞のインタビューにも、ウランや原発という文字はありませんでした。

② モンゴルの各省庁から要求を出し、5月にバットボルド首相が全体を統括した「投資計画書2012年－2017年」の案、500ページ以上になりますが、1枚のpdfにまとめて、政府関連のホームページにリンクされました。それがモンゴルの反核運動家の目に止まり、「核廃棄物処分場建設」の証拠書類として公表する記者会見が行われました。

写真7 投資計画書の表紙



(出所：http://cabinet.gov.mn/images/editor/files/NEGTGEL-1.pdf)

この計画書は、部局案をバトbold首相が5月18日に政府案としてまとめたものです。500ページを越えるPDFにまとめられ、最初の説明のところでは、まったく核関連施設について触れられていませんが、最後の表に忽然と4つの核関連施設の予算がつけられています。

モンゴル政府 投資計画2012年～2017年 1T：1ドル：80円：1300T

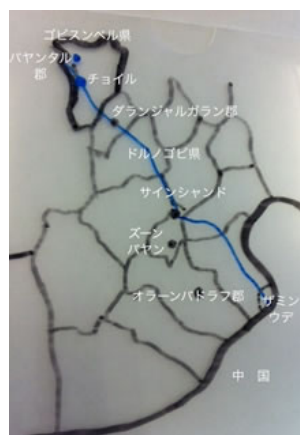
	計画内容	実施年度	予算	2013年	2014年	2015年
1	ダランジャルガララン郡で放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設(ドルノゴビ県)民間資本	2013～2014	50億T	20億T	30億T	
2	マルダイ村で放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設(ドルノド県)民間資本	2014～2015	50億T		20億T	30億T
3	放射性鉱物資源の保管、埋蔵施設と核化学実験所(アルダルトルゴイ)国費	2013～2014	10億T	4億T	6億T	
4	実験炉(ウランバートル市)国費	2013～2014	20億T	4億T	6億T	

出所 <http://cabinet.gov.mn/images/editor/files/NEGTGEL-1.pdf>

これは核エネルギー庁が作成した予算案です。具体的に3つの地名があげられています。ドルノゴビ県ダランジャルガララン郡、ドルノド県マルダイ村には「放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設」が民間資本で建設され、トゥブ県アルダルトルゴイには「放射性鉱物資源の保管、埋蔵施設と核化学実験所」を国費で建設する。さらに、ウランバートル市内に実験炉を国費で置く。

ダランジャルガララン郡とは、ゴビスンベル県のバヤンタル郡を過ぎ、経済特区のチョイルを過ぎ、ドルノゴビ県の入り口に位置する郡です。

図5 ダランジャルガララン郡の位置



チョイルの南北が放射性廃棄物処分場候補として名前をあげられるのはなぜか？今はわからないので、そのことを覚えておきたいと思います。

さて、この2つの郡の郡長や郡民は、このことを知っていたのでしょうか？

この50億トゥグルクというのは、この時のレートで換算すると、およそ3億円。これぐらいの金額で、放射性廃棄物、保管、加工、埋蔵施設が建設できるとは思えません。3億円で何をするつもりだったのでしょうか？人材育成や情報交流、キャンペーンのための費用だったのでしょうか。

③ 6月26日印刷と書かれ、7月4日、閣議決定された予算には、

	計画内容	実施	年度	予算	2013年	2014年	2015年
1	ダランジャルガラン郡で放射線測定施設建設(ドルノゴビ県)民間資本	2013～2014	50億T	20億T	30億T		
2	マルダイ村で放射線測定施設建設(ドルノド県)民間資本	2014～2015	50億T		20億T	30億T	
3	放射性資源の放射化学実験所(アルダルトルゴイ)国費	2013～2014	10億T	4億T	6億T		

同じ3つの地名でありながら、ドルノゴビ県のダランジャルガラン郡とドルノド県マルダイ村には、民間資本で、「放射線測定施設建設」と書かれています。予算は同じ金額です。トゥブ県アルダルトルゴイには「放射性鉱物資源の保管、埋蔵施設と核化学実験所」ではなく、「放射化学実験所」が建設されることになっています。予算は同じ金額です。杜撰な印象を受けます。

100万人を越える人口の首都ウランバートルに「実験炉」は建設しなくなったようです。京都大学の原子炉実験所ですら、京都になく、大阪の南端、熊取町にあります。この予算案を計上した核エネルギー庁の官僚は、自分が使う言葉の意味、中身、実態を知っているのでしょうか？大変疑問に思います。

5月18日に「放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設」と発表したものを、6月26日には「放射線測定施設建設」と書き換えました。これでは、机の上で仕事をする官僚が世論の反発をかわしたと言われても仕方ありません。

私は、「放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設」予定地から「放射線測定施設建設」予定地になったマルダイ村に行ってみたい。そこに住む人びとが、このことを知っているだろうか？どう思っているだろうか？という気持ちを強くしました。

翌年2012年8月13日、ゴロムト反核運動のメンバーで、マルダイのウラン鉱山ゴルバンボラクで放射線管理の仕事に従事していた若者レンスキーといっしょに、自家用車でマルダイに向かいました。

(2) マルダイへ

私にもそれなりの不安はありました。以前、金鉱山の町ザーマルに行った時、そこの長から、今すぐ出て行ってくれ、嗅ぎ回るな、と言わんばかりの扱いを受けたことがあります。ウランとなると、もっと厳しいだろう。

マルダイ村に行っても、柵が巡らされていて、中に入ることはできないだろう。きっと背伸びをして、中の写真を撮って帰ってくるのがおちだろう。

それでも、周辺に幕営する遊牧民からマルダイのことを聞くだけでもいいと思っていきました。今から思うと、無防備な格好で行ってしまったことを反省しています。

不安要素はありましたが、マルダイに接するバヤンドン郡を故郷とする知人が、応援すると言って

くれたので、出発することができました。いつもモンゴルの民族衣装を縫ってくれる元気な女性で、ボリアド民族出身。「核廃棄物処理場などできたら故郷を失う。ボリアド民族は滅びてしまう。」そう考えた彼女は、夏休みの帰郷を早めて、先にウランバートルを出発し、郡長は同級生だし、いろんな人を紹介しましょう、と言ってくれました。地元の人が受け入れてくれるなら滞在しやすい。彼女の日程にあわせて現地に入ろうと思いました。

(2.1) バヤンドン郡の中心地で

① A さんの木の家

13日朝8時、ウランバートルを出発。ドルノド県の中心地チョイバルサンには向かわず、ヘンティ県都のウンドゥルハーンを超えるとアスファルトの道からはずれ、車の轍を北上。21時、彼女の待つドルノド県バヤンドン郡着。車のメーターは665キロをさしていました。ボリアド民族の定住者は、木の家に暮らします。入り口を入ると土間があり、パンを焼いているおばあさん。彼女の母親です。ドルノド県では小麦を栽培しています。ドルノド小麦でもちもちとしたパンにツツギーというクリームをつけていただきます。手厚く迎えてもらって、最初の夜を過ごしました。

② バヤンドン役場の副長

14日、まず、バヤンドン郡役場に行き、訪問の目的を話しました。郡長は夏休みで県の中心地に滞在中、副長が応対してくれました。彼はモンゴル国立大学の物理学専攻。初めはとまどいながらも、こちらの話はすぐ理解してくれました。

また、原産協会の報告を研究生2人が翻訳してくれたので、そのコピーを渡しました。マルダイの詳細が日本語で書かれていることに驚いていました。

そして、副長自身、心配していることを話してくれました。

「自分の家畜は義理の父がマルダイから20キロのところで放牧していたが、3頭の家畜の肺が真っ黒なのを見て驚き、何か危険な状態にあるのではないかと郡長に話した。しかし、取りあってもらえなかった。その後、家畜はバヤンドン郡の北部に移した。」
「ロシアにウラン鉱を運んだ鉄道は、今は線路も撤去している。当時は、ウラン鉱を石炭と同じように覆いもせず輸送した。鉄道に沿った放牧地が安全なのかどうか、ずっと心配している」
「バヤンドン郡の役場、公民館、店舗、民家を建てるのに、マルダイの旧ロシア人労働者アパートや建築物を解体した建築資材を再利用し、現在も幼稚園を建てている。それが大丈夫なのか、ずっと心配している。」

副長は、心の中に閉じ込めてきたことを語ってくれました。打ち解けたところで、レンスキーは副長に提案しました。私たちがマルダイから帰ったら、公民館でフランス映画「ウラニウム」を上映したい。副長は、快諾し、支援してくれることになりました。バヤンドン郡の人びとと意見交換できそうです。

③ バヤンドン郡の家屋の放射線量

おばあさんの木の家に帰り、空間線量を計ってみました。0.2 μ Sv/時。ちょっと高いような、誤差のような数値です。隣の家はマルダイから建築資材を運んで建てたというコンクリートの家。0.4 μ Sv/時、おばあさんの家より2倍高い。途中で通過した隣のヘンティ県を中心地ウンドウル・ハーンは0.09 μ Sv/時でしたから、0.2という数字は、それより高いと言えます。

私は将来の核廃棄物処理場候補地を見ておきたいと思って、ここまでやってきました。しかし、すでに問題は始まっていることを知りました。マルダイ村を囲むようにウラン鉱山があります。バヤンドン郡とダシバルバル郡とセルゲレン郡、3つの郡の境界にマルダイ村があります。つまり、マルダイ周辺の住民は低線量被曝問題をすでに抱えているのではないか、と思いました。

④ ボリアド共和国に住むロシア人労働者

彼女の母は60歳。ロシア連邦に属するボリアド共和国のナーダム(祭典)は「アルタルガナ」と言い、昨年は7月20日頃アグアというところで開かれたそうです。母親はその時の話をしてくれました。

マルダイのウラン鉱山は2005年で閉山。地下鉱山の穴を塞ぎ、地上にあるものは黒いもの(鉛?)で覆い、そこで働いていたロシア人労働者はすべて帰国した。しかし、一部の労働者はモンゴルとロシアの間の境界地から出してもらえず、凍死した。なんとか、ロシア国境を超えた人はボリアド人の家で家事手伝いをして暮らしているのを見て何とも心が痛かった。

レンスキーによると、マルダイで働いていたロシア人労働者の中には、最も危険なところで働かされる囚人がいたので、そういう扱いをされたのだろう、と言いました。チェルノブイリの事故時にも囚人が使われたとモンゴル人はよく言います。スターリンの時代ではなく、ペレストロイカの後も囚人を労働者とするのか。大阪の釜ヶ崎から日雇い労働者が福島原発の処理をさせられたという記事がありました。古今東西、社会主義も、資本主義も、ウラン鉱山や原発の労働者はこんな目にあうのか。どこがクリーンエネルギーだ、と怒りを覚えました。

⑤ ロシア国境とバヤンドン間の道路

また、80年代にロシアにウラン鉱を運ぶために作った道路は、壊れてしまったが、一週間前から、ロシアからバヤンドン郡の中心地に向けて道路工事をしている。母は何度も首をかしげて言いました。「何かが始まっている」。

(2.2) マルダイ村へ

① ロシア人労働者のアパート群

今年のドルノド県は雨が多いそうで、道がぬかるみ、何度もスタックしそうになりました。途中、遊牧民の家で道を尋ねると、どの家にも太陽光パネルがとりつけてありました。草原の轍を走り、南下すると、こつ然と高層ビルが現れました。マルダイのロシア人労働者の宿舎です。窓ガラスはなく、天井はなく、床もない廃墟となっていました。空間線量は平均0.2 μ Sv/時。

写真8 廃墟となったマルダイ村（撮影：今岡）



このマルダイ村を管轄するダシバルバル郡で女性の医師が郡長をつとめていた2006年、時の首相エンフサイハンから郡の中心地をマルダイ村に移転するように言われたところがあるそうです。女性医師は当時を振り返り、放射線の危険性を知っているのに、どんなことがあっても移さないと拒否した、と言いました。その時の勇気はどんなものであったのでしょうか。その背景には、民主化運動のリーダー S. ゴリグのアドバイスがあったと医師は付け加えました。ゴリグがマルダイに郡の中心地を移してはならない、と強く支持してくれたとのだそうです。

写真9 廃墟となったアパート群（撮影：今岡）



② 家屋や商店、鉄道跡、工場跡

周囲にはロシア人が植えた白樺に似た広葉樹が育っていました。草原に立つアパート群と白樺の森、きっと美しい町だったのでしょう。ここには幼稚園、学校、公民館、お店、ないものはなかったと遊牧民が言いました。一戸建て住宅の並ぶ地域では、屋根や壁を解体し、トラックに積んでいる人たちがいました。上下水道も掘り出され、土管も、溝も、ふたもありませんでした。この風景は、市場経

済移行後、ネグデル関連施設がボロボロに解体され、建築資材としてリサイクルされるのを見て来た者としては驚くものではありません。しかし、中には放射線管理区域を示すマークをペンキで描いたドアを自宅の倉庫のドアとして再利用している家もありました。核廃棄物処分場は、フィンランドのオンカロでは10万年後の安全を想定して建設されるという映画がありました。モンゴルでは、30年前のソ連の建物や上下水道、電柱まで外して再利用するのですから、10万年後の安全を保障することはできないと思いました。

鉄道跡は草が覆い、こんもりとした長い丘になり、のぼってみると、有刺鉄線の一部が落ちていたり、サビで真っ赤になった線路の敷き石があったり、そこで線量を計ると $0.36 \mu\text{ Sv}$ でした。線路はロシアの方角からウラン鉱積地まで伸びていました。

住宅地から離れると、車両関係の倉庫や整備場だったと思われる建物の頑丈な基礎があちこちにありました。壁や屋根、土管などはありませんでした。

そこからどんどん奥に入っていました。柵もありません。白人の観光客らしき人が通訳と遊びに来ていました。

③ ウラン残土の山と鉱滓ダム

ウラン鉱の残土の山には、黄色い看板が建てられていました。英語で書かれているので、遊牧民には伝わるのでしょうか。社会主義の時代、ここを訪れた日本の地質学者はこの黄色い看板を見なかったと言います。西側の資本がマルダいの探査権を得た後で、英語の看板を立てたのでしょうか？ロシア人労働者がここを出る時には、黒いもので覆っていたそうです。モンゴル人がそれを持ち帰り、肉などの食品を包むのに使ったと言われています。

写真10 ウラン残土の山



レンスキーがこのウラン残土の山の裾で線量を計ると、すぐに警告音が鳴り、 $5.8 \mu\text{ Sv/時}$ を指しました。私たちは恐れをなして、すぐに車に戻りました。冬にフリージャーナリスト西谷文和がここを訪れた時、彼はぼた山をかけ上がりました。線量計は $24 \mu\text{ Sv/時}$ を指したと聞きます。

写真11 線量計5.8 μ Sv/ 時



(写真提供：Anti Nuke Movement Mongolia)

しかし、私が訪ねた飯館村は役場の近くで7 μ 、田んぼで10 μ 、浪江町との境界の長泥では25～30 μ Sv/ 時を指したことを思い出しました。福島はウラン鉱山の残土よりも空間線量が高い。放射性ウランを濃縮した燃料が原子炉から飛散したのですから高いはずです。

自然界にある放射性ウラン235は1%に満たないので、それを集めることを濃縮と言います。ウラン鉱山、特に残土にはウラン235はより少なくなっています。事故現場と比較するものではないかもしれません。

ウランバートルに戻り、大阪大学の物理の専門家に聞いたところ、ウラン鉱山ではラドンガスが発生し、ウランやトリウムのマイクロ粒子が飛ぶので、肺に吸い込まないようにして行くべきだったと注意されました。

写真12 鉱滓ダム (撮影：今岡)



その近くには巨大な鉱滓ダムがありました。この乾燥した大地のどこにこれだけの水があるかと思うほど、巨大でした。ここでウランの露天掘りをし、残土を捨てたそうです。

④「ウランを掘り出してはならない。」

マルダイ村の近くに夏営している牧民に家畜の異常がないか聞きました。自分の家畜に起こっていないし、他にも聞いたことがないと言いました。私たちは先を急ぎ、帰りにも寄りました。すると、羊を屠殺し、夕食の用意をして待っていてくれました。骨付きあばら肉の塩ゆです。その夜は、そこで泊まることにしました。1000頭の家畜を飼う優秀牧民で、太陽光パネルを持ち、TVと灯りがついていました。聞くと、このあたりで、太陽光パネルをもたない遊牧民はおらず、みな、家畜を増やして、電化を進めていました。ボリアド族の彼は、民族の歌を歌ってくれました。レンスキーはバヤンウルギー県で覚えたというカザフの歌を歌ってくれました。星空の下、草の上に座り、宴を楽しみました。

核廃棄物処分場の問題は、そういう話があるということを聞いたことがあるけれど、公には聞いたことがない、と遊牧民が言いました。そして、

「私は、放射線がどれぐらいなら大丈夫とか、危ないとか、そういうことはわからない。しかし、広島の前爆については学校で習ったし、自分で本も読んでみました。ウランは唯一核兵器の燃料です。だから、私のふるさとの大地から掘り出してはいけない。私が言えるのはそれだけです。」

私はこの時、大地に生きる遊牧民の思想に出会ったと思いました。マルダイまでやってきて、よかったと思いました。

祝島の原発反対運動が30年以上も続いたのは、海に根ざした生活があったからです。草原に根ざす遊牧の生活がある限り、マルダイ周辺の人々は核廃棄物処分場の受け入れに反対するだろうと思いました。

この時の動画を7分にまとめました。こちらをご覧ください。

<http://www.youtube.com/watch?v=Y39oaVhCm4M>

(2.3) マルダイからバヤンドン郡に帰って

① 副長と話す

マルダイは封鎖されていると思っていましたが、草原にこつ然と現れる町で、誰でも、家畜でも、どこからでも入れる状態になっていました。5.8 μ Sv/時のホットスポットもあります。風は強いです。廃棄物再利用者とその車が入りし、放射能で汚染された物を運び出しています。

レンスキーは「これはS.O.S. MARDAI!」と言いました。このまま放置してはいけない、と私も思いました。周辺住民の健康を低線量被曝から守らないといけない。そのためには専門家による本格的な調査が必要です。副長に話したところ、ずっとそう思っていたと話してくれました。

また、マルダイに「放射線測定所」を建設すると目的を書き換えられた「同額」の予算が、7月4日に閣議決定された。そのことを知っているかと副長に聞いたら、初耳だと驚いていました。地元の説明もせず、核関連の施設を建設するとはどういうことなのでしょう。

8月18日の「ウヌードル」紙は、国家発展計画委員会の説明を掲載し、この投資計画では病院などから出た放射性廃棄物を保管する場所を作るということでした。

繰り返しになりますが、5月18日に「放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設」と発表したものを、6月26日には「放射線測定施設建設」と書き換え、7月4日には閣議決定されました。それが、8月18日には国家発展計画委員会が「病院などから出た放射性廃棄物を保管する場所」を建設すると、また目的が変わりました。マルダイ村には電気も、上下水道もないので、ここに放射線測定施設を建設し、研究者や職員が働くことは想像できません。むしろ、鉱山ではなく、事業所から出た少量の放射性廃棄物なら、ウランの残土周辺に一時保管することは可能かもしれません。

それにしても、地元への説明は義務です。放射性廃棄物はウランバートルから長距離輸送され、ここまでやってきます。

副長と話し合いました。とにかく、あのウランのぼた山には人や家畜が近づかないよう、柵をしなければならぬ。マルダイに何かが建設されるらしく、それは、今の時点では病院の廃棄物を保管するレベルの建築物かもしれません。しかし、モンゴル全土でウランの探査採掘が行われているので、そのうち、残土の処分地が必要になります。一旦、保管したところを拠点に処分場ができるかもしれません。そしてさらに、8月7日の「ウォール ストリート ジャーナル」によるとアメリカ政府は、核廃棄物処理場問題が解決しない限り、原発の新規建設を凍結すると報じていました。原発関連企業はちまなこになって処理場を探すでしょう。マルダイにはすでに地下400メートル以上の深さで11キロに及ぶ坑道があると住民が言います。やはり、ここが核廃棄物処理場になる可能性は否定できない。

そうならないように、投資計画の予算を地元のためにひっぱってくる必要があります。すでに住民は放射能で汚染された建築資材を再利用して暮らしています。低線量被曝問題から住民の健康を守るために、放射線測定所を無人のマルダイ村ではなく、郡の中心地の病院に作るべきではないか、という話になりました。

② 映画上映の後、

バヤンドン郡の文化会館でフランス映画「ウラニウム」の上映会を行った後、化学の先生がマイクをとりました。

「数年前、マルダイのウラン鉱山の危険性を話したら、みんなに、気にしすぎると馬鹿にされた。30年後にがんになるという話をしても、寿命の短いモンゴル人は、今から30年は生きられるんだから大丈夫だと思ってしまう。体がだるいとか、病気になりやすいとか、影響を受けるのだが、忍耐強いのでそのまま過ごしてしまう。ウランの問題は貧困問題と結びついている。モンゴルには4000万頭の家畜がいる。すべての鉱山を閉鎖しても、私たちは飢えることはない。今日の映画を見て、私は自信を持った。地元で闘わないと、誰が守ってくれるのか。子どもたちのために、この大地を守るために、反対運動の先頭に立ちたい。」

心の中に閉じ込めていた思いがあふれ出て、他の住民は拍手で答えました。住民は立ち上がり始めました。

(2.4) マルダイで気になったこと

「ウラニウム」という映画を上映した時、奇妙なことが起こりました。2人の男女がレンスキーと私、観客の市民の写真を至近距離で撮り始めたのです。まるで威嚇するような不快な取り方です。バヤンドン郡の副長はその2人を自然環境の調査をしている人だと紹介してくれました。彼らは、マルダイの再開発に際し、自然に負荷をかけないようにアドバイスするための調査を行っていると言いました。辺野古に米軍基地を新設するために行うアセスメント調査のような仕事なら、推進派なのかな、と思いました。私たちの調査の結果を知りたいし、彼ら自身の結果を紹介したいと言いました。残念ながら時間がないので、ウランバートルでまた会いましょう、と電話番号を交換しました。

その2人を観察すると、マルダイに隣接する第4バク長をぴったりはさむように座り、歩いています。バク長が映画の後、

「何らかの施設がマルダイにできたら、若者の雇用ができるので期待していた。映画を見て、ウラン鉱山を抱えるアフリカの村で低線量被曝の問題、労働者の被曝の問題を抱えていることを知り、マルダイの再開発は、むしろ、やめた方がいいと思うようになった。」と言いました。

副長は、映画の後、明日の朝、郡長に会って、放射線の測定値を報告してほしい、と言いました。この2人が分厚い調査報告をまとめたので、明日、郡長に説明することになっている。その前にマルダイでの測定結果を話してほしい、ということでした。彼はすぐに郡長に電話をし、9時半に会う約束を取り付けてくれました。

翌朝、9時半になっても郡長は役所に来ませんでした。副長は心配して、郡長宅に電話しましたが出ないので、自宅に向かいました。すると、昨日の2人がバク長といっしょにジープに乗って役所に来て、「9時に郡長に会うことになっている」と言って中に入って行き、いないのでまたジープに乗って消えて行きました。もどってきた副長によると、郡長は昨日遅く帰ってきて、友人と酒を飲んで、体調が悪いので、今日は休む、ということでした。こういうことはよくあることなのですが、副長の残念そうな顔が心に残りました。

(3)「マルダイから帰って」に続く

(いまおか りょうこ)

モンゴル国ドルノゴビ県におけるアレバ系 コジェ・ゴビ社のウラン鉱毒事件

－ 2013年6月15日現在のまとめ －

今岡 良子

はじめに

まず、事件の概要をまとめておこう。

2013年6月、ドルノゴビ県オラン・バドラフ郡とズーン・バヤン区の遊牧民は、「蜂起の準備はもうできている。」¹⁾と怒りに燃えている。2012年冬から2013年春にかけて、この地域の遊牧民の家畜に異常出産が続いたのである。

ここではアレバ系コジェ・ゴビ社が2010年12月から2011年5月にかけて、ウランを試験採掘していた。

最初に被害を訴えたのは、コジェ・ゴビ社のウラン採掘地から6キロのところで幕営していた牧民ノルスレンである。彼は国から表彰された優秀遊牧民である。昨年12月26日、最初の仔牛が死んだ。

12月28日、核エネルギー庁と自然環境を守る市民監査委員会が現地に入るが、コジェ・ゴビ社が家畜を焼却した。

1月末までにノルスレンの仔牛は22頭死んだ。

3月11日、家畜繁殖研究所は、重金属と放射性物質が原因であると最終調査結果をまとめた。

3月25日付ウネン紙は「ウランの放射能が原因で家畜が死亡。牧民を緊急避難させることに決定」と報道した。

3月26日、自然環境を守る市民監査委員会と反核運動のNGOは、家畜繁殖研究所の報告を記者会見で公表した。しかし、核エネルギー庁は、今も総合的な調査をしている最中であるにもかかわらず、結論が出たかのように公表し、現地では移住を始めた人がいるというのは遺憾だと家畜繁殖所の結論を否定した²⁾。

4月11日から14日にかけて、アルタンホイグ首相がドルノゴビ県に滞在し、牧民ノルスレンは直接被害を訴えた。

5月1日、アルタンホイグ首相は、6ヶ月かけて、のべ100人の専門家が参加し、9千万トゥグルクを支出した調査結果を公表した。牧民ノルスレンの前で、仔牛の死亡の原因は、「ウランではない」「伝染病ではない」「銅とセレンとアンチモンが疑わしい」と述べた。

5月13日、ウランバートルを活動拠点とする反核運動の5つのグループが現地調査を行い³⁾、記者会見⁴⁾を行った。他の遊牧民にも異常出産が起きていること、「オラン・バドラフ郡は第二のホンゴ

1 “Малчид: - Амь тэмцэж байна. Бүгдээрээ тэмцэнгээе !!!” 3分以降 <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviiin/yjvdlzozxvme>

2 Ураны гамшиг эхэлсэнийг ЦЭГ ойлгоогүй хэвээр... - 2013.03.26 <http://www.youtube.com/watch?v=Wd-w9KA8G0M>

3 Дорноговь Малчдын бодол санаа 2013.05.13 <http://www.youtube.com/watch?v=iHVv1qkuFkc>

4 “ТББ-ууд Улаанбадрахад ажиллав” хэвлэлийн хурал 20130513 <http://www.youtube.com/watch?v=fadIEeDpvvA&list=UUBvEpwXGFHtYTPOcwoOZkOA>

ル⁵⁾になる」こと、「我々は自分たちの手で汚れた大地を清める。汚れた政府も自分たちの手で清める」と述べた。

5月28日、ドルノゴビ県から牧民らがウランバートルに来て、記者会見⁶⁾を開いた。牧民パンサルマーは21戸の家畜の異常出産のリストを読み上げ、「今、二つ頭の仔羊が生まれています。この状態を放置して、私たちから二つ頭の子どもが生まれて、それを見て初めて信用するのですか。それを言うためにここまでやって来たのです⁷⁾」と訴えた。エルデネバットは、コジェ・ゴビ社で働いた若者たちの健康被害を報告し、「ウランはもうやめてほしい」と訴えた。この事件はウランによる鉱毒であると訴え、コジェ・ゴビ社のウラン採掘停止を求める署名1500筆を持参し、政府が対応するまで故郷には帰らないと述べた。

5月31日、牧民ガントウルは署名をエルベクドルジ大統領に渡した。

6月10日、牧民は銃を手にとり、コジェ・ゴビ社の試験採掘場を封鎖した。

この事件については、すでに新聞やTV局が取材して報道していたが、5月の反核グループやドルノゴビ県遊牧民の記者会見は主要TVのニュース番組も報じた。二つ頭の仔山羊の写真が国民に与えたインパクトは強い。しかし、解決の糸口が見えないまま、エルベクドルジも立候補している大統領選挙のお祭り騒ぎが始まった。対立候補のバットエルデネは、昨年末、2013年度予算案から核関連予算を削除させた3人の国会議員の1人である。モンゴル全国飛び回って精力的に遊説しているが、6月17日現在、この鉱毒事件について発言していない。大統領選挙で国民は忘れそうになっている中で、ドルノゴビ県の牧民は記者会見で「いつでも蜂起できる状態にある」と怒りに燃えていた。そして、銃に弾をこめた。

モンゴルでは家畜の大量死を大量の積雪によるものを「白いゾド」、夏の干ばつによるものを「黒いゾド」と言うが、ウラン鉱毒事件は、「黄色いゾド」と呼ぶことができる。

筆者は、この事件が、モンゴルのウラン鉱山開発が進められるのか、停止するのか、大きな鍵を握り、遊牧の歴史の大きな曲がり角になるものと考えている。本稿は、ネットワークを通じて刻々ともたらされるモンゴルの市民と遊牧民の闘いの情報を、現時点で整理し、記録しようとする試みである。

(1) ドルノゴビ県のウラン鉱山

① オラン・バドラフ郡とズーン・バヤン区

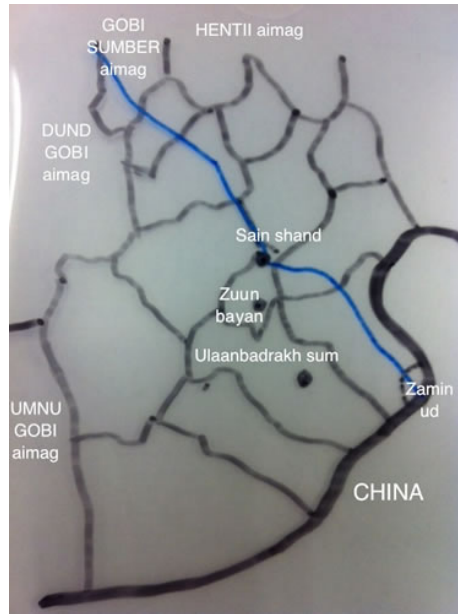
ウランバートルから南東へ、チョイルは経済特区ゴビスンベル県となり、ここを越えたところまで舗装道路が伸びている。ドルノゴビ県はチョイルから中国国境にむかって広がる。県の中心地はサインシャンド。この県都の南部にサインシャンド郡ズーン・バヤン区、その南に接する郡境界から中国国境まで広がっているのがオラン・バドラフ郡である。

5 2007年、ダルハン・オール県ホンゴル郡で、金の抽出に使用するシアンと水銀による汚染事件が起こった。

6 "Улаанбадрахын үнэн байдал" хэвлэлийн хурал 20130528 <http://www.youtube.com/watch?v=TIAMD4I2id0&feature=youtu.be>

7 "ТББ-ууд Улаанбадрахад ажиллав" хэвлэлийн хурал 20130513 <http://www.youtube.com/watch?v=fadIEEdpvvA&list=UUBvEpwXGFHtYTPOcwoOZkOA>

図1 ドルノゴビ県オラン・バドラフ郡とズーン・バヤン区



② ドラーン・オール鉱山

このズーン・バヤン区とオラン・バドラフ郡をまたぐように、ウランの鉱山ドラーン・オール鉱山がある。

モンゴルのウランの戦略的鉱山は、ドルノド県のドルノド鉱床、ゴルバンボラク鉱床、マルダイ鉱床の3つである。ソ連が探査、発見し、1980年代には採掘も行なわれた。

このドラーン・オール鉱山は、ソ連時代に発見されていたが、2002年8月からコジェ・ゴビ社が探鉱権を保有し、「2002年から白亜紀のズーン・バヤンとウネグテ向斜で行われた探査の結果発見され、2004年9月にウラン鉱体が発見された。」⁸⁾という経緯がある。コジェ・ゴビ社の社長の名前をとって「ミャグマル鉱床」とも呼ばれている。また、土屋は、「本鉱床は地質構造的に上部白亜紀のバヤンシレー 累層群の堆積岩に含まれており、堆積岩の酸性帯の"roll front"形の鉱石化作用に関係する。現在、探査は完了していないため本鉱床のサイズと形は明確になっていない。鉱業権者は2002年から2007年まで計1,008孔のボーリング(164,726mのホールリンク)を行った。ミャグマル鉱床のウラン埋蔵量は現在10,000tと計算されているが、探査が完了した時点で推定鉱量が明確になる」と報告している⁹⁾。

8 土屋春秋、「モンゴルのウラン鉱床と開発の現状」、2008 <http://mric.jogmec.go.jp/public/kogyojoho/2008-05/MRv38n1-05.pdf>

9 土屋春秋、「モンゴルのウラン鉱床と開発の現状」、2008 <http://mric.jogmec.go.jp/public/kogyojoho/2008-05/MRv38n1-05.pdf>

③ コジェ・ゴビ社

1980年代にはソ連とモンゴルが国家事業として、ドルノド県でウラン鉱の採掘が行なわれていた。

市場経済移行後、モンゴル政府は、地下資源開発に国際資本の投資を受け入れるため、2007年に鉱物資源法を施行した。外国企業が地下資源の探査権を取得。「コジェ・ゴビ社は、フランスのアレバ社が70%、モンゴルのゴビ・ゲオ社が30%出資した合併会社で、ドルノゴビ県のタムサグ、サインシャンド、ズーンバヤンで探査を行なった。しかし、1999～2003年まで世界のウラン価格が大幅に下落したため、ウラン探査活動が停滞していた。」¹⁰⁾ 2010年12月から2011年5月にかけて、イン・シチュ・リーチング法というウランを化学物質の入った水溶液で溶かして吸い上げる方式で試験採掘を行い、2700トンのイエローケーキを生産した¹¹⁾、と言われている。

2013年度予算案にはアルタンホイグ首相直轄の予算として「第6プログラム 放射性鉱物資源と核エネルギー」という項目があり、ドラーン・オール鉱山のウラン採掘工場建設について特記された。3人の国会議員の奮闘により、第6プログラムは削除されたが、アルタンホイグ政府が重点的に開発しようとしている鉱山で鉱毒事件が起こったのである。

(2) 牧民ノルスレンの仔牛の死亡について

① 牧民ノルスレン

オラン・バドラフ郡生まれ。4年生まで学校で勉強し、その後、1977年から家畜を飼ってきた。国から表彰された優秀遊牧民である。



写真1 最初に被害を訴えた牧民ノルスレン

1994、95年頃からズーン・バヤン区に移住し、そこで幕営しているが、コジェ・ゴビ社から6キロしか離れていない。ウランを採掘した残土には、塀が巡らされておらず、家畜が自由に近づくことができた¹²⁾。

去年は草もよく、ゾドの心配のない冬であったが、12月20日から仔牛が放牧地で死に始めた。

10 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf#search=原産協会+モンゴル

11 Улаанбадрахынхан дээр туршилт хийсээр байх гэж үү? <http://golomt.org/2013/06/06/5365/>

12 Дорноговь. малчин Норсүрэнгийн яриа -2013.05.08 <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviiin/2013-05-08>

死んだ家畜の内蔵は、肺や胃、肝臓に腫れ物ができたり、黒い斑点ができたりした。

写真2 死んで運ばれる仔牛



出所：Anti Nuclear Movement Mongolia Page <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=668061773208244&set=pb.263100847037674.-2207520000.1370782819.&type=3&theater>

写真3 牧民が屠殺し、異常が見受けられた内蔵の写真



出所：<https://www.facebook.com/photo.php?fbid=668061536541601&set=pb.263100847037674.-2207520000.1370782820.&type=3&theater>

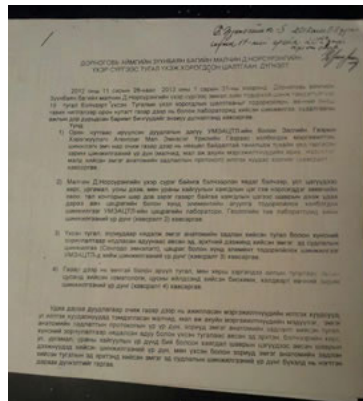
12月28日、核エネルギー庁と市民を代表して「自然環境を守る市民監査委員会」の委員長のJ. ガンバートルらが現地調査に入った。その時、すでにコジェ・ゴビ社は、囲いを作り、死んだ仔牛を焼却していた。

② 家畜衛生研究所の結論

家畜衛生研究所は、ノルスレンの牛が放牧される牧地や水場から土、植物、水のサンプルを採取、

また、ウラン探査による廃棄物置き場となっているズーブチ・オボー、マル・ホンゴル・シャル・ドブの残土からもサンプルを採取した。放射性物質や重金属を特定する検査を家畜衛生研究所、放射性物質実験所、地質学研究センターなどで行なった。また、死んだ仔牛を解剖し、その臓器について精密検査を行なった。この結果、重金属と放射性物質が原因であるという結論を3月18日に公表した¹³⁾。その場には、ノルスレンはもちろん、ズーン・バヤンのバク長エルデネチメグ、オラン・バドラフ郡長ガンゾリグらも参加した。

写真4 家畜繁殖研究所の報告書の写真



出所: Anti Nuclear Movement Mongolia Page <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=649508351730253&set=pb.263100847037674-.2207520000.1370783250.&type=3&theater>

この結果を受けて、3月25日付 ウネン紙には「ウランの放射能が原因で家畜が死亡。牧民を緊急避難させることに決定」という記事が掲載された。

写真5 「ウネン紙」「ウランの放射能が原因で家畜が死亡。牧民を緊急避難させることに決定」



出所: Anti Nuclear Movement Mongolia Page <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=639398576074564&set=pb.263100847037674-.2207520000.1370783472.&type=3&theater>

3月26日、自然環境を守る市民監査委員会と反核運動のNGOは、家畜繁殖研究所の報告を記者会見で公表した。

これに対し、核エネルギー庁は、家畜繁殖研究所の報告を、総合調査の最終結論であるかのように公表し、移住を始めた住民もいることを批判した。

③ アルタンホイグ首相と牧民ノルスレン

5月12日、アルタンホイグ首相は、ドルノゴビ県サインシャンド市で定例の政策対話集会を開いた。牧民ノルスレンが、家畜の被害はコジェ・ゴビ社のウラン鉱毒が原因であると訴えた。若い牧民は、ズーン・バヤン区では冬に14頭の母牛が死んだが、原因不明である。エネルギー庁はウランが原因ではないことだけ言い、原因がわからない。ウランの採掘に関して政府の見解を聞いた¹⁴⁾。

アルタンホイグ首相は、「モンゴルには原子力発電所はいらない。何が必要か」といふと、ウランを原料のまま、きれいなまま地中から取り出す。これを(「加工したもの」訳者付加) shar nuntag (イエローケーキ)と言います。このレベルの生産は、政府のプログラムとして持っています。しかし、地元の住民が支持しないまま、理解しないまま、こんな事業はしません」「すでに政府から調査班を送りましたが、市民も参加して調査を行い、これは有害、これは有害でないということを(「はっきりさせ」訳者付加)お互いに理解しないまま、強引にことをすすめる政府ではありません」と述べた。

④ 核エネルギー庁が統括する総合調査の結論

5月1日、アルタンホイグ首相は調査結果を発表した。6ヶ月間、のべ100人の研究者が参加し、9千万トゥグルクを投じた大規模な調査となった。

「放射性物質は仔牛が死んだ原因ではない」「伝染病が原因ではない」「放牧地の水と土は通常の水準にある」しかし、「仔牛の死亡はセレンや銅、アンチモンの疑いがある。」という結論である¹⁵⁾。

これで家畜衛生研究所の結論を全面的に否定したことになる。「銅とはどういうことだ?」と納得しないノルスレンに対して、アルタンホイグ首相は、国際的な研究協力をえて、調査を継続することで幕を下ろした。

この翌日、モンゴル民主党は大統領候補としてエルベクドルジを推薦することを明らかにした。

(3) ウランバートルの反核団体のドルノゴビ県の調査について

① ウランバートルの反核団体

民主党政府の調査結果に納得しないウランバートルの反核団体は、ドルノゴビ県でフィールドワークを行なった。参加したのは、Golomt Tsumin Esreg Khudulguun、Gal Undesten Kholboo、Mongol ulsin Tuluu Zutgee、Officialud Kholboo、Khubiaraa Teewer Erkhlegchidiin Kholbooである。

ゴロムト反核運動は、政党とはかわりをもたない反核グループで、アメリカ政府がモンゴルに核廃棄物を捨てる計画をもっていることを毎日新聞よりも先にモンゴルに伝えたことで知られるようになった。

ガル・ウンデステン連盟は、金鉱山開発からモンゴルの自然と遊牧の暮らしを守る法を制定させるなど、地元の遊牧民とともに自然保護運動を展開する組織である。

14 MNCTV Дорноговь аймагт уран олборлосны улмаас мал үхжээ <http://www.youtube.com/watch?v=IWaZwKtUTXQ>

15 EC Н.Алтанхуяг мэлээв -2013.05.01 <https://www.youtube.com/watch?v=f2g280PEfPA>

② 記者会見でのバートルホイグの報告

5つの反核団体は5月7日から一週間ドルノゴビの現状を調査し¹⁶⁾、ウランバートルで記者会見した¹⁷⁾。ガル・ウンデステンの代表バートルホイグは、「被害はノルスレン家だけではなく、700頭の家畜が不自然な死に方をしていた」と報告した。

写真6 記者会見をする5つの NGO



出所：Anti Nuclear Movement Mongolia Page <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=665182543496167&set=pb.263100847037674.-2207520000.1370782820.&type=3&theater>

写真7 インタビューを受けるバートルホイグ



出所：“ТББ-ууд Улаанбадрахад ажиллав” хэвлэлийн хурал 20130513 <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=267416473402174&set=a.267416413402180.1073741841.100004014696959&type=3&theater>

16 http://www.youtube.com/watch?v=bO_7NKNJKgY&feature=youtu.be

17 <http://www.youtube.com/watch?v=fadIEeDpvvA&list=UUBvEpwXGFHtYTPOcwoOZkOA>

特に、アルガラントバク第3バクでは

- ダシジャムツ家：足の立たない仔らくだが生まれ、3日で死亡。死ぬ前に毛が大量に抜けた。
- バットゾリグ家：この25日間で3頭の大家畜が理由もなく死亡。
- オユンエルデネ家：口が割れ、歯のない、目の見えない仔らくだが産まれた。
- バットトゥムル家：目が見えず、首のない仔らくだが産まれた。お腹がはれた仔山羊と仔羊が死亡。
- プレブツェンド家：7頭の大家畜を解体したら、3頭が肺の肥大。褐色の斑点があった。肝臓には白いものがついていた。

(4) 5月28日、ドルノゴビ県牧民の記者会見について

写真8 記者会見を開くドルノゴビ県の牧民たち



出所：Улаанбадрахын үнэн байдал 20130528 <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=274906512653170&set=a.274906239319864.1073741843.100004014696959&type=3&theater>

① オラン・バドラフ郡第3区の牧民パンサルマーの訴え¹⁸⁾

2011年春から、4つのバク、119戸で異常な仔畜が生まれた。コジェ・ゴビ社は2010年12月から2011年5月にかけてウランを採掘した。ノルスレンさんの仔牛が死んだ理由について、政府はウランが原因ではない、と結論づけたけれども、私たちは100%ウランのせいだと思っている。

どういう被害があったかという、21戸で異常出産後、仔畜が死亡した。

目のない仔山羊・仔らくだ、1つ目の仔馬、唇のない仔山羊、あごのない仔馬、首のない仔山羊、頭のない仔羊、2つ頭の仔羊、仔馬、四角い頭の仔羊、3本足の仔牛、仔山羊、前足のない仔山羊、前足が立たない仔羊、寝たままの仔らくだ、2つ頭の仔羊、仔馬、四角い頭の仔羊、3本足の仔牛、仔山羊、前足のない仔山羊、前足が立たない仔羊、寝たままの仔らくだ。

18 <http://www.youtube.com/watch?v=TIAMD4I2id0&feature=youtu.be>

写真9 目の見えない仔らくだ



出 所： <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=522228194503380&set=a.522219607837572.1073741825.139421219450748&type=3&theater>

頭が2つあるの仔羊



出 所： <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=522228597836673&set=a.522219607837572.1073741825.139421219450748&type=3&theater>

病気の家畜もある。オユエルデネ家では4頭のらくだが前足が動かない。ダシジャムツ家、アリオンボルド家では片目の仔馬が生まれた。バルジンドルジ家、ダシジャムツ家ではらくだが一頭ずつ病気。大家畜に換算すると、あわせて11頭、病気である。

すでに2つ頭の仔羊が生まれた。この問題を解決してくれないで、2つ頭の子どもが私たちの中から生まれ、それを見て、初めて、私たちの言うことを信用するのか。それまで政府は放っておくのか？

家畜だけではなく、人間にも影響が出ている。こども達は風邪をひくと2、3ヶ月ひいたまま、母

らくだの乳製品を食べて育った子どもの体調が悪い。

② オラン・バドラフ郡エルデネバットの訴え

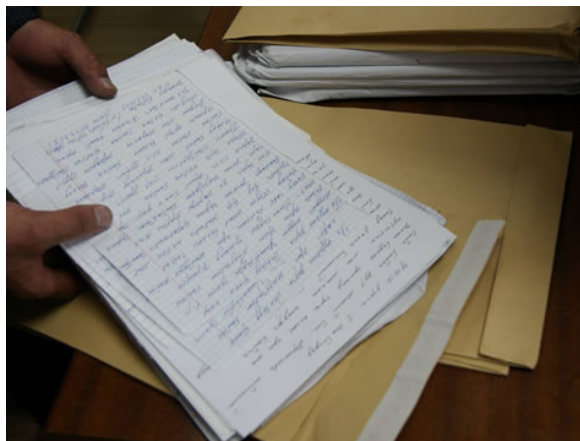
私たちの故郷でウランが出たこと、大変残念です。世界中がウランから遠ざかっていっているのに、モンゴルでは使おうとするので、その反対のために闘わないといけないとは、本来不必要なことをしていると思います。

若い女性たち、特に妊娠している女性はお互いに私はどんな子どもを産むのか？心配しています。夫はコジェ・ゴビ社で働いた。コジェ・ゴビ社が操業した2、3年の間、そこで働いた若い人たちはたくさんいます。最初は、ウランは有害じゃないと言って、若者を働かせました。最近は、「やせた」、「毛が抜けた」、「目が赤い」、「皮膚がかゆく夜眠れない」と訴えています。牧民の家で家畜を屠殺したら、すべての家畜が同じ状態。肺にできものができ、血の塊のような斑点があり、肺に水がたまったように肥大しています。だから、ウランはやめてください、と政府のみなさんをお願いします。ちゃんとしてくれないのであれば、私たちは闘うしかないと宣言します。

③ オラン・バドラフ郡牧民ガントウルの署名行動

牧民ガントウルは、319戸、1500筆の署名を持参し、「ウランの試験採掘停止」を求めた。

写真10 ドルノゴビ県の牧民ガントウルが持参した1500筆の署名



出所：Улаанбадрахын үнэн байдал 20130528 <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=274906689319819&set=a.274906239319864.1073741843.100004014696959&type=3&theater>

6月2日、エルベクドルジ大統領に署名を提出した¹⁹⁾。ガントウルは政府から回答があるまで、故郷に帰らないつもりである、とインタビューに答えた。

19 Малчин Д. Гантөр: Ерөнхийлөгчид 1500 хүний гарын үсэгтэй өргөх бичиг өгсөн <http://www.aravt.mn/content/2994/.htm>

写真11 3月11日、ウランバートルで開かれた福島を忘れないデモに参加したドルノゴビ県の牧民



出所: "Fukushima 311" demonstration, Ulaanbaatar, Mongolia <https://www.facebook.com/photo.php?fbid=231346003675888&set=pb.100004014696959.-2207520000.1370785630.&type=3&theater>

ドルノゴビ県の牧民は、3月11日のデモに参加した時、「私たちは、核よりも、健やかな未来が大事」と訴えた。彼らの思いがこの言葉にこめられている。

④ 家畜繁殖研究所 S. ツェレンチミドが「鉱山の影響である」と証言

家畜繁殖研究所の S. ツェレンチミドと牧民ガントウルがニュース番組に出演し、ツェレンチミドは、鉱山の影響があると述べた。

(5) 牧民闘争の宣言

① ガル・ウンデステン連盟の牧民 Ts. ムンフバヤルの声明

Ts. ムンフバヤルはオンギ川を金鉱山開発から守る運動で活躍した自然保護運動家の牧民である。彼の活動の成果は「河川の水源となる地域と原生林を有する土地では地下資源を探索し、利用する行為を禁止する法律」を制定させたことである。記者会見で、ムンフバヤルは、民主党政府に対し、ナードムの前、つまり2ヶ月以内に、この法律に従って、企業に対し、行政執行しなければ、権力者はこれまで経験したことのない被害を被ることになる、と意見表明をした。特に、物理的な自然破壊だけでなく、化学物質による汚染により、家畜も遊牧民も暮らせない状況になっていることを厳しく批判した。²⁰⁾

② 住民は、採掘再開反対に立ち上がった

6月10日付けの「ウネン」紙は、「オラン・バドラフの住民は、銃に弾をこめて、故郷を守る」という見出しの記事を掲載した。それによると、現在、コジェ・ゴビ社は、採掘用の井戸掘りも、ウラン

20 Ц.Мөнхбаяр: Урт нэрт хуулийг хэрэгжүүлэхгүй бол дахин тэмцэл хийнэ <http://www.medeemn/main.php?eid=31399>

の試験採掘も行っていないが、住民は交代して見張りを続けている。住民たちは、「政府がコジェ・ゴビ社に許可を与えても、ウラン採掘の操業をさせないために闘い、故郷と命を守る」²¹⁾と述べている。

おわりに

家畜繁殖研究所が出した結論を否定し、核エネルギー庁が統括した結論を認めた民主党政府は、仔牛死亡の原因は不明なまま、国際的な研究協力に問題を投げ、幕をひいた。牧民は避難の権利を認められず、保障もされず、原因不明のまま放置されている。私には、ゴビの遊牧民にフクシマ市民の姿が重なって見えた。

参考文献リスト

- 原産協会、「モンゴルの原子力発電導入準備とウラン鉱業」、2011年 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf#search=原産協会+モンゴル
- 土屋春明、「モンゴルのウラン鉱床と開発の現状」JOGMEC,2008 <http://mric.jogmec.go.jp/public/kogyojoho/2008-05/MRv38n1-05.pdf>
- ノルスレンの家畜の死亡に関して
- Дорноговь аймаг Улаанбадрах сумын нутаг дэвсгэрт ураны Коже говь уурхай дээр малчин Норсүрэн гуайн үхэр үхсэн тухай малчны яриа 2012.12.28 <https://www.facebook.com/photo.php?v=627315703950216&set=vb.100000153764018&type=2&theater>
- “Uranii haiguulaas болж мал олноор уhej bn” hural – 2013.01.04 <http://www.youtube.com/watch?v=qpya0ij-PGQ&feature=youtu.be>
- “Кожеговь”-ийг өмөөрч болно, Гэхдээ... 2013.03.20 <http://www.mass.mn/48300.html>
- Ураны цацрагаас мал хордсон нь тогтоогдож, малчдыг яаралтай нүүлгэх шийдвэр гарчээ. <http://golomt.org/2013/03/25/malhordo/>
- Ураны гамшиг эхэлсэнийг ЦЭГ ойлгоогүй хэвээр... 2013.03.26 <http://www.youtube.com/watch?v=Wd-w9KA8G0M>
- Уранаас болж мал үхсэнийг шат шатандаа хүлээн зөвшөөрчихсөн юм биш үү <http://mongoliinmedee.essay.time.mn/content/4445.shtml>
- Дорноговь аймгийн малчин Д.Норсүрэн: “Кожеговь”-ийн даргатай хамт үхсэн тугалнуудыг цуглуулж, хогийн цэг рүү хийж булсан 2013.04.03 http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=294
- “Ичгүүргүй нүд” Монголыг онилжээ 2013.04.04 http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=308
- Мал эмнэлэг үржлийн газрын шинжилгээний дүн. <http://golomt.org/2013/04/15/malemn/>
- Алтан Хоиг首相の調査結果報告 <https://www.youtube.com/watch?v=f2g280PEfPA>
- Дорноговь. малчин Норсүрэнгийн яриа -2013.05.08 <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviiin/2013-05-08>
- MNCTV Дорноговь аймагт уран олборлосны улмаас мал үхжээ <http://www.youtube.com/watch?v=lWaZwKtUTXQ> 2013.05.12.
- Дорноговь Малчдын бодол санаа 2013.05.13 <http://www.youtube.com/watch?v=iHVv1qkuFkc>
- Дорноговь Малчдын бодол санаа 2013.05.13 http://www.youtube.com/watch?v=bO_7NKNJKgY&feature=youtu.be
- “ТББ-ууд Улаанбадрахад ажиллав” хэвлэлийн хурал 2013.05.13 <http://www.youtube.com/watch?v=fadIEeDpvvA&list>

21 「ウネン」紙 2013年6月10日 <http://www.unen.mn/content/23836.shtml>

=UUBvEpwXGFHtYTPOcwoOZkOA

Sainted TV medee 0116 https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=kPgA-YdPi_0

Дорноговь аймгийн Зүүнбаян сумын малчин Д.Норсүрэнгийн малын үхэл 2013.05.19 <https://www.facebook.com/media/set/?set=a.668061373208284.1073741831.263100847037674&type=1>

Улаанбадрахынхан дээр туршилт хийсээр байх гэж үү? <http://golomt.org/2013/06/06/5365/>

5つの NGO による記者会見 2013.05.13

<http://www.youtube.com/watch?v=ogh9TM1JZUc&feature=endscreen>

<http://www.youtube.com/watch?v=fadIEeDpvvA&list=UUBvEpwXGFHtYTPOcwoOZkOA>

5月28日、牧民たちがウランバートルで記者会見

<https://www.facebook.com/groups/StopNuclearGenocide/>

ドルノゴビ県の遊牧民が持参した異常出産の写真

https://www.facebook.com/munkhbayar68/media_set?set=a.274906239319864.1073741843.100004014696959&type=1

5つの NGO がドルノゴビ県で行なった聞き取り調査の記録音声

“Малчид: - Амь тэмцэж байна. Бүгдээрээ тэмцэцгээе !!!” <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviin/yjvdlzozxvme>
Дашдондов -Бүх малын нүд, элэг уушиг, хөл их өвдөж байна <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviin/okfi2cziob6f>

малчин Энхбаатар - Дулаан уулыг тойрсон гамшигийг зогсооё <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviin/rxfuzpplxyc>

Кожеговь ХХК-д ажиллаад арьс нь шархалж, үс нь халцаржээ <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviin/vem690baenht>

Дорноговь. малчин Норсүрэнгийн яриа -2013.05.08 <https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviin/2013-05-08>

Малчин Норсүрэн: Шинжээчид багаж эвдэрхий гэсэн шалтгаанаар цацрагийн хэмжилт хийгээгүй. <https://soundcloud.com/migaa-mogod/norsuren-1>

Улаанбадрахын иргэн Т.Төрмөнх: Биднийг золиосонд нь хаях юм уу? Аврах юм уу? Төр засаг л мэдэх байх. <https://soundcloud.com/migaa-mogod/avmomj6kcttt>

(いまおか りょうこ)

削減された核関連予算

— 2013年度首相直轄予算 第6プログラム
「放射性鉱物資源と核エネルギーの利用」 —

今岡 良子

訳者まえがき

2012年秋、「モンゴル国2013年度予算の紹介」という350ページを越える容量の大きなpdfがモンゴル財務省ホームページに掲載されました。その92ページに「16. モンゴル国首相が管轄する予算」がありました。

この「16. モンゴル国首相が管轄する予算」の冒頭に8つのプログラムが計画されていて、そのうち、第6番目のプログラムが「放射性鉱物資源と核エネルギーの利用」という題名です。

2012年10月1日、国会議員ガンバートル、バットエルデネ、ボロルチョロンの3人が、2013年度予算から核関連予算を削除させたと報告しました。それがこの第6番目のプログラムの予算のことです。

11月8日に国会の承認を受けた「モンゴル国2013年度予算の紹介」が財務省のホームページにアップされています。わずか5ページに簡略化され、プログラムの説明もありません。「モンゴル国2013年度予算の法律」というファイルもアップされました。それは、75ページ。ここには首相が直轄するプログラムの予算について書かれています。第6プログラムを探してみましたが、ここには書かれていません。どちらにも書かれていないので削除された、ということだと思います。

ここでは、削除された2013年度核関連予算、第6プログラム¹⁾を訳して、紹介したいと思います。

1 本稿72～75頁に原文掲載。

16. モンゴル国首相直轄予算の概算

(単位：百万トゥグルク)

プログラム名	2013年度の計画				中期計画	
	予算	内訳			2014年	2015年
		人件費等	物件費等			
計	72,944.0	20,080.0	51,219.1	1,644.5	39,472.1	41,574.9
第6 プログラム 放射性鉱物資源と核エ ネルギーの利用	2,953.1	902.9	1,828.9	221.3	3,094.7	3,255.6

プログラム6 放射性鉱物資源と核エネルギーの利用

プログラムの意義：放射性鉱物資源と核エネルギーの利用に関連する法的環境の整備、放射性鉱物資源の調査・探査・研究を発展させ、可能性を引き出す、採掘を行う、核エネルギーの燃料を生産する事業の準備を万全にする、核と放射能の安全性の確保、放射性物質の輸送、放射性廃棄物の加工、保管について国際的な基準・要請に従って行う、学術研究や実験、研究を発展させ、高い技術を専門的に身につけた人材を特別プログラムに従って育成する、指導や規制のシステム、組織を具体的に構成することを含んでいる。

プログラムの目的：モンゴル国政府が放射性鉱物資源と核エネルギーについて責任をもって政策を実行する、放射性鉱物資源の学術研究、調査・探査を行う、潜在性を引き出す、採掘する、加工する工業を発展させ、輸出用の新しい原料を作り出す、核エネルギーを利用する方向でモンゴル国のエネルギーの安定をはかり、持続可能な発展の条件を満たすこと。

戦略の概略：「プログラムの批准について」モンゴル国政府2009年7月22日第222決定の第2附則に批准された『モンゴル国が放射性鉱物資源と核エネルギーについて重点的に政策を実施するためのプログラム』の第6節には、この計画を2009年から2012年、2013年から2021年に段階的に実行することが明記された。

1. 放射性鉱物資源と核エネルギーを利用する、核テクノロジーを浸透させる、核と放射能からの防護、安全性を確保する法律や条例、政策、戦略を設計し、政策指導を徹底し、業務を組織する。
 - 放射性鉱物資源と核エネルギーの利用を推進する組織や企業が作成したプログラムや実施設計に対し精査を行い、関連法律や条例に沿って、特権的な許可を与える。
 - 核と放射性物質、廃棄物、放射能源を保管する、輸送する、埋蔵する、核と放射線量を測定する機器や設備を完備し、万全な状態で事業を行う。
2. 核と放射能の事故、放射性同位体の作用によって人の健康、自然環境に与えるマイナスの影響を防止するために必要な規制を国際水準で行うこと。

- － 放射能から防護、安全を確保した状態でインフラの能力を高める事業を組織すること
- － 核と放射能の規制、研究を高め、放射能の防護能力を技術的に改善すること。

計画	目標	達成状況の評価ポイント	2013年の目標
1. 放射性鉱物資源を開発し、利用する。	1. 放射性鉱物資源の研究、調査、探査を発展させる方向でその潜在力(認定量)を増大させる。	放射性鉱物資源の地域別、テーマ別研究を国家予算で、調査探査する事業を国と民間の資本、他の財源によって行う事業を政治主導で、調整しながら行なう。	国家予算と民間の投資によって放射性鉱物資源の調査、探査、研究を行う。放射性鉱物資源の潜在性を高める。地質学調査をもとに指令、規則、段取りを準備すること。
	2. 放射性鉱石を採掘し、濃縮する技術的・経済的基盤を整え、自然環境に与える影響を検査し、放射性鉱物資源を加工するための多機能な工場を建設する。	放射性鉱物資源を経済的、かつ自然環境へ負荷の少ない技術、機械設備を使い、廃棄物や汚染の少ない採掘や濃縮、加工方法をの選択を始める。	放射性鉱物資源を地中で溶かして濃縮する、あるいはそれ以外の方法で採掘する事業を行う。ハイルハン、ハラート、ゴルバンボラク、ドローン・オールのウラン鉱山 ²⁾ の技術的、経済的基盤を整える。 ウラン鉱山を利用する合弁会社の資本投資、株所有、組織に関わる問題を解決する。 ドローン・オールのウラン鉱山に採掘工場を建設する準備のために探査を行う。
	3. 放射線源と放射性鉱物の廃棄物を保管し、加工する設備を建設する。	放射性廃棄物、放射性廃棄物質、放射線源を集中的に保管し、安全な輸送、埋蔵、必要となる関連事業。	放射線防護、保全、核物質と放射線源から人体を保護する国際的要請にあわせる。放射性廃棄物の保管場のインフラを改善し、必要な機械設備、器具、用具を整える方向で進める。
2. 放射性鉱物資源の調査・探査、採掘、核エネルギー利用の高度な技術の専門性を身につけた人材資源を特別プログラムにそって養成する。	1. 放射性鉱物資源の調査、探査、採掘、核エネルギーを生産する高度な技術において専門性を身につけた人材資源を放射性鉱物資源の生産加工を行い、原子力発電所をもつ国に特別プログラムで養成し、研修させる。	原子力分野においてモンゴル人の専門家を養成する。	ロシアで放射性鉱物資源と原子力の専門で15人の学部生、ルーマニアで院生2人を留学させる。

(次頁につづく)

2 「ドローン・オール」鉱山はドルノゴビ県、ハイルハンとハラートはドンドゴビ県、ゴルバンボラクはドルノド県にある戦略的開発鉱山。

(前頁つづき)

	2. 放射性鉱物資源の調査、探査、採掘、核エネルギーの利用とチェック、原子力発電の高度な技術の専門を身につけた人材を国内で育てられるようにする。カリキュラムをシステム化し、チェック、測定の器具を改良する。	原子力発電の技術者をモンゴルの教育システムの中で育成する、人的資源を開発する計画を実行するための事前プロジェクト。	原子力発電所を建設する時に必要な人材、開発の詳細な計画を準備する。原子力、核テクノロジーの方面で人材を国内で育成する原子力技術国内育成システムを実行するための事前プロジェクトに着手する。
3. 放射性鉱物資源と核エネルギーの利用というテーマで学術、実験、研究を発展させる。	1. 放射性鉱物資源と核研究の最前線の分野を見定める。	放射性鉱物資源と核研究の最前線の分野を国内組織や国際機関と共同して行なう。	IAEA の安全基準規則、マニュアル、水準について研究する。
4. 原子炉を建設する事業を準備し、実行する。	1. 原子炉をインフラとともに建設する。	「原子力のインフラを発展させる事前研究2」プロジェクトを実行する。	モンゴル国に適した原子力発電所のタイプを選ぶ。モンゴル国のエネルギーの使用について2035年までの変動を計算し、原子力の占める割合を定める。
	2. 原子力利用の意義、経済的な効果、自然環境の保全などを国民に知らせる。	「原子力分野について国民の知識を高める」プロジェクトを成功させる。	原子力利用の意義、経済的な効果、自然環境の保全を国民に周知する。

* * *

記者あとかぎ

この予算を削除させた国会議員のガンバータルはインタビューにこう答えました。

「ウランを掘ることについて何人かの議員といっしょに闘いました。NGO が強く反対し闘った結果として2013年の予算からこの問題を引き抜きました。しかし、2016年までの政府のマニフェストから削除することはできませんでした。だから私たちは来年再び闘うことになります。。国民のみなさん。モンゴルでウランを掘ることに強く反対しなければなりません。オユトルゴイ銅山やタワントルゴイ炭鉱もちゃんと利用できないでいるのに、また故郷の大地をボロボロにしてはなりません。この問題について国民と共に断固闘うことになります。」³⁾ (翻訳：今岡)

3 Буйдантай жагсаж болдог л юм байна Нийтэлсэн: 2012-10-24 Sonin.mn Уран олборлох талаар хэсэг гишүүдийн хамт тэмцсэн. Төрийн бус байгууллагууд хүчтэй эсэргүүцэж тэмцсэний үр дүнд 2013 оны төсвөөс уг асуудлыг мулталсан. Харин 2016 он хүртэлх Засгийн газрын мөрийн хөтөлбөрөөс хасуулж чадаагүй. Тэгэхээр бид ирэх жил дахиад л тэмцэнэ гэсэн үг. Ард иргэд минь ээ. Ураныг Монголд олборлох ажлыг эрс эсэргүүцэх ёстой шүү. Оюу толгой, Таван толгойгоо ч олигтой ашиглаж чадахгүй байж нутаг орноо сэглүүлж болохгүй. Энэ талаар иргэдтэйгээ хамт хатуу тэмцэх болно.

来年2014年度の予算案にも注目しなければなりません。

このように、核関連の文言や予算が政府の計画書に書かれたのは、これが初めてではありません。最近では、昨年、バトボルド人民党内閣の最後に認められた「五カ年の投資計画」があります。

モンゴル政府 投資計画2012年～2017年 2012年5月18日案

1 T : 1 ドル : 80 円 : 1300 T

	計画内容	実施年度	予算	2013年	2014年	2015年
1	ダランジャルガラン郡で放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設(ドルノゴビ県)民間資本	2013～2014	50億 T	20億 T	30億 T	
2	マルダイ村で放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設(ドルノド県)民間資本	2014～2015	50億 T		20億 T	30億 T
3	放射性鉱物資源の保管、埋蔵施設と核化学実験所(アルダルトルゴイ)国費	2013～2014	10億 T	4億 T	6億 T	
4	実験炉(ウランバートル市)国費	2013～2014	20億 T	4億 T	6億 T	

出所：<http://cabinet.gov.mn/images/editor/files/NEGTGEL-1.pdf>

その後、計画内容を修正し、閣議決定した計画が国家発展計画委員会のWEBサイトにリンクされました。

6月28日の選挙で、民主党が人民党に勝ちますが、民主党のアルタンホイグが首相に就任するのは8月10日です。選挙後、政権の引き継ぎの間、7月4日の「五カ年投資計画」は修正され、バトボルド内閣で閣議決定されます。

2012年7月4日、バトボルド内閣で閣議決定された「五カ年投資計画」予算

	計画内容	実施年度	予算	2013年	2014年	2015年
1	ダランジャルガラン郡で放射線測定施設建設(ドルノゴビ県)民間資本	2013～2014	50億 T	20億 T	30億 T	
2	マルダイ村で放射線測定施設建設(ドルノド県)民間資本	2014～2015	50億 T		20億 T	30億 T
3	放射性資源の放射化学実験所(アルダルトルゴイ)国費	2013～2014	10億 T	4億 T	6億 T	

計画内容の「放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設」が、「放射線測定施設建設」に変わっていますが、計上された予算は同じなので、核関連の予算を要求しておきたい、ということでしょうか。

この「五カ年投資計画書」について、8月18日の「ウヌードル」紙は、バトボルド人民党内閣の下で国家発展計画委員会の説明を掲載し、この投資計画では病院などから出た放射性廃棄物を保管する場

所を作るという説明でした。閣議決定した計画書は「放射線測定所」なので、説明になっていないように思います。

また、8月10日に民主党のアルタンホイグが首相に就任し、組閣後しばらくしてから国家発展計画委員会は解体されました。この計画書に責任をもつ政府の機関がどこなのか、わかりにくくなりました。

「五カ年投資計画」には実施場所と目的と予算が書かれていますが、実際に予算を執行するお金があつてのことではなく、国際資本の投資を呼び込むためにモンゴル政府のニーズをまとめたものと考えられます。

では、この計画が単年度予算にどう影響したのでしょうか？

モンゴル民主党代表のアルタンホイグは、「原発は建設しない」と反核団体に約束しました。選挙に勝ち、首相になった後も、そのスタンスは変わらず、しかし、「ウランは採掘しない」とは一度も言いませんでした。

しかし、11月23日には、

「モンゴル国大統領が2011年9月184号令を出しました。これに従ってモンゴルに核廃棄物を一時保管、保管、採掘することなどを禁止しました。これは福島発電所の事故から教訓をえた決定です。また、国民の安全を守る責任者の許可なしに外国と核エネルギーに関するすべての文書に署名し、約束してはならないことを示しています。政府からこれを固く守り実行しています。最近ワーキンググループを作り、核エネルギー政策に変更を加える作業を進めています。そのため、私はこのことに注目し、法改正が必要と考えます。将来、第一にモンゴルで核エネルギーを葬り去らない、第二に、イエローケーキより先の段階には加工しないということを守っていきます。」⁴⁾

“Н.АЛТАНХУЯГ: ЦАЦРАГИЙГ ХЭВИЙН ХЭМЖЭЭНД АШИГЛАХ НЬ ХАМГИЙН ЧУХАЛ” TVMES.MN 2012 оны 11-р сарын 23, Баасан гариг, 17:30

と述べています。原子力はいつか利用すると言っています。濃縮はモンゴルでしないけれども、ウランは掘り出して、輸出できるレベルのイエローケーキを生産すると述べています。つまり、ウラン鉱採掘は続けるということです。このことを念頭において、2013年度の首相直轄特別予算案の第6プログラムを読んでみてください。ここには、アルタンホイグ首相のウランと核エネルギーに対する考え方が反映されていると思います。NGOに反対されて改訂、3人の国会議員に反対されて削除したとしても、民主党政府は2008年の人民革命党バヤル内閣時代に国会で決定した「ミレニアム開発目標」、2009年の『モンゴル国が放射性鉱物資源と核エネルギーについて重点的に政策を実施するため

4 “Монгол улсын ерөнхийлөгч 2011 оны есдүгээр сард 184 тоот зарлиг гаргасан. Үүний дагуу Монголд цөмийн хаягдал түр байршуулах, хадгалах, олборлох, зэргийг хориглосон. Энэ нь Фукушимагийн цахилгаан станцын ослоос үүдэлтэйгээр гарсан шийдвэр билээ. Мөн Үндэсний аюулгүй байдлын зөвлөлийн зөвшөөрөлгүйгээр олон улстай цөмийн энергитэй холбоотой бүхий л зүйлд гарын үсэг зурж, гэрээ байгуулахгүй байна гэдгийг зааж өгсөн. Засгийн газрын зүгээс үүнийг л барьж ажиллаж байгаа. Саяханаас цөмийн энергийн бодлогод өөрчлөлт оруулах ажлын хэсэг байгуулан ажиллаж байгаа. Тиймээс бид энэ үйл ажиллагаанд анхаарах, хуулинд өөрчлөлт оруулах хэрэгтэй байна. Цаашид нэгдүгээрт Монголд цөмийн энергийг булшлахгүй байх, хоёрдугаарт шар нунтгаас цааш боловсруулахгүй байх гэсэн чиглэлийг барьж явна

のプログラム』を踏襲、発展させる路線にあります。2014年度の予算には、ウラン鉱山開発や核関連開発に反対する市民や遊牧民の世論と民主党政府のせめぎあいの結果が反映されます。注目していきたいと思います。

「第6 プログラム」 原文

орон нутгийн төсвөөр дамжуулан хүлээн авсан татвар, төлбөрийнхөө орлогыг тайлагнадаг бөгөөд улмаар 2 талаасаа ирүүлсэн тайланг нэгтгэж, ОУ-д хүлээн зөвшөөрөгдсөн хөндлөнгийн аудитор тодруулга хийж, баталгаажуулан тайлан гаргаж, түүнийг олон нийтэд ил тодоор мэдээлэх үйл ажиллагаа юм.

Хөтөлбөрийн зорилт: Төр, компани иргэний нийгмийн хамтын ажиллагаа, тэгш оролцоог бүрдүүдэх замаар олборлох үйлдвэрлэл эрхэлдэг тусгай зөвшөөрөл эзэмшигч компани улсын болон орон нутгийн төсөвт төлсөн албан татвар, төлбөрөө Засгийн газар компаниас хүлээн авсан орлогоо ил тод тайлагнан нийтэд мэдээлэх үйл ажиллагааг хэвшүүлэх, зөрүүтэй байдлыг аудитаар тодорхойлж, авлигаас урьдчилан сэргийлэх орчинг бүрдүүлж, уул уурхайн салбарын орлогын менежментийг сайжруулахад оршино.

Хүрэх үр дүн ба гүйцэтгэлийн үзүүлэлт:

Хөтөлбөр	Арга хэмжээ	Гүйцэтгэлийн шалгуур үзүүлэлт
Хөтөлбөр 5. Олборлолт, уул уурхай	1.Монгол Улсын ОУИТБС-ын 2012 оны нэгдсэн тайлан гарсан байх	Нэгдсэн тайлан хэвлэгдэн гарсан байх
	2.Монгол ОУИТБС-ын 2012 оны нэгдсэн тайланд ороогүй компаниудын тайланд аудит хийж, тайлан гарсан байх	2012 оны тайланд ороогүй компаниудын тайлан гарсан байх
	3.Монгол ОУИТБС-ын 2012 оны нэгдсэн тайланд аудитаар тайлбардагдаагүй зөрүү үлдсэн тохиолдолд түүний учир шалтгааныг тодруулсан байх, зөрчил дутагдлыг арилгасан байх	2012 оны тайланд шийдвэрлэгдээгүй зөрүү гарсан тохиолдолд түүний учир шалтгааныг тодруулсан байх
	4.Засгийн газрын тайлан гарахад оролцдог төрийн байгууллагуудын хоорондын ажлын уялдаа холбоо сайжирсан байх, Засгийн газрын тайлан цаг хугацаандаа гарсан байх	Засгийн газрын тайлан гарахад оролцдог төрийн байгууллагуудын хоорондын ажлын уялдаа холбоо сайжирсан байх

Хөтөлбөр 6. Цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энерги ашиглах

Хөтөлбөрийн тодорхойлолт: Цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энерги ашиглахтай холбоотой эрх зүйн орчинг бүрдүүлэх, цацраг идэвхт ашигт малтмалын эрэл, хайгуул, судалгааг өргөжүүлэх, нөөцийг нэмэгдүүлэх, олборлолт явуулах, цөмийн эрчим хүчний эх үүсвэрийг бий болгох ажлын бэлтгэлийг хангаж хэрэгжүүлэх, цөмийн болон цацрагийн аюулгүй байдлыг хангах, цацраг идэвхт материалыг тээвэрлэх, цацраг идэвхт хаягдлыг боловсруулах, хадгалах үйл ажиллагааг олон улсын стандарт, шаардлагын дагуу гүйцэтгэх, эрдэм шинжилгээ, туршилт, судалгааны ажлыг өргөжүүлэх, өндөр технологийн чиглэлээр мэргэшсэн хүний нөөцийг тусгай хөтөлбөрийн дагуу бэлтгэх, удирдлага, хяналтын тогтолцоо, зохион байгуулалтын бүтцийг оновчтой бүрдүүлэх үйл ажиллагааг хамарна.

Хөтөлбөрийн зорилго: Монгол Улсын төрөөс цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энергийн талаар баримтлах бодлогыг хэрэгжүүлэх, цацраг идэвхт ашигт малтмалын судалгаа, эрэл, хайгуул хийх, нөөцийг нэмэгдүүлэх, олборлох, боловсруулах үйлдвэрлэлийг хөгжүүлэн, экспортын шинэ эх үүсвэрийг бий болгох, цөмийн энерги ашиглах замаар Монгол Улсын эрчим хүчний аюулгүй байдлыг хангах, тогтвортой хөгжлийн нөхцөлийг бүрдүүлэхэд оршино.

Стратегийн тойм:

“Хөтөлбөр, төлөвлөгөө батлах тухай” Монгол Улсын Засгийн газрын 2009 оны 07 дугаар

сарын 22-ны өдрийн 222 дугаар тогтоолын 2 дугаар хавсралтаар батлагдсан “Монгол Улсын төрөөс цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энергийн талаар баримтлах бодлогыг хэрэгжүүлэх хөтөлбөр”-н

6 дугаар хэсэгт уг хөтөлбөрийг 2009-2012 он, 2013-2021 онд үе шаттайгаар хэрэгжүүлэхээр тусгасан.

1. Цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энерги ашиглах, цөмийн технологи нэвтрүүлэх, цөмийн болон цацрагийн хамгаалалт, аюулгүй байдлыг хангах хууль тогтоомж, бодлого, стратегийг төлөвлөх, бодлогын удирдамжаар хангах, хэрэгжилтийг зохион байгуулах;

- цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энерги ашиглах үйл ажиллагаа явуулах байгууллага, аж ахуйн нэгжийн боловсруулсан хөтөлбөр, төсөлд үнэлгээ хийж, холбогдох хууль тогтоомжийн дагуу тусгай зөвшөөрөл олгох,
- цөмийн болон цацраг идэвхт материал, хаягдал, цацрагийн үүсгүүрийг хадгалах, тээвэрлэх, булшлах, цөмийн болон цацрагийн хэмжилтийн багаж тоног төхөөрөмжийн тохируулга, баталгаажуулалтын үйл ажиллагааг хэрэгжүүлэх.

2. Цөмийн болон цацрагийн осол, ионжуулагч цацрагийн үүсгүүрийн үйлчлэлээс хүний эрүүл мэнд, байгаль орчинд үзүүлэх сөрөг нөлөөллөөс урьдчилан сэргийлэхэд чиглэсэн мэргэжлийн хяналтыг олон улсын жишигт нийцүүлэн хэрэгжүүлэх.

- цацрагийн хамгаалалт, аюулгүй байдлын дэд бүтцийн чадавхийг өсгөжүүлэх ажлыг зохион байгуулах
- цөмийн болон цацрагийн хяналт, шинжилгээний үйл ажиллагааг өргөжүүлэх, цацрагийн хамгаалалтын техникийн чадавхийг сайжруулах

Гүйцэтгэлийн шалгуур үзүүлэлт:

Хөтөлбөр	Бүтээгдэхүүн арга хэмжээ	Гүйцэтгэлийн шалгуур үзүүлэлт**	2013 оны зорилтот түвшин
Дэд хөтөлбөр 1. Цацраг идэвхт ашигт малтмалын нөөцийг нэмэгдүүлэх, ашиглах	1.Цацраг идэвхт ашигт малтмалын судалгаа, эрэл, хайгуулын ажлыг өргөжүүлэх замаар түүний нөөц /батлагдсан/-ийг нэмэгдүүлэх	Цацраг идэвхт ашигт малтмалын бүсчилсэн болон сэдэвчилсэн судалгааны ажлыг улсын төсвийн хөрөнгөөр, эрэл хайгуулын ажлыг төрийн болон хувийн хэвшлийн аж ахуйн хөрөнгө оруулалт болон бусад эх үүсвэрээр гүйцэтгэх үйл ажиллагааг бодлогын удирдлага, зохицуулалтаар хангах	Улсын төсөв болон хувийн хэвшлийн хөрөнгө оруулалтаар цацраг идэвхт ашигт малтмалын эрэл, хайгуул, судалгааны ажлыг явуулна. Цацраг идэвхт ашигт малтмалын нөөц нэмэгдэнэ. Геологийн судалгааны ажилд мөрдөх заавар, журам, арга аргачлал боловсронгуй болсон байна.
	2.Цацраг идэвхт ашигт малтмалын хүдрийг олборлох, баяжуулах ТЭЗҮ-ийг боловсруулах, байгаль орчинд нөлөөлөх байдлын үнэлгээ хийх, цацраг идэвхт ашигт малтмал баяжуулах олон талын оролцоотой үйлдвэр байгуулах	Цацраг идэвхт ашигт малтмалыг эдийн засгийн өндөр үр ашигтай, экологид хохирол багатай техник, технологи ашиглан хаягдал, бохирдол багатай олборлох, баяжуулах, боловсруулах асуудлыг шийдвэрлэх ажлыг эхлүүлэх	Цацраг идэвхт ашигт малтмалыг газар доор уусган баяжуулах болон бусад аргаар олборлох үйл ажиллагаа явуулна. Хайрхан, Хараат, Гурванбулаг, Дулаан-Уул, ураны ордуудын ТЭЗҮ идэвхлэлийг боловсруулна. Ураны ордуудыг ашиглах хамтарсан компаниудын хөрөнгө оруулалт, хувь эзэмшил, зохион байгуулалтын бүтэцтэй холбоотой асуудлыг шийдвэрлэнэ. Дулаан-Уул ураны ордыг түшиглэн байгуулах олборлох үйлдвэрийг барих бэлтгэл ажлыг хангуулах арга хэмжээ авна.

	3.Цацрагийн үүсгүүр, цацраг идэвхт ашигт малтмалын хаягдлыг хадгалах, боловсруулах байгууламж байгуулах	Цацраг идэвхт хаягдал, материал, цацрагийн үүсгүүрийг төвлөрүүлэн хадгалах, аюулгүй тээвэрлэх, булшлах, захиалгаар нийлүүлэх үйлчилгээ	Цацрагийн хамгаалалт, аюулгүй байдал, цөмийн материал, цацрагийн үүсгүүрийн биет хамгаалалт олон улсын шаардлагад нийцсэн байна. Цацраг идэвхт хаягдал хадгалах байгууламжийн дэд бүтэц сайжирч, шаардлагатай тоног төхөөрөмж, багаж хэрэгсэлээр хангагдах чиглэлд ахиц гарсан байна.
Дэд хөтөлбөр 2. Цацраг идэвхт ашигт малтмалын эрэл хайгуул, олборлолт, цөмийн энерги ашиглах өндөр технологийн чиглэлээр мэргэшсэн хүний нөөцийг цацраг идэвхт ашигт малтмалын үйлдвэрлэл эрхэлдэг, цөмийн эрчим хүчний эх үүсвэртэй улс орнуудад тусгай хөтөлбөрөөр бэлтгэж, дадлагажуулах	1.Цацраг идэвхт ашигт малтмалын эрэл хайгуул, олборлолт, цөмийн энерги ашиглах, хяналт тавих, цөмийн эрчим хүч үйлдвэрлэх өндөр технологийн чиглэлээр мэргэшсэн хүний нөөцийг цацраг идэвхт ашигт малтмалын үйлдвэрлэл эрхэлдэг, цөмийн эрчим хүчний эх үүсвэртэй улс орнуудад тусгай хөтөлбөрөөр бэлтгэж, дадлагажуулах	Цөмийн эрчим хүчний салбарт үндэсний мэргэжилтэн бэлтгэгдсэн байна.	ОХУ-д цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энергийн чиглэлээр 15 бакалавр, БНРУ-д мөн энэ чиглэлээр 2 магистрийг сургахаар явуулсан байна.
	2.Цацраг идэвхт ашигт малтмалын эрэл хайгуул, олборлолт, цөмийн энерги ашиглах, хяналт тавих, цөмийн эрчим хүч үйлдвэрлэх өндөр технологийн чиглэлээр мэргэшсэн хүний нөөцийг дотооддоо бэлтгэх чадваржуулах, давтан сургах тогтолцоог бий болгох, хяналт, хэмжилтийн тоног төхөөрөмжийг сайжруулах	"Цөмийн эрчим хүчний инженерчлэлийн үндэсний сургалтын тогтолцоо бүрдүүлэх, хүний хөгжлийн нөөцийн төлөвлөгөөг боловсронгуй болгох" төсөл	-ЦЭХС байгуулахад шаардагдах хүний нөөц, хөгжлийн нарийвчилсан төлөвлөгөө боловсруулагдсан байна. -Цөмийн эрчим хүч, цөмийн технологийн чиглэлийн хүний нөөцийг дотооддоо бэлтгэх цөмийн эрчим хүчний инженерчлэлийн үндэсний сургалтын тогтолцоо бүрдүүлэх ажил хэрэгжиж эхэлсэн байна.
Дэд хөтөлбөр 3. Цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн энерги ашиглах чиглэлээр эрдэм шинжилгээ, туршилт, судалгааны ажлыг өргөтгөх	1.Цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн судалгааны тэргүүлэх чиглэлийг тогтоох	Цацраг идэвхт ашигт малтмал болон цөмийн судалгааны тэргүүлэх чиглэлийг олон улсын болон дотоодын байгууллагатай хамтран хэрэгжүүлэх	ОУАЭА-аас гаргадаг аюулгүй ажиллагааны дүрэм, журам, стандартыг судалсан байна.
	1.Цөмийн эрчим хүчний эх үүсвэрийг дэд бүтцийн хамт барьж байгуулах	"Цөмийн эрчим хүчний дэд бүтцийг хөгжүүлэх урьдчилсан судалгаа-2" төслийг хэрэгжүүлнэ.	-Монгол Улсад тохиромжтой цөмийн эрчим хүчний станцын технологийг сонгосон байна. - Монгол Улсын эрчим хүчний хэрэглээний 2035 он хүртэлх прогнозыг гаргаж, цөмийн эрчим

4. Цөмийн эрчим хүчний эх үүсвэр барих ажлын бэлтгэлийг хангаж хэрэгжүүлэх			хүчний эзлэх боломжит хувийг тогтоосон байна. --Цөмийн болон цацрагийн аюулгүй байдлыг үнэлэх, ослын эрсдэлийн үнэлгээ хийгдсэн байна. --Цөмийн эрчим хүчний эх үүсвэр барьж байгуулах ТЭЗҮндэслэлийн урьдчилсан судалгаа хийгдсэн байна.
	2.Цөмийн эрчим хүч ашиглахын ач холбогдол, эдийн засгийн үр нөлөө, байгаль экологийн ашиг тусыг олон нийтэд сурталчлах	"Цөмийн салбарын талаар олон нийтийн мэдлэгийг өргөжүүлэх" дэд төслийг амжилттай хэрэгжүүлэх	Цөмийн эрчим хүч ашиглахын ач холбогдол, эдийн засгийн үр нөлөө, байгаль экологийн ашиг тусыг олон нийтэд сурталчлан таниулсан байна.

Хөтөлбөр 7. Дотоод, гадаад шуурхай мэдээллийн үйл ажиллагаа

Хөтөлбөрийн тодорхойлолт: Улс орны дотоодод болж буй үйл явдлын тухай мэдээ, мэдээллийг цуглуулан шуурхай түгээх, дэлхий дахинд болж буй үйл явдлын тухай мэдээ, мэдээллийг гадаадын агентлагуудаас хүлээн авч, олон улсын түгээмэл хэлнээс орчуулан бэлтгэж, монголын хэрэглэгчдэд мэдээ болон тойм тайлбар хэлбэрээр түргэн шуурхай хүргэх болон Монгол Улсын түүх соёл, хөгжил дэвшлийг гадаад улс оронд таниулан сурталчлах чиг үүрэг бүхий МОНЦАМЭ агентлагийн үйл ажиллагаа энэ хөтөлбөрт хамаарна.

Хөтөлбөрийн зорилт: Монгол Улс, Монголын ард түмний түүх соёлын уламжлал, шинэчлэл, нийгмийн амьдралын бодит үнэн байдал, эдийн засгийн ололт амжилтыг гадаадын улс орнуудад түгээн дэлгэрүүлж сурталчлах, улс орны амьдралд болж буй үйл явдал, дэлхий дахины тухай мэдээ мэдээллийг Монголын өргөн олон түмэнд шуурхай, үнэн бодитой хүргэх.

Хөтөлбөр 8. Засгийн газрын шинэ бодлогын ноёд.

Хөтөлбөрийн тодорхойлолт: Бүтэц зохион байгуулалтын өөрчлөлт болон Засгийн газраас хэрэгжүүлэх шинэ бодлогын арга хэмжээ энэхүү хөтөлбөрт хамаарна.

Төсвийн ерөнхийлөн захирагчийн урсгал зардал хөтөлбөрөөр:

Хөтөлбөр	2011 оны гүйц	2012 оны тодот төсөв	2013 оны төсөл	/ сая төгрөгөөр / Дунд хугацаа	
				2014 төсөөлөл	2015 төсөөлөл
НИЙТ ДҮН	24,707.1	35,245.4	72,944.0	39,520.2	41,622.3
Хөтөлбөр 1.Хүйсний тэгш байдлыг хангах	45.3	86.9	114.0	150.5	155.1
Хөтөлбөр 2.Мэдээллийн нэгдсэн тогтолцооны дэд бүтэц	4,584.5	5,902.0	6,104.5	6,735.1	7,085.3
Хөтөлбөр 3.Төрийн тусгай хамгаалалт	6,022.5	8,740.2	10,262.7	10,261.0	10,794.6
Хөтөлбөр 2. Бүх нийтийн үүргийн сан	57.2	88.3	70.0	100.0	110.0
Хөтөлбөр 4.Индустрий аюулгүй байдлыг хангах	9,436.9	14,931.4	20,216.5	17,293.9	18,193.2
Хөтөлбөр 5.Олборлогч, уул уурхай	267.5	269.2	269.2	295.9	311.2
Хөтөлбөр 2.Харилцаа холбооны олон улсын суваг ашиглах		3,547.7	3,612.9	4,085.8	4,492.6
Хөтөлбөр 6.Цацраг шувхт ашигт малтмал болон цөмийн энерги ашиглах	2,318.3	2,716.5	2,953.1	3,094.7	3,255.6
Хөтөлбөр 7.Дотоод, гадаад шуурхай мэдээллийн үйл ажиллагаа	119.9	1,180.3	1,275.9	1,689.1	1,827.2
Хөтөлбөр 8.Засгийн газрын шинэ бодлогын ноёд			31,748.1		

Зардлын чиг хандлага. Монгол Улсын Ерөнхий сайдын урсгал төсвийн багцын хэмжээ 2013 онд 72.9 тэрбум төгрөг болж, 2012 оны тодотгосон төсвөөс 37.7 тэрбум төгрөгөөр нэмэгдэж байна.

「ウランは掘らん！ウランは売らん！原発？ 私たちにはいりません」

— 福島市民と心は1つというメッセージを安倍首相に届けたモンゴルの反核運動家たち —

今岡 良子

2013年3月30日と31日、安倍首相がモンゴルを訪問しました。その目的は、外務省のホームページにはこう書いています。

安倍総理大臣は滞在中、ツアヒャー・エルベクドルジ大統領、ノロブ・アルタンホヤグ首相等と会談し、日・モンゴル二国間関係及び地域・国際情勢等について意見交換を行う予定です。

我が国とモンゴルは、昨年、外交関係樹立40周年を迎え、共通の外交目標である「戦略的パートナーシップ」の構築に向けた取組を進めているところです。今回の安倍総理のモンゴル訪問が、「戦略的パートナーシップ」の構築に向けた日・モンゴル間の協力を一層推進する契機になることが期待されます。

出所 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/25/3/press6_000061.html

このどこにも、「ウラン」「原発」「核廃棄物処分場」という言葉はありません。

それでも、モンゴルの反核団体は、安倍首相に No Nukes のメッセージを伝えようと、スフバートル広場で行なわれる歓迎式典に面した国立図書館の近くでスタンディングをしました。

この写真は、スフバートル区の警察が、「デモの許可は出していない」と通告しに来た時の様子です。実際には、緑の党代表ボウムヤラクチさんが申請を出した後、再び呼び出され、許可しないと言われただけでなく、警官三人に押さえ込まれ、署名を強要されたそうです。ボウムヤラクチさんは身体的、精神的ショックを受け、その日、病院に行きました。



中央の2人、白い紙を持っているのが Ch. ムンフバヤルさん、環境ジャーナリスト、旗とプラカードを持っているのがボウムヤラクチさんです。

黄色のプラカードには「安倍さん！欲望より清廉を！核より緑を愛しましょう！核の商売人はモンゴルから手を引いてください！」と書いています。緑の党の旗を持っていますが、これも折り曲げられたそうです。

Ch. ムンフバヤルさんはコートを脱ぎ、メッセージの書いたスーツを示しました。「モンゴルは世界のゴミ箱だと？」そして、右手には白い布に "BE CLEAN! BE GREEN!" と安倍さんへのメッセージを持っています。のどかに見えるかもしれませんが、彼らは命がけです。日本の首相を守るために「特殊射撃部隊が見張る」という噂が出ていたので、意志を書いた服を身にまとい、撃つなら撃ってみろという意気込みです。



図書館前のリンチン先生の銅像の下で安倍首相が来るのを待ちます。



こちらは、ゴロムト反核運動の作ったメッセージ。「ウランは掘らん！」「ウランは売らん！」「原発？私たちにはいりません」そして「私たちは福島市民と連帯します！」と4枚ありました(写真は1つにまとめたもの)。多くのメンバーが参加し、プラカードを持ってデモをするつもりで用意したのだそうです。



メッセージを持っている背の低い方がミンジュールさん、大きい方が代表のアリオンボルドさん。彼らの前には、マイクロバスの装甲車が後ろの扉を開いて待っており、逮捕の準備はできていました。前日にアリオンボルドさんも警察に呼び出され、「デモは禁止、やれば、即刻逮捕する」と言われていました。しかし、福島に関する資料を読んでいるうちに、福島の市民への最大の支援は、「ウランを売らない」ということ。「自分たちは、苦しむ福島の人びとを無視して、日本にウランを売ってまで、豊かになりたいと思わない」という意志を日本の代表に伝えることが大事だと思い、安倍首相に伝えるためにスタンディングをしようと思ったそうです。



アリオンボルドさんによると、警察が強制排除をしようとした時、「自分たちは混乱を起こさないように、参加人数を数名に限り、協力している。それでも、逮捕するというのであれば、(目の前のスーパートル広場で)両国の要人たちが集まっている今、一発で撃ち殺せ！」と迫ったそうです。すると、警察も背中を向けた。このアリオンボルドさんは、日本人でいうと、湯浅誠さんに雰囲気の良いおとなしい方です。こんな迫力のある啖呵を切るとは思いませんでした。

さて、そろそろ安倍首相の車が通る頃です。



安倍首相を乗せた黒塗りの車は、スタンディングの前をゆっくり通り、アリオンボルドは、「安倍さんがメッセージをじーっと読んでいる様子が見てとれた」そうです。



安倍首相が乗った車が通っているところです。



このスタンディングアピールは、テレビ局 TV5 が夕方のニュースの中で 3 分 18 秒の長さで放送されました。

<http://www.youtube.com/watch?v=R6KYRmiAVfl&feature=youtu.be>

TV5 からインタビューを受けるミンジュールさんは、「震災から 2 年経っても苦悩が続く福島の人びとを思い、モンゴルからウランを掘ることも、売ることも反対します。福島の人びとと心は 1 つです。原発はすべて撤廃。そのことを安倍さんに伝えたいし、福島の人に伝えたい」と話しているところが放送されました。

安倍首相の政府専用機には何人の随行記者が乗っていたのでしょうか？日本でこのスタンディングアピールは報道されることはありませんでした。「人民新聞」が唯一扱ってくれました。

<http://www.jimmin.com/html/doc/147801.htm>

このレポートを書くために下記の人々にインタビューしました。

ボウム モンゴル緑の党党首 <http://www.facebook.com/boumyalagch.olzod>

ムンフバイル 反核&環境ジャーナリスト モンゴル環境市民会議核問題委員長 緑の党書記長

<http://www.facebook.com/munkhbayar68>

アリオンボルド ゴロムト反核運動代表 <http://www.facebook.com/mongol.bogd>

ミンジュール ゴロムト反核運動メンバー <http://www.facebook.com/t.minjuur>

(いまおか りょうこ)

モンゴル国の代表的な反核運動団体の紹介

箕原 丈

2011年5月、核廃棄物の最終処分場建設が秘密裏に進められていることが『毎日新聞』で大きくスクープされて以来、反核団体がフェイスブックでの活動を中心に複数立ち上がった。その中で福島第一原発事故直後の最も早い時期から多様な活動を積極的に続けている団体を紹介します。

ゴロムト反核運動 NGO (Голомт - ЦЭХТББ)

2011年6月、「アンチ・ニュークリア・ムーブメント (ANM)」としてフェイスブック上で活動をスタート、2013年3月、アリオンボルドを理事長とする「ゴロムト^{*} 反核運動 NGO」(モンゴル国政府登録 NGO) に名称を変更して活動を継続中。

メンバーは、モンゴル国・米国・ドイツ・英国・ブラジル・日本・韓国・オーストリア・スイス・オーストラリアなどで学び、働く市民で構成されています。いかなる政党・政治活動とも距離を置き、活動資金は、政党・政治団体・企業などからの献金ではなく、内外のメンバー・支援者の援助によっています。

主な活動は以下の通りです。

2011年3月31日、核廃棄物をモンゴル国で最終処分する計画があることを米国 NTI 情報チャンネルで入手、翻訳をウェブ上に公開。

2011年6月、フェイスブック上に「アンチ・ニュークリア・ムーブメント」グループを立ち上げる。

2011年7月10日、ロサンゼルス在住のモンゴル人のナーダム会場で情報コーナーを設置、「モンゴルに原発は必要ですか?」「モンゴルで核廃棄物を処分しますか?」などのアンケートを実施。

2011年8月6日、広島原爆記念日に「10万羽の折り鶴」写真展。

2011年8月16日・19日、ロサンゼルスでモンゴルにおける核廃棄物の最終処分に反対するデモを行い、日本国総領事館に反対の意思を表明する手紙を送付、オバマ大統領にも手紙を送った。

2011年8月18日、米国ジョー・バイデン副大統領のモンゴル公式訪問時、反対デモに参加。

2011年11月11日、ビデオ・コンテスト「ノーニュークス・アジア」に参加。

2012年3月11日、福島第一原発が事故から1年、反核マスク・デモを実施。

2012年4月26日、チェルノブイリ事故から27年、「忘れるな! 繰り返すな!」デモ。

* 「ゴロムト」は、祖先・ルーツ、また震源など、あるものが誕生・発生した場所・中心・基礎といった意味をもつ言葉です。また、火の神が宿る「かまど」の意味もあり、神聖なニュアンスをもっています。

2012年5月、アレバ社がウラン探査を行っているドルノゴビ県で線量を測定。

2012年8月、ウラン採掘が行われていたドルノド県マルダイで線量を測定。

2012年11月、『ゴロムト』新聞創刊。創刊号は3000部発行し、ウランの探査・採掘が行われている地域を中心に無料で配布。

2012年11月、ジャーナリスト西谷文和氏とドルノド県で再度線量測定を実施。

2013年3月9日、福島第一原発事故から2年、安倍首相のモンゴル国訪問時、「ウランは掘らん」「ウランは売らん」「原発？ 私たちにはいりません」「私たちは福島市民と連帯します」というプラカードを掲げた。

2013年3月21日、ゴロムト反核運動 NGO が政府登録。

2013年4月、NGO のメンバーがドイツのフランクフルトにおいてモンゴル国で起こっていることに関してレクチャー。

2013年5月、アレバの子会社によってウランが採掘されているドルノゴビ県オランバトラハ郡で遊牧民にインタビュー、線量を測定、核問題について情報を伝えた。非常に多くの情報・証拠を集め、ウランバトルに戻り情報発信、記者会見を行った。また、ガル・ウンデステン NGO が再度ドルノゴビ県に行く際、援助を行った。

上記活動のほか、2011年3月以降、核問題に関する記事をウェブサイト golomt.org に多数掲載。10本余りのドキュメンタリーを翻訳し、テレビやネットで公開し、国民に無料で配布しています。さらに、テレビ番組や新聞のインタビューに答えるなどウランと原発の危険性について国民に広く情報発信を行っています。

ゴンボジャブ・アリオンボルド (Гомбожавын Ариунболд)

1972年 ナライハ市生まれ

1990年 モンゴル国立大学付属数学特習コース

1994年 同大学卒業

1996年 同大学大学院にて理論物理学修士号を取得

2000年 チェコ・オロモウツ市パラツキー大学大学院にて博士号を取得

2011年 米国テキサス州 A&M 大学にて博士号を取得

A&M 大学、アリゾナ大学、ドイツ量子光学マクス・プランク研究所で量子物理学とレーザー物理学を研究、2013年からモンゴル国立大学物理学部で教鞭を執っている。

海外の研究者と共にレーザーを利用して炭疽菌を瞬時に検知する新しい技術を開発。モンゴル人が健康で暮らせる権利を守るため積極的に活動しており、2013年3月、ゴロムト反核運動 NGO 理事長に就任。

(みのはら じょう)

「苦しみも未来とともに」

モンゴルの反核運動リーダーとの対話

緊急勉強会：

「モンゴルを襲う核のゴミ — モンゴル核廃棄物処分場問題は終わっていない —」から

2013年7月6日、大阪のサクラファミリアにおいて、モンゴルの核問題についての緊急勉強会：「モンゴルを襲う核のゴミ—モンゴル核廃棄物処分場問題は終わっていない —」を開催しました（主催：モンゴル核問題研究会・モンゴル研究会）。その中で、インターネットにより、モンゴルのゴロムト反核運動リーダーのアリオンボルドさんと会場とを双方向で結び、対話するといった試みが行われました。以下は、その内容を要約したものです。（以下敬称略）（吉本るり子）

* * *

アリオンボルド：

「みなさん、こんにちは。

日本の皆さん、モンゴルの核の問題に興味をもって集まっていたきありがとうございます。

私はゴロムト反核運動のリーダー、アリオンボルトと申します。私たちはモンゴルでウランを掘ること、モンゴルに原子力発電所を建設すること、モンゴルに核廃棄物を埋めることに対して、反対する運動を行ってきました。私たちの運動は、基本的にカンパをもとに行っています。外国に住んでいるモンゴル人が祖国にお金を送ったり、私たちの活動の趣旨に賛同してくれる外国人の人たちが支援してくださっています。特に日本ではリョウコが支援してくれていることはうれしいことです。

我々は、ゴロムトという新聞を発行し、地方に配ったり、3月11日の福島原発事故の日やチェルノブイリの日にはデモを行ったり、広島の日には折り鶴アピールをしました。また、被害が起きた地域に行き、学習会を開き牧民たちを支援するなどの活動を行っています。

モンゴルの牧民は、情報を得られない状態にあるので、これは政府の人々にとってやりやすい状況にあると言っているのです。世界的に見てもアフリカとか、こういったウラン採鉱の行われている地域の人々は情報から隔離されているというのが同じであり、モンゴルの牧民も何も知らないまま犠牲になる可能性があるのです。私たちは、そういったことにならないようにという思いで、活動を行っています。

（鉱毒事件の現場、ドルノゴビ県に行った時のことについて）

先頃、ゴロムトのメンバーと他の組織の代表者が協同して、ドルノゴビ県オランバドラフ・ソムに行き活動を行いました。牧民と合い、コジェゴビ社の事業についての情報を集め、コジェゴビの近くの土地の放射線量の計測などを行い、通常の9倍という高い線量を計測しました。シャルドブというところでは、何ら囲みも防御するものもないところに、廃棄物の泥を投棄しています。泥を防護用のビニール袋に入れて投棄していますが、そのビニールが破れていたりし、様々な土

壤汚染の可能性があります。それから、アルガラント・バク(オランバドラフ郡)では、牧民たちが集って、会議を開き話し合い、多くの苦しみを分かち合いました。

集めた情報、写真、音声、動画は、ゴロムトという私たちのブログに掲載しています。

会場から：

コジェゴビ社への封鎖は今も続いているのですか？

アリオンボルド：

昨日私は現地の人と電話で話しました。現在、牧民は座り込みは行っていません。アレバ社の試験採掘は開始されましたが、それはズーン・バヤン・バグ(サインシャンド市)という所で開始されたのです。そこでは2つの坑井が掘られていますが、一方、アルガラント・バグでは、何らまだ採掘活動は開始されていません。土地の人々の反対が強いので、今の所、採掘は始められていないのです。

会場から：

モンゴル政府とコジェゴビ社との関係はどうなっているのでしょうか？

アリオンボルド：

これに関して、オランバドラフ郡で開かれた会議の席上、コジェゴビ社の現地責任者は次のような失言をしています。

もしもウランの関係で人や家畜が健康被害を受けたり死んだりしたら誰が、その責任を取るのかという我々の質問に対し、「その責任をアレバ社は負わない。なぜかと言うと、我々は核エネルギーの命を受けて事業を行っているのだから、モンゴル政府が責任を負う」と。この言葉に、土地の牧民は強く反発しました。

これにはに関してまた、問題があります。核エネルギー庁は、アレバに許可を出し、つまりは協力しつつ、同時に自ら監査を行うといったシステムとなっていて、これは危険だと考えます。

政府は、アレバ社と事業による利益を51：49で分け合う契約です。だから単に外国企業の利益のためだけのことでなく、モンゴルの権力者、一部の者の利益となるものだとすることを、考え合わせる必要があります。

会場から：

銃を取って、会社を包囲するというのは、日本においてもモンゴルにおいてもただ事でないと思われませんが、この件で逮捕者がでていないというのは、モンゴル国内で強い共感があるからなののでしょうか？他の理由があるのでしょうか？

アリオンボルド：

新聞上では、「銃を取って、守っている」というように報道されましたが、電話で現地の人と話すと、そうはなっていないと語りました。一部の若者は、実力での反対も辞さないとし、また、ウラン採掘のために来た人のゲルを倒し追い払う、といったことも起きましたが、全体としては合法的にことを行おうとしています。署名を集めて、大統領や国会議員、首相に提出するということをしています。今は、この集めた署名への返答を待っている状態です。

会場から：

モンゴルは1992年に一国非核地域宣言をし、国連でも認められました。その後2008年、小型

原発を持ちたいとか、あるいはウラン資源を売るといったような政策に、政府として急転換したように思われます。一国非核宣言との間で矛盾はないのですか？ 政府の対応、それについての国民の意見はどうですか？

アリオンボルト：

現在のモンゴル政府は、イエローケーキを輸出する、原発建設は少し遅らせるといった政策を話しています。それをどこで決定したのかというと、国家安全保障委員会というところで政府が勝手に決めたのです。そこには国民は参加していません。私たちはそのことに、納得していません。国会議員の中でも、こういうことは、国家安全保障委員会や政府だけで決めることではない、国民全体の意見を入れるべきだ、とくに被害者になる可能性のある牧民が強く意見を言うべきだとする人がいます。

今、政府が強く望んでいるイエローケーキの輸出は、1グラムでもそれを輸出すると、それが利用され、また戻ってくるという可能性、いわゆる核燃料サイクルによって、必ずモンゴルへ戻ってくるということになります。現在のモンゴルの法律は、それがモンゴルに戻ってこないということを保証できない状況です。これは、危険なことです。もう一つ、モンゴルでの原発建設は、ここにおいても使用済み核燃料が出るのでそれをまた、処理する必要があります。そうすると原発建設とウラン輸出はどうしても、あってはならない話となります。

会場から：

掘り出されたウランはどういうルートで運ばれるのでしょうか？

アリオンボルト：

今のところ、我々にはこれに関して、情報を得る方法がありません。ウランに関する全てのことは、国家機密となっていて、困難です。

会場から：

現地（ドルノゴビ）に加工工場はあるのですか？

アリオンボルト：

イエローケーキは今のところ、モンゴルにあります。人々の話では、ドルノゴビで作っているイエローケーキの手前の段階のものはモンゴル国内にありますし、外には出していません。将来的に韓国等に出して、そこで燃料を作って、サウジアラビアで燃料として使われるといったことも、考えられていると思われていますが、今のところ、これを証拠づけるものを我々はもっていません。鉱毒事件の起きたウランバトラーフはウランを産出しますが、そこに廃棄物を埋設するといった可能性も、ゴビだからあると私たちは思っています。

会場から：

鉱毒被害を受けている牧民の方は、食べるものなど困っていないのでしょうか？

アリオンボルト：

とてもいい質問をありがとうございます。牧民は野菜は食べません、家畜や乳を食用にします。私たちが現地を訪れたとき、ノロブスレンさんの家を訪問したとき、山羊を屠殺しご馳走してくれました。屠殺された山羊は、肺に黒いものがあつたり、白いものが他の臓器にあつたりして、見た目にも異常だとわかるものでしたが、私たちは昼間お腹をすかせやって来て、皆、それを

そのままいただきました。また乳を入れたお茶も飲みました。客である我々も心に不安を感じつつ、
またもてなす側の人々も心に不安を抱えていました。元来、モンゴル人はこのようなことはなく、
心から客をもてなし、もてなしを受けるのですが、今オランバドラフの人々は心からもてなすこ
とができないのです。心に苦しい思いを抱えています。また、健康面でも被害を受けています。
肝臓を患う地域が多いですし、20頭あまりの仔山羊が死にました。一部の家では、異常な仔ラク
ダ、仔山羊が多数生まれています。そのため、牧民は家畜の増産への意欲を失っています。若い
優秀な牧民、若者たちがいるのですが、元気がありません。残念なことに、未だかつて起きなかっ
たようなことが、今起きているのです。30年、40年と家畜の飼育に携わってきた人々は今まで
こんなことはなかった、コジェゴビ社が来てから、こういうことが起きていると話しています。

また、コジェゴビ社の人たちは、購入したペットボトル入りの水を飲んでいますが。井戸の水、
地下水は飲みません。牧民は地下水を飲んでいますが。子供たちもその水を飲んでいますが。幸いな
ことにモンゴル人は家畜を飼っています。すでに、家畜に被害が起きはじめているので、人への
影響が予測されます。人々の健康を監視下に置かなければならないと考えています。人々は健康
について心配しています。

最も危険なことは、コジェゴビ社のウランの採掘場が、牧民が汲む水の水源にあることです。

第二に、オランバドラフはまた、その風下に位置します。風による放射線の影響を心配してい
ます。

会場から：

日本の水俣では、先に猫に被害が起きています。

アリオンボルト：

全く同じだと思います。

モンゴル政府が調査を行った時に9700万トグルクという多額の費用でもって行ったのですが、
一人の牧民にも会うことなく調査を行い、その結果というのも、笑止千万なものでした。さらに、
継続調査は外国にしてもらおうとし、これは問題を他に放り投げたものです。こんな状況であり、
本来は自分たちで解決できるはずのものを、他に託してしまったことを私たちは批判的に見てい
ます。

会場から：

国民全体としては、ウラン鉱毒の問題をどう捉えているのでしょうか？

アリオンボルト：

基本的に一般の人々は情報を持っておらず、知らないといった状況です。ウランの鉱毒のこ
とも具体的によく知らないし、一方、マスメディアからはウランは安全、危険でないといった情報
が多く流されています。私たちゴロムト NGO は、特に情報提供ということを中心に活動してい
ます。テレビ番組で話したり、ウラン災害関係のドキュメンタリーを翻訳して流したりしています。
できる限り、情報提供をしていきたいと考えています。

会場から：

新聞大国と呼ばれるモンゴルで、全てのマスメディアがこの重大な情報を伝えていないのです
か？ 批判的な他のメディアもあるのでしょうか？

アリオンボルト：

すみません、あります。最近はウラン採掘に批判的な団体が多く出てきています。私たちの反核運動もその一つです。活動の活性化の結果、役割分担というものもできています。しかし概して主要メディアは政府側の立場をとっています。他の独立系の新聞、雑誌、テレビの中で我々の運動に関心を寄せ、調べているところがあります。しかし、これまでは、メディアが同一の立場をとった報道・宣伝が行われてきました。

主催者より：

TV9とか、彼らの運動をずっと追いかけて報道しているところもあります。

新聞記者たちもウランについて正しい情報、その危険性について正しい知識をもっていないといったこともあります。

会場から：

一緒に活動しようという、日本や世界の民主的な医療機関、関係者の方たちはいないのでしょ
うか？ウランや放射線について、その生体に与える影響を、癌になる前にそのリスクを減らすよ
うなこともされたらどうでしょうか？ 政府に対して、被害についてきっちりとしたデータをも
ち、標本も作って運動していく必要があるのではないかと思います。日本では60歳以上の退職され
た技師の方が大勢います。新聞やネットなどで呼びかけをされたらどうでしょうか？

アリオンボルト：

正におっしゃる通りです。我々には、そういった専門家、特に健康に関する、保健・医療関係
の専門家が必要です。協力して活動できればと思います。考えていきたいと思います。実際、こ
うだから癌になったと特定することが難しいだけに、知識をもつ必要があります。医師の方々と
の連携について、考えています。また、国民自身がウランの人体への影響について知識を持つこ
とが大切で、記者会見等する度に、また、ゴロムトとしても機会をつくって、自分たちの持って
いる基本的な知識を人々に提供しようとしています。私たちには専門家が必要です。協力できれ
ばいいと思います。

＊ ＊ ＊

最後に、勉強会のまとめにおいて、アリオンボルトさんは次のようなメッセージを会場の人々に送
りました。

ウラン鉱毒事件の起きたモンゴル、また核の危険を蒙り、福島事故の起きた日本、私たちは
そういう共通の問題を抱え、これからも心をともしてやっていくことができると思っています。
一方私たちは、人類の未来を緑でいっぱい、のすばらしいものに変えることもできるのです。苦し
みもともにしましたが、輝かしい未来もともにして、これからも一緒にやっていきたいと思いま
す。今日はモンゴルのことに関心をもっていただき、支援の気持ちを持って下さった皆さん、ありが
うございました。

(よしもと るりこ)

《年 表》

モンゴル国のウラン鉱山開発、原発建設、使用済み燃料処分場問題に関する年表

今 岡 良 子

この年表は、モンゴルのウラン鉱山開発、原子力発電所建設、核廃棄物処分場問題に関する情報を集めたものです。高レベル核廃棄物は、50年かけて冷やし、ようやく人間が運べる放射線量になると言います。その頃、モンゴルの人たちが使えるように情報を整理していきます。もちろん、こんな情報が増えないこと、こんな情報を使って闘わないでいいことを心から望んでいます。

2013年6月11日版の情報源ですが、日本とモンゴルの外交に関するものは、日本の外務省のホームページ、諸外国とモンゴルの外交に関するものは、Golomt.org のホームページ、ウラン鉱山や原子力発電所に関しては、インターネット上に公開された研究機関や大学、新聞、動画などの資料です。

モンゴル国のウラン鉱山開発、原発建設、使用済み燃料処分場問題に関する年表

年		
		第二次世界大戦後、ソ連主導の地質学調査。高線量地域 1500 地点、ウラン鉱 100 地点発見 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf
1970 年代		ゴルバンボラク、マルダイ（ドルノド県）、ハラート（南ゴビ県）の有益鉱床特定。
1980 年代		ソ連とモンゴルの秘密協定でマルダイ鉱床開発。
		1988 年から 1996 年にかけてウランを産出、チタ州クラスノカメンスクに輸送、プリアルゲンスクの化学工場で精製。
1990	民 主 化	（一党独裁放棄、多党制による議会制民主主義へ）
1991	IMF のショック療法による市場経済への移行	
1994		鉱物資源法（国際資本の投資）
1997		鉱業法（探査、採掘権）
2001		Adams mining 社（豪）がマルダイの探鉱権保有。
		2 月 13 日、エンフバヤル首相、日本訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/yojin/arc_01/mong_gh.html
2006		鉱物資源法改正。戦略的重要鉱床定める。ウランについては 3 つ、いずれもドルノド県のゴルバンボラク、マルダイ、ドルノド鉱床。 3 月 21 日、在日モンゴル大使ジグジッド氏が東京工業大学関本教授を訪問、原子力及び小型原子炉について情報交換。 http://www.crines.titech.ac.jp/projects/indexB.html 3 月 26 日、エンフボルド首相、日本訪問。「日本におけるモンゴル年」「総合的パートナーシップ」構築に向けて。鉱物資源開発。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/yojin/arc_06/mongolia_gh.htm 7 月 2 日、金田勝年外務副大臣、モンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/fuku/kaneda/cm_06/index.html 8 月 10 日、小泉首相モンゴル訪問。「小泉首相のモンゴル訪問時に、原子力発電分野の人材育成で日本に協力要請があり、研究員や留学生の派遣が始まった。」 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf
2007		モンゴル・アメリカ科学研究センター（以下、「モンアメ」と略す）設立（核開発の拠点） 2 月 26 日、エンフバヤル大統領、日本訪問。安倍首相と「今後 10 年間の日本・モンゴル基本行動計画」について共同発表。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_abe/mongolia_07/gaiyo.html エンバヤル首相、「50 万 kW の小型原発をもちたい。」 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf 4 月 28 日、浅野外務副大臣、モンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/h19/4/1173156_802.html
2008		マルダイの探鉱権の 7 割を Western Prospector 社、3 割を Adams mining 社が保有。 核燃料サイクルの専門家オンドラーが、オユン外務大臣の相談役に任命され、アメリカより帰国。オユンは「モンアメ」の代表になる 2 月 1 日、国会で「ミレニアム開発目標」を採択。モンゴル人民党政府も、モンゴル民主党政府も、これをウラン鉱山開発、原子力発電所建設の基本路線としている。 3 月 3 日、オユン外務大臣、来日。円借款案件「新ウランバートル国際空港建設計画」に係る交換公文署名式。 4 月 15 日、バヤル首相、ウィーンの IAEA 代表エルバラダイを訪問。 11 月 14 日、エルベグドルジ前首相による西村外務大臣政務官表敬。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/seimu/nishimura/mongolia_08/gaiyo.html

2008	2008 ～ 2021 年のモンゴルの総合的国家開発戦略で、「原子力エネルギーの平和利用開発は、モンゴルの持続的発展に重要なファクターである」と宣言。2008 ～ 2012 年の政府の行動計画では、「原子力発電開発の技術と経済性についての総合的な研究と、放射線管理と安全性の強化を実施する。」
	モンゴル政府は 4 月以降、政府直属の核エネルギー庁に原子力長期計画を移し、人員増加。
	土屋春秋、「モンゴルのウラン鉱床と開発の現状」、「金属資源情報」、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構、P.P.49-57, 2008.5 http://mric.jogmec.go.jp/public/kogyojoho/2008-05/MRv38n1-05.pdf
	モンゴル・ウラン・イニシアチブの始まり
2009	3 月、ROSATOM と核エネルギー協力覚書締結。ウラン鉱床開発と中小型炉建設で合意。
	3 月、核エネルギー庁 (NEA) の下に国営原子力企業 MONATOM を設立し、ウラン鉱床の探査や採掘のライセンス発給、開発プロジェクトの実施。
	3 月 12 日、バダムダムディンがモンアトム代表に就任。 http://golomt.org/2011/09/06/who/#more-2235
	この頃、モンアトム・ジャパン設立。(大阪市内淡路町 2-4-7 植村宏一郎代表)
	4 月 13 日、バトボルド・モンゴル外交・貿易大臣は、中曽根外務大臣と外務省において日本・モンゴル外相会談。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/4/1190405_1096.html
	4 月 23 日、IAEA のエルバラダイ事務局長がモンゴル訪問。バイヤル首相、ウラン鉱山開発、核エネルギー利用のための法的枠組み作り、中小型核発電所建設のための環境づくり。2020 年をめどに研究炉設置など希望。
	5 月 13 日、プーチン首相、日本に訪問した帰り、モンゴルと「ウラン探査と核エネルギーの利用に関する覚書」署名。 http://golomt.org/2011/09/06/who/#more-2235
	6 月 18 日、エルベグドルジ大統領のモンゴル大統領就任式典への特派大使の派遣。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/6/1193215_1100.html
	6 月 25 日、「放射性物質と核エネルギーの開発に関するモンゴルの国家政策」国会で採択。モンゴル人民党政府も、モンゴル民主党政府も、この決議を遵守している。
	6 月 30 日、「核エネルギー法案」国会提出。
	7 月 16 日、バイヤル首相来日。モンゴル・日本「核エネルギー及びウラン資源に関する協力覚書」署名。3 年間の期限は 2012 年で切れている。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/7/1193561_1102.html
	7 月 16 日、「核エネルギー法案」を日本から帰国後に可決。 http://golomt.org/2011/09/06/who/#more-2235
	7 月 22 日、政府決議「核エネルギーに関する国家政策実施プログラム」採択。
	8 月 25 日、メドヴェージェフ大統領、モンゴル訪問。合併会社ドルノド・ウラン社設立協定。
	9 月 13 日、エルベグドルジ大統領、インド訪問。インドと「核エネルギー平和利用協力覚書」。
	10 月 5 日、エルベグドルジ大統領、フランスのアレバ社長と会見。
	10 月 28 日、バイヤル首相、健康問題を理由に辞任。
	11 月 12 日、バトボルド新内閣が発足、ザンダンシャタル外交貿易大臣が新入閣。
	12 月 17 日、岡田外務大臣、ザンダンシャタル外務大臣、EPA 官民共同研究について一致。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/12/1216_03.html
2010	オンドラー、ザンダンシャタル外務大臣の補佐官となる。
	3 月 8 日から 15 日、ドルリグジャブ・モンゴル国大統領府長官、日本訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/22/3/0305_06.html
	4 月 13 日、バトボルド首相、中国訪問。経済協定について協議。その後、エルベグドルジ大統領が中国訪問。特に鉱山開発に重点化。
	5 月 31 日、中国胡錦濤首相、モンゴル訪問。ウラン開発、核エネルギー部門での共同協議。

2010	5月31日、ASEANにおける核エネルギーの導入に関するワークショップ@マレーシアにおいて「モンゴル核イニシアチブ」について発表。(4) Mongolia's Nuclear Initiative The speaker from Mongolia explained the “Mongolian Nuclear Initiative” exploring ways to use Mongolia's abundant natural resources as latitude for technological advancement. The Initiative, although its details have not yet worked out, includes spent-fuel take-back assurance and “cradle-to-grave” approach. Mongolia, however, may forgo development of nuclear fuel cycle facilities other than in a multilateral context for Mongolia. Regarding bilateral cooperation, he informed that Mongolia concluded Memorandum of Understandings (MOUs) with Japan, Russia, India and France in 2009 and expects to conclude the MOUs with China and ROK in 2010. http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/nonproliferation/docs/Summary_Todai-UKM_workshop_31May-1June2010.pdf
	7月、オンドラー、外務省特任大使となる。
	7月22日、岡田外務大臣は、ASEAN 関連外相会議出席のため訪問中のベトナム・ハノイにおいて、ザンダンシャタル・モンゴル外交・貿易大臣との間で日本・モンゴル外相会談を行った。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/g_okada/asean_1007/mongolia_gk.html
	7月29日、岡田外務大臣、ウラン鉱床等の開発に日本企業の参入に強い関心と期待。EPA 交渉の検討。7月29日より8月3日までの間、モンゴル国鉱物資源エネルギー省ゾリクト大臣が訪日し、JOGMEC 及び産業技術総合研究所と「協力関係強化に関する覚書」を締結し、両国共同でレアアースなど鉱物資源ポテンシャル調査を開始した。 http://mric.jogmec.go.jp/public/report/2011-04/mongolia_11.pdf
	8月30日、第3回日中ハイレベル経済対話の開催と岡田外務大臣の中国とモンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/22/8/0825_04.html http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/g_okada/mon_10/mon_gai.html
	9月22日、米エネルギー副大臣ポネマン、モンゴル訪問。米と核エネルギー協力覚書。ポネマンは核廃棄物処分場問題のキーパーソン。この時、日本の経済産業省役人も訪米。
	9月24日、ニューヨークで菅首相、バトボルド首相会見。ウランなどの共同開発に日本企業参入期待。EPA について協議。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/visit/1009_sk.htm
	10月2日、日本、モンゴル首脳と日本企業との懇談会。ウランなどの鉱物資源開発や輸送を含めた関連インフラ整備。伊藤忠商事、住友商事、新日本製鐵、双日、東芝、丸紅、三井物産、三菱商事、石油天然ガス、金属鉱物資源機構などが参加。3日、バトボルド首相、朝青龍の断髪式に参加。
	10月13日、フランス外務大臣アンマリ、モンゴル訪問。「核エネルギー協力覚書」締結。
	11月12日、モンアトム社長バダムダムディン、国会議員アルタンツェツェグ、バトバヤルらアメリカ訪問。エネルギー省副大臣ポネマン、NRC 長らと会見。ウラン採掘、利用、加工、燃料生産にかかわる法などの整備について説明。
	11月15日、エルベグドルジ大統領が日本訪問。新たに「戦略的パートナーシップ」構築に向けた日本・モンゴル共同声明」。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/22/10/1022_02.html ウランなどの資源開発における協力推進を約束。
	11月26日、東芝とモンゴル核燃料サイクルセンター（以下 MNFCC と略す）がウラン濃縮、インフラ整備について将来協力。 社長ダシドルジはオンドラーの夫。
	11月30日、東芝がモンゴル MNFCC 社とウラン・レアアース・レアメタルの資源開発に関し、MOU を締結した。 http://mric.jogmec.go.jp/public/report/2011-04/mongolia_11.pdf
	11月1日、IAEA 日本代表天野とエルベグドルジ大統領会見。
	11月、J. エンフサイハン代表、「原子力発電所の技術については話す前に建設するかどうかを決める必要がある。」'Mining Journal' http://www.mongolianminingjournal.com/content/15485.shtml
2011	1月4日、バトボルド首相、クウェート訪問。アラブ首長国連邦も含めて核エネルギー共同利用について協議。
	1月16日、米モ共同声明。2010年の「核エネルギー共同覚書」の発展。
	1月21日、バドボルド首相、核廃棄物について述べる。
	1月25日、前原外務大臣、モンゴル国会議員と会談。核の平和利用に関して日本の有する技術、優れたマネジメントを紹介。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/1/0125_04.html
	2月15日、モンゴル国会議員団と菅首相。ウランなどの鉱物資源開発と EPA 早期交渉開始。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_kan/mongolia_1102.html
	2月16日、バドボルド首相、オーストラリア訪問。

2011		2月24日、中国外務大臣、モンゴル訪問。
		3月2日、東京大学 GCOE、モンゴル訪問。ウラン探鉱以外に、精錬、濃縮、燃料加工事、使用済み燃料中間所蔵業へ参画を望んでいる（原文ママ）。燃料加工は、日本に期待。最近、MNFCC を設置。「モンゴル原子力イニシアチブ」を「モンアメ」が提案。www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/.../docs/visit_mongolia.doc
		3月11日、東北大震災
		3月11日、東京大学 GCOE 京都でシンポジウム「核燃料サイクルの国際化」。モンゴル代表（「モンアメ」若手研究員）、核廃棄物の引き受け条件について言及。モンゴル産のウラン、モンゴルで生産した燃料であること。http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/international/docs/summary_international_meeting_kyoto_20110310.pdf
		3月23日、パトボルド首相、韓国訪問。核の平和利用。
		3月30日、アメリカ Global Security Newswire 紙が、米カーネギー国際核エネルギー政策会議でリチャード・ストラトフォードがモンゴルで国際的な核廃棄物処分することについて話があると発言したことなどオバマ政権がモンゴルと国際的な核廃棄物処分場について非公式に協議していることを報道。
		3月31日、モンゴルの反核団体 Anti Nuclear Movement Mongolia のブログがモンゴルの国際的核廃棄物処分場計画について警鐘を鳴らす。GOLOMT.ORG
		日本外務省ホームページ上に EPA 官民共同報告書が掲載され、そこに Peaceful use of nuclear energy 部門での共同も記載。
		4月4日、ザンダンシャタル外務大臣、アラブ首長国連邦訪問。
		5月6日、毎日新聞のスクープ 、「日米が核処分場極秘計画 モンゴルに建設 原発商戦拡大狙う」（モンゴル政府はゴシップ紙扱い）オンドラーが会川記者に核廃棄物処分場について話す。
		5月10日、ザンダンシャタル外務大臣、在モ日本大使 城所卓推を訪ね、毎日新聞記事について話し合う。
		6月20日、エルバクトルジ大統領、アメリカ訪問。核エネルギー分野での関係強化確認。
		6月20日、原子力国際協力センター、東京工業大学原子炉研究センター小原徹、日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター、モンゴル訪問。「モンゴルの原子力人材育成戦略は、現在、モンゴル原子力庁が中心となり、人材育成インフラ開発、人材育成に関する法律・システムの整備、人材育成分野における国家・地域間の協力連携の推進を進めており、体系的な教育研修を推進している。昨今、モンゴルにおいても、福島事故の後、原子力に対するイメージ・世論は低下していることが分かった。加えて、廃棄物処理処分場についての報道にもモンゴル国民はセンシティブに反応しており、イメージ低下に影響しているということが窺われた。しかし、今回お会いした、モンゴル原子力庁やモンゴル国立大学の関係者は、原子力が将来モンゴルにとって不可欠なエネルギーであるという認識のもと、将来の原子力導入に向けて前向きな姿勢であることに変化はなく、原子力人材育成への取り組みも非常に熱心であることが実感された。また、今回の訪問を通じて、原子力人材育成ネットワークのもとに、モンゴル・日本両国の人材育成協力を今後もさらに進めていくことをお互いに確認することができた。」 http://jn-hrd-n.jaea.go.jp/info/pdf/chousa%20h23-1.pdf
		7月1日、共同通信、「モンゴルに核処分場 東芝が米高官に書簡」 「米原子力大手ウェスチングハウス・エレクトリックを子会社に持つ東芝の佐々木則夫社長が5月中旬、米政府高官に書簡を送り、使用済み核燃料などの国際的な貯蔵・処分場をモンゴルに建設する計画を盛り込んだ新構想を推進するよう要請、水面下で対米工作を進めている」ことがわかった。 共同通信は5月12日付米エネルギー省のパネマン副長官宛ての書簡を入手。その書簡は米政府内で回覧されたことを原子力政策に携わる米政府当局者が認めた。書簡は、日米の一部メディアが4～5月にモンゴルでの処分場計画を報じたため「(モンゴルを巻き込んだ) C F S 構想は今や世界的に周知された」と認識しなければならない」と指摘。 「反対も予想されるので、進展継続を確かにするため、関係者がより緊密な調整を図ることが極めて重要。」豊富なウラン資源のあるモンゴルで事業を進める意義にも触れ、関係国の国民が「事業の価値を正しく理解する」ための努力が必要と主張。福島事故で「原子力産業に環境の変化が起きた」としながらも東芝として「C F S への積極的関与の方針に変化はない」と強調。一方、東芝広報室は書簡を送ったことを認め「モンゴルの C F S 構想は、国際的な核不拡散体制の構築、および同国の経済発展に寄与できるという点で意義がある」と述べた。
		7月1日、共同通信、東芝「(モンゴルの CFS 構想は) 世界に価値ある構想」と表明。

2011	7月1日、共同通信、勝田忠弘明治大学教授、「モンゴルで処分場を建設する技術的妥当性や優位性は見当たらない」「原発利用の「負」の部分の途上国に押しつけることで、日米はさらに気兼ねなく国内外で原発を推進することが可能になる。増え続ける使用済み燃料を減らそうとする意識も下がり、処分問題の根本解決にもならない。」 7月18日、共同通信、「(包括的燃料サービス構想に向けた日米モ政府の合意文書の原案に) モンゴルに貯蔵施設と明記 使用済み核燃料処分」 共同通信が入手した合意文書原案(英文)は、地球温暖化防止やエネルギー安全保障、経済発展の観点から原子力利用拡大に支持を表明。原発導入国に燃料供給を保証し、使用済み燃料の問題にも対処できる「核燃料サイクルの多国間アプローチ」が重要だとしている。また、2月作成の経産省資源エネルギー庁の内部文書は、モンゴルを舞台にしたCFS構想を、同省と東芝、米エネルギー省、モンゴル政府が「水面下で検討中」だと説明。モンゴル産ウランを加工した核燃料を新規原発導入国に供給し、使用済み燃料をモンゴルが引き取る計画の概要を示した上で、新規導入国のアラブ首長国連邦(UAE)とモンゴルが接触を開始したと記している。 7月18日、共同通信、「合意文書原案の要旨」 「包括的燃料サービス(CFS)をめぐる日米、モンゴル3カ国政府の合意文書原案の要旨は次の通り。 一、気候変動やエネルギー安全保障、経済発展の試練に立ち向かうため地球規模での原子力の平和利用拡大を支持する。 一、2010年の核拡散防止条約(NPT)再検討会議が、核燃料サイクルの多国間アプローチを進展させる重要性を認めたことに留意する。 一、CFSが市場に行き渡ること、原子力利用の拡大が可能になる。 一、商業ベースのCFS確立を促すため定期協議し、活動を調整する。 一、CFS構想に対して起こり得る世論の反応について検討する。 一、モンゴルでの使用済み燃料貯蔵施設の造成をめぐり、モンゴルに技術協力する可能性を国際原子力機関(IAEA)と協議する。 一、(米国が推進する)原子力損害補完的補償条約(CSC)に基づき、原子力賠償の国際的枠組みを構築し、CFSに加わる可能性のある国に参加を促す。」 7月19日、伴野副大臣とバートルガ・モンゴル道路・運輸・建設・都市計画大臣との会談。http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/7/0719_04.html 7月23日、インドネシア訪問時、松本外務大臣とザندانシャタル外務大臣会談。服部議員が7月27日の外務委員会で質問したところ、松本外相は「モンゴル側からは、国内法令の関係上、核廃棄物の国内の受け入れ、つまり外国から自国への受け入れは困難であるとの立場の表明があったと記憶している」と回答。 7月26日、「核廃棄物1キロ埋蔵すると500ドル」という記事。http://id.news.mn/content/75313.shtml 7月27日、共同通信、「核燃料の持ち込み困難 モンゴルが外相に伝達」 松本氏は外務委で、モンゴルのザندانシャタル外相と23日に会談した際に「国内の法令上、外国の使用済み核燃料を引き取り埋設処理するのは困難だ」との説明を受けたと指摘。モンゴルの反応については「どの国にとっても、他国の使用済み核燃料を引き取るのは簡単なことではない」と述べた。構想の進展状況に関しては日本、米国、モンゴルの間で非公式に意見交換する段階にとどまっていると説明した。 9月1日、核エネルギー庁長官エンフバットが核廃棄物処分場問題について非公式の協議が行なわれたことを証言し、急病で倒れる。 同日、バトbold首相がツイッターなどを使って、「外国の核廃棄物の受け入れはしない」と明言。 9月22日、エルベクドルジ大統領が国連総会で、「モンゴルに核廃棄物を搬入させてはならない」と演説。 同日、IAEA総会でエンフサイハン代表、モンゴル政府の考えを発表。It is well aware that exploitation of uranium would pose a number of challenges including ensuring physical security of nuclear material at all stages of nuclear fuel cycle, including waste disposal. 9月16日、外務省特任大使オンドラー解任。核廃棄物処分場問題に幕を引く。 10月3日、IAEA国際会議、鉱山エネルギー省と核エネルギー庁が出席し、「我々が、なぜ、原発を必要とするのか」を発表。 南ゴビ県のタワントルゴイ石炭やオユトルゴイ銅鉱山の開発のために電力が不足するという理由。しかし、石炭の火力発電所を建設予定。 東大久野特任教授、NPO法人MonAme主催「北東アジアにおける原子力の展望」シンポジウム。モンゴル「会議から得られた印象 参加した有識者間の議論から、今後の対モンゴル政策としては、ウラン資源採掘・精錬事業を自らが実施できるように支援すること、長期計画を考え、そのための人材育成に協力すること、研究原子炉の導入により、原子力研究教育レベルを向上させることであると思われる。モンゴルはMNAに興味をもっているが、モンゴル産のウランを調達できるような素地ができて初めて、廃棄物貯蔵というバックエンドのMNA議論が可能となるものと思われる。」 参加報告 http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/nonproliferation/docs/Nonproliferation_Mongolia_2011.pdf 10月26日、モンゴル国家大会議議員団、日本訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/others/mongolia_1110.html
------	---

2011		12月13日、デンベレル国会議長、玄葉外務大臣を訪問。これ以降、外務省ホームページにはウランという言葉が掲載されなくなる。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/12/1213_05.html
		12月27日、原産協会「モンゴルの原子力発電導入準備とウラン鉱業」発表。 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf
2012		1月9日、齋藤内閣官房副長官のモンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/others/mongolia_1201_2.html
		3月、バトbold首相、来日前、共同新聞のインタビューに、モンゴル最初の原発は日本製のものを建てること、ウランの輸出について意欲をみせる。 -ULAN BATBOR (Kyodo) - Mongolian Prime Minister Sukhbaataryn Batbold has called for boosting economic cooperation with Japan in the areas of nuclear energy and development of natural resources such as rare earth minerals. - (Mainichi Japan) February 21, 2012 In a recent interview with Kyodo News, Batbold said he plans to visit Japan in March and expressed eagerness to forge cooperation with Japan as Mongolia, which also has rich uranium reserves, plans to build its first nuclear power plant."Japan possesses high technology in the peaceful use of nuclear power and has lessons from Fukushima," he said, referring to Japan's recovery from a deadly accident at the Fukushima Daiichi nuclear power plant in the wake of a massive earthquake and tsunami in March last year
		3月11日、東日本大震災追悼集会。
		3月11日、バトbold首相、追悼集会参加。
		3月12日、バトbold首相、野田首相、EPA 交渉開始。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_noda/pdfs/1203_mongolia_03.pdf 日本国政府とモンゴル国政府との共同新聞発表 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_noda/pdfs/1203_mongolia_01.pdf ウランも、原発も言及なし。「日・モンゴル経済連携協定（EPA）のための交渉開始に関する共同発表」「モンゴル国に対する円借款及び無償資金協力に関する交換公文への署名」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/24/3/0312_08.html バトbold首相は日本で何を締結したか、国民に充分説明しないと国民は不満。
		4月26日、ウランバートルで「チェルノブイリを忘れるな」デモ。
		5月18日、バトbold首相、各部局から提出されたモンゴル政府投資計画予算案を承認。反核運動家たちがモンゴル政府のウェブサイトリンクされた「案」を見つけ、議論不十分なまま予算案を通過させたと怒りの記者会見を開く。 「案」には、「マルダイ、ダランジャルガラン、アルダルトルゴイに放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設」と書かれていた。
		7月5日、国家発展改革委員会がホームページで予算通過した政府投資計画書を公開。7月5日の「ウヌドゥル」紙で反核運動家の誤解を印象づける。 通過した予算には、「マルダイ、ダランジャルガランに放射性測定施設建設、放射化学実験所建設」と書かれていた。
		この頃から「モンアメ」、核エネルギーの平和利用に関するリーフレットを複数発行。
		この頃から、モンアトム社、ホームページに冷蔵庫サイズの小型原子炉の写真を掲載。
		8月13日、今岡良子とモンゴルの反核運動家レンスキー（元放射線管理従事者）が、マルダイ旧ウラン鉱山訪問。ウランのばた山で5.8 μ Sv/h を測定。
		9月3日、エルベクドルジ大統領、イラクを訪問し、外国人首脳として初めて、核濃縮施設を見学。モンゴルでのウラン濃縮に意欲。
		9月4日、在モンゴル北朝鮮大使が、モンゴル国会議長を訪問。今年末、北朝鮮の国会議長がモンゴル訪問予定。その時に、モンゴルがラジン港を使って海の出口をもつことについて協議する予定。
		9月5日、「ウドウリン・ソニン」紙、今岡が書いたマルダイ訪問記を掲載。話題になる。「ナショナルポスト」紙もマルダイについて取材。
		9月10日から14日、北大奈良林教授、東工大尾原教授ら「核発電所の設置、運転、整備をテーマとする技術者のための特別研修」於モンゴル国立大学。
		9月17日から核物理学の応用 国際学術会議（「モンアメ」主催）。
		9月19日 IAEA 総会でエンフサイハン代表出席 "Mongolia is well aware that exploitation of uranium would pose a number of challenges, including ensuring physical security of nuclear material at all stages of nuclear fuel cycle." 昨年は、この文末に including nuclear waste と書いていたが、今年は、ここだけ削除されていた。
		9月25日、野田首相、エルベクドルジ大統領とニューヨークで日モ首脳会談。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/visit/1209_sk.html
		9月26日、ドルノド県の実地監査官、今岡が宿泊した民家を調査。

2012	10月1日、国会議員3人、ガンバートル（元全労組委員長）、バットエルデネ（元横綱）、ボロルチョローン（元ドルノド小麦社社長）が、反原発の立場を明らかにし、2013年予算案からウラン関連項目を削除させたことを記者会見で報告。
	10月2日、ボルド外務大臣、来日。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/24/10/1002_04.html
	10月8日、核エネルギー庁プレブスレン「マルダイ周辺の放射線量は許された水準を越えていない」とレンスキーの測定値を否定。
	11月15日、フリージャーナリスト西谷文和、マルダイに向かう。ウラン鉱のぼた山で24 μ Sv/hを測定。
	11月16日、杉山アジア大洋州局長、モンゴル訪問。
	11月28日～1月31日にかけて、ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の2才牛、合計19頭、突然死する。反核運動家が記者会見、調査を始める。ここはアレバ系のコジェゴビ社がインシチュリーチング法でウランを試験採掘している地域。
	11月28日、アリオンボルドとテグスバヤル核エネルギー庁長官の論争。 http://golomt.org/2012/11/28/tegshbayar/
	12月3日、核エネルギー庁テグスバヤル長官が「イエローケーキはまったく無害」、モンゴル国立大学ダワー教授は「原発は必然。事故は1000年に一度」と、テレビで頻りに宣伝することに対して、反核団体が反発。
	12月6日、樺葉賀津也外務副大臣がアイルランドでの欧州安全保障協力機構（O S C E）外相理事会の機会にボルド・モンゴル外務大臣と会談。
	12月7日、反ウラン探査・反ウラン採掘を表明するモンゴル国会議員の有志の会発足。バットザンダン、バーケイ、ボロルチョローン、ビャンバツオクト、ガンバートル、オユンゲレル文化・スポーツ・観光大臣
	12月13日、「原子力発電所はモンゴルに必要か」 MNC TV 番組 - http://www.youtube.com/watch?v=rrIIK8ukPGE
2013	1月5日、今岡良子と西谷文和、モンアトムジャパン社訪問、営業活動を継続していることを確認。
	1月10日、核エネルギー庁長官N. テグスバヤルが「ウランは無害」と発言。
	1月10日、西谷文和が、モンアトムジャパン社長植村にインタビュー。
	1月23日、「核エネルギー庁からのお知らせ」 http://mining.time.mn/content/24232.shtml
	ドルノド県ダシバルバル郡（マルダイ村のある）のシンシン社とフンブー社に関し、核エネルギー庁から国民一般に情報開示。現在、モンゴル国内ではウランの採鉱、加工は行っていない。この2つの鉱山は混合鉱山なので、黒鉛と亜鉛を採鉱し、加工していることを明らかにした。
	2月14日、ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の地下水から通常以上のセレンが検出された、とTV9が報道。 https://www.youtube.com/watch?v=k46XcMrfe24
	2月17日、N. テグスバヤル核エネルギー庁長官、ブルームバーグTVに出演。 http://www.youtube.com/watch?v=SW93ZFjGkYE
	3月3日、N. テグスバヤルのインタビュー「イエローケーキは危険がないの？」 http://www.youtube.com/watch?v=eF1Ft1DZgwc&feature=youtu.be 「去年、アレバはイエローケーキを取った後の廃棄物を自分で保管している。」「イエローケーキを作っても、国際基準を守っていれば、安全」
	3月4日、アリオンボルド、氏名と顔を公表し、NGO ゴロムト Tsekh の代表になる。'Niigmiin toli' ,2013.04.01.
	3月6日、ECO TV 3月9日の運動についてミンジュール、アリオンボルド、ツァーガンハス代表エルデネザヤ出演。
	3月11日、ドルノゴビ県ウランバドラフ群の家畜死亡問題について、家畜医療繁殖所は、放射性物質と重金属が原因と発表。
	3月11日、「福島を忘れるな」「核なきモンゴル」デモ。ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の遊牧民も合流。
	3月12日、アルタンホイグ首相、ドルノゴビ県を訪問し、遊牧民ノルスレンと郡長エルデネチメグと会見。ドルノゴビ県でウランを掘ったために家畜が死んだ」MNCTV http://www.youtube.com/watch?v=lWaZwKtUTXQ
	3月12日、Ch. ムンフバヤル、「原子力発電所は国に損害を与える設備」
	3月25日、ウネン紙がドルノゴビ県ウランバドラフ郡を取材。
	3月25日、ウヌードウル紙記事、「コジェゴビ社はまったく罪がないのか？」 http://www.mongolnews.mn/i/41121

2013	3月26日、モンゴル国営TVのニュース、「ウランの鉱毒が始まっていることを核エネルギー庁は理解しようとしないうまま・・・」 http://www.youtube.com/watch?v=Wd-w9KA8G0M
	3月27日、24時間 インターネット新聞、D. ガンボルド「オランバドラフ郡の鉱毒被害を誰が救うのか」 http://www.24tsag.mn/content/29252.shtml
	3月30日、ドルノゴビ県サインシャンド郡で遊牧民、市民、県都の若者たちが、「反ウラン運動」という組織の最初の会合。住民2200人が、ドルノゴビ県からアレバを撤退させる意志を表明したことを反核運動家が明らかにした。
	3月31日、安倍首相、モンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/page11_000001.html 「エルチ・イニシアチブ」発表。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/files/000002634.pdf
	4月1日、ノーカーデイ、於ウランバートル アリオンボルド、No Nukes 宣伝。
	4月2日、アルタンホイク首相、アレバ系コジェゴビが汚染した地に調査隊を派遣。 http://chuhal.mn/r/22049
	4月2日、ウネン紙、「奇形仔畜を首相チームは無視」 http://sonin.mn/news/politics-economy/14704
	4月3日、ドルノゴビ県牧民D. ノルスレン（奇形仔畜を首相の調査チームが調査しなかったことに抗議）「コジェゴビ社長とともに死んだ子牛を集めて、ゴミのように地面に埋めた。」 http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=294
	4月4日、アレバグループを批判する記事。 http://www.sonin.mn/news/gemt-hereg/14820
	4月4日、ザロー インターネット新聞、「恥ぬ目、モンゴルに瞬き」アレバについて http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=308
	4月9日、ウヌードウル紙、「誰の利益を守り、検査結果を隠しているのか？」Kh.Erdeneburgan ドルノゴビ在住ウヌードル記者 http://www.mongolnews.mn/i/41121
	4月10日、ウネン紙、「『コジェゴビ』の指導者はウランの放射能を30ではなく、2倍多く出していた。」 http://www.unen.mn/content/21032.shtml?alias=mining
	4月15日、家畜繁殖研究所の検査結果。 http://golomt.org/2013/04/15/malemn/
	4月17日、ザロー インターネット新聞、「ドルノゴビ県の遊牧民の子牛22頭がウランで死んだのかどうか、来週決着。」 http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=482#respond
	4月25日、ゴーゴー インターネット新聞、「モンゴル国立大学教授G. フーフンフー『モンゴルにおける核関連施設の誕生、発展、将来の方向について』」 http://news.gogo.mn/r/121791
	4月27日、ウランバートルで民主主義共同体閣僚級会合の会議開催。鈴木俊一外務副大臣が出席。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/page3_000119.html
	5月1日、アルタンホイク首相、ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の問題について「放射性物質や重金属が原因でない」と中間報告。 http://www.youtube.com/watch?v=f2g280PEfPA
	5月1日、アリオンボルド代表、人気インタビュー番組 De Fact に出演。 http://www.youtube.com/watch?v=7V7rHf26r84&list=UU2JEDwfHWtZlcwRXIGa6NCA&index=1
	5月1日、アルタンホイク首相、オランバドラフ鉱毒事件の結果を報告。 https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=f2g280PEfPA
	5月3日、スフバートル県を拠点とする反核NGO バヤンシャルガのプロダ、「『イエローケーキ』を掘り出す時、化学物質と放射性物質の二重の被害を自然環境と家畜と人間に与える可能性がある。」 http://www.bayansharga.mn/?p=888
	5月6日～8日、ウラン鉱採掘と加工、核廃棄物の監査についてのセミナー 於核エネルギー庁 講師はアメリカ人。
	5月8日、「ドルノゴビ、牧民ノルスレンの証言」 https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviiin/2013-05-08
	5月13日、5つのNGOによるウランバドラフ郡、現地調査のまとめ。 http://www.youtube.com/watch?v=bO_7NKNJKgY
	5月13日、「ドルノド県オランバドラフ郡アルガラント区の人びとは、ウランの採掘に反対している。」 http://www.youtube.com/watch?v=ogh9TM1JZUc&feature=endscreen
	5月13日、NGOがオランバドラフの調査報告記者会見。 https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=fadIEeDpvvA http://www.youtube.com/watch?v=iHVv1qkuFkc

2013	5月17日、ウネン紙「アリオンボルド：コジェゴビの事業のせいで家畜が死んだことが判明したら政府は責任をとる、と言った。」 https://www.facebook.com/photo.php?fbid=668585259822562&set=a.442251302455960.122951.263100847037674&type=1&theater
	5月17日、モンゴリン・メデー紙「アリオンボルド：遊牧民は財産と健康と精神的な被害を受けている。」 http://www.mminfo.mn/content/44448.shtml?alias=interview
	5月19日、オランバドラフ郡ノルスレンの死亡した家畜の写真を Golomt 反核運動 が facebook で公表。 https://www.facebook.com/media/set/?set=a.668061373208284.1073741831.263100847037674&type=1
	5月19日、オランバドラフ郡アルガラントの牧民から提供された家畜の被害写真がネット上に公開された。 https://www.facebook.com/photo.php?v=662634647095490
	5月23日、メデー インターネット新聞「Ts. ムンフバヤル：長い名前の法律を守らなければ、また闘うことになる。」 http://www.medee.mn/main.php?eid=31399
	5月26日、24時間 インターネット新聞「Ch. ムンフバヤル：コジェゴビ社に罪がないだと？」 http://www.24tsag.mn/content/32982.shtml
	5月28日、オランバドラフ郡遊牧民パンサルマー記者会見。 http://www.youtube.com/watch?v=TIAMD4l2id0&feature=youtu.be
	5月28日、チャンネル MN2 のニュースでオランバドラフ郡の遊牧民の記者会見を放送。 http://www.youtube.com/watch?v=WxhTwMmXM8A&feature=youtu.be
	5月28日、チャンネル9のニュースでオランバドラフ郡の遊牧民の記者会見を放送。 http://www.youtube.com/watch?v=r0MHA_g_B2vE&feature=youtu.be
	5月28日、NGO の調査のまとめ「オランバドラフ郡の真実」C1 TV http://www.youtube.com/watch?v=-KbzfCiacT4&feature=youtu.be
	記者会見で公開された異常出産の家畜の写真が、facebook にアップされ、公開された。 https://www.facebook.com/media/set/?set=a.522219607837572.1073741825.139421219450748&type=1
	5月31日、M ニュース インターネット新聞、「オランバドラフ郡の家畜はセレンと銅の鉱毒だと首相は説明した。」 http://mnews.mn/news/1/single/8920
	6月2日、アラブト インターネット新聞、「牧民、D. ガントゥムル：大統領に 1500 筆の署名を渡した。」 http://www.aravt.mn/content/2994/.htm
	6月6日、反核 NGO ゴロムトのブログ、「オランバドラフの人々のいるところで実験をしているのか？」 http://golomt.org/2013/06/06/5365/
	6月11日、ボルド外務大臣、岸田外務大臣を訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000329.html 安倍首相を訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page6_000115.html

核エネルギー関係用語集

(日本語－モンゴル語，モンゴル語－日本語)

箕原 丈

凡 例

～ 用例・準見出しの中の語の全部、または一部に変えて用いる。
→ 参照すべきものを示す。

核エネルギー関係用語集（日本語－モンゴル語）

	日本語	モンゴル語
あ	RI → 放射性同位元素（放射性同位体、ラジオ・アイソトープ）	
	IAEA	Олон Улсын Цөмийн Энергийн Агентлаг
	アイソトープ	изотоп
	圧力容器	реакторын даралтат сав
	アルファ線	альфа туяа
	アレバ社	Арева корпораци
	安定ヨウ素剤	тогтвортой иодын бэлдмэл
	イエローケーキ	шар нунтаг
	一時保管	түр (хугацаанд) хадгалах
	遺伝子を傷つける	удамшлын генийг гажуудуулах, удамшлын генийг өөрчлөх
	ウラン	уран, ураан
	～原石	ураны хүдэр
	～鉱滓	ураны хаягдал шавар
	～鉱山	ураны орд
	～テイリン → ～鉱滓	
	～燃料体	ураны түлш
	～廃棄物	ураны хаягдал
	液化天然ガス	шингэрүүлсэн хий
	エックス線	рентген туяа
	エネルギー	эрчим хүч, энерги
	オイルショック	газрын тосны хямрал, нефтийн хямрал
	温室効果ガス	хүлэмжийн хий
か	加圧水型原子炉 (Pressurized Water Reactor)	даралтат усан реактор
	回収	буцааж авах, эргүүлж авах
	外部被曝	цацраг идэвхит бодисоор гаднаасаа хордох, биеийн гадна хэсэг цацраг туяанд өртөх, гадна хордолт
	解剖する	задлан хийх
	核イニシアチブ	Цөмийн санаачлага төсөл
	核エネルギー	цөмийн эрчим хүч
	核燃料	цөмийн түлш
	～サイクル	цөмийн түлшний цикл
	～再処理工場	цөмийн түлшийг дахин боловсруулах үйлдвэр
	～廃棄物	цөмийн түлшний хаягдал
	～リース	цөмийн түлшний лийзинг

か	格納容器	реакторын битүүмжит сав
	核の汚染	цөмийн бохирдол
	核廃棄物	цөмийн хаягдал
	核反応	цөмийн урвал
	～炉	цөмийн реактор
	核物質防護規定	цөмийн бодисоос хамгаалах заалт
	核分裂	цөмийн задрал
	核兵器不拡散条約	Цөмийн зэвсэг үл дэлгэрүүлэх гэрээ
	核融合	цөмийн синтез
	化石燃料	(чулуужсан) малтмал түлш
	火力発電	дулааны цахилгаан станц
	癌	хорт хавдар
	環境アセスメント	байгаль орчинд үзүүлэх нөлөөний үнэлгээ
	環境モニタリング	байгаль орчны хяналт (шинжилгээ)
	ガンマ線	гамма туяа
	気候変動	уур амьсгалын өөрчлөлт
	基準値	жишиг хэмжээ, стандарт хэмжээ
	グレイ (Gy)	грей
	黒い雲	үхлийн үүл, үхлийн хар үүл
	軽水炉	хөнгөн усны реактор
	原子燃料 → 核燃料	
	原子力災害	цөмийн гамшиг
	原子力発電所	атомын цахилгаан станц (АЦС), цөмийн цахилгаан станц
	甲状腺	бамбай булчирхай
	高速増殖炉	хурдан нейтроны цөмийн реактор
	坑道	гүн суваг, шуудуу, цооногт
	鉱物資源	эрдэс баялаг, ашигт малтмалын баялаг
	高レベル放射性廃棄物(高濃度廃棄物、HLW)	өндөр төвшний цацраг идэвхит хаягдал
	国益	үндэсний эрх ашиг
	国際原子力機関 → IAEA	
	国民投票	бүх нийтийн санал асуулга
	国家機密	улсын өндөр зэрэглэлийн нууц
	混合酸化物燃料 → MOX 燃料	
さ	災害復興	гамшигт нэрвэгдсэн газрын сэргээн босголт
	採鉱	олборлолт
	最終処分	булшлах, хугацаагүй хадгалах, бүр хадгалах
	再処理	дахин боловсруулах

さ	再生可能エネルギー	сэргээгдэх эрчим хүч
	再転換	дахин хувиргах
	CFS	Цөмийн түлшний иж бүрэн үйлчилгээ, цөмийн түлш зээлдүүлэх үйлчилгээ
	シーベルト (Sv)	зиверт
	シェールガス	элсэн чулуун дахь цардсыг нэрж гаргах шингэрүүлсэн хий
	自然から受ける被曝量	байгалийн эх үүсвэрээс авах цацрагийн тун
	持続可能な発展	тогтвортой хөгжил
	死の灰	үхлийн үнс
	重水炉	хүнд усны реактор
	使用済み核燃料 (UNF)	ашигласан цөмийн түлш
	～プール	ашигласан цөмийн түлшийн агуулах
	除線作業	цацраг идэвхит бодис цэвэрлэх ажил
	処分	устгах
	推進する	дэмжих
	推定埋蔵量	нөөцний урьдчилсан тооцоо, нөөцний хэмжээний таамаг
	ストロンチウム	стронци
	成形加工	боловсруулах
	成人	насанд хүрэгч
	精製工場	ялган цэвэрлэх үйлдвэр
	精錬	баяжуулах
	石炭	нүүрс
	石油	газрын тос, нефт
	石油危機 → オイルショック	
	先住民	уугуул иргэд
	線量計	цацраг хэмжигч
た	地下資源	ашигт малтмал, гарзын баялаг
	地球温暖化	дэлхийн дулаарал
	蓄積する	хуримтлах
	地質調査	газрын судалгаа, эрэл хайгуул хийх
	地熱	газрын гүний дулаан (геотермал)
	中間貯蔵	түр (хугацаанд) хадгалах
	直接被曝	(цацраг идэвхит бодисын) шууд хордолт
	低線量	идэвхжил багатай цацраг
	低レベル放射性廃棄物	бага төвшний цацраг идэвхит хаягдал
	天然ウラン原石	байгалийн уран
	天然ガス	байгалийн хий
	転換	хувиргах
	電力会社	эрчим хүчний компани

た	トリチウム	трити
	トレンチ	гүн суваг, шуудуу
な	内部被爆	цацраг идэвхит бодисоор дотроосоо хордох, цацрагийн дотор хордолт
	ナトリウム	натри
	二酸化ウラン	ураны диоксид
	二酸化炭素	нүүрстөрөгчийн давхар исэл, нүүрс хүчил
	二次被曝(間接被曝)	(цацраг идэвхит бодисын) дам хордолт
	濃縮	баяжуулалт
	濃縮六フッ化ウラン	баяжуулсан ураны гексафторид
は	バイオマス	биомасс
	白血病	цус цагаан эстэх, цусны хорт хавдар
	半減期	хагас задралын үргэлжлэх хугацаа (үе)
	晩発性放射線障害	цацрагийн хожуу илрэх хордолт, цацраг идэвхит бодисын хожуу илрэх хор уршиг
	被曝	цацрагийн хордолт, цацраг идэвхит бодисоор хордох, цацраг идэвхит туяанд өртөх,
	被曝量	цацрагийн хордолтын хэмжээ, хүлээн авсан цацраг идэвхит бодисын хэмжээ
	表層水	гадаргууны ус
	プルトニウム	плутон
	平和利用	энх тайвны зорилгоор ашиглах
	ベータ線	бетта туяа
	ベクレル (Bq)	беккерель
	変異	өөрчлөлт орох
	放射性元素	цацраг идэвхит элемент
	放射性同位元素	цацраг идэвхит изотоп
	放射性廃棄物	цацраг идэвхит хаягдал
	放射性ヨウ素	цацрагт иод
	放射線	цацраг (идэвхит) туяа
	～防護服	цацраг туяанаас хамгаалах хувцас
	放射能汚染	цацрагийн бохирдол
	ボーリング	өрөмдлөг хийх
ま	マイクロシーベルト	микрозиверт
	メルtdown	цөмийн түлш хайлах
	MOX 燃料	уран-плутони холимог түлш
	モニタリング・ポスト	мониторингийн хэмжигч
ら	ラジオ・アイソトープ → 放射性同位元素	

ら	ラドン	радон хий
	冷却剤	хүргүүлэх бодис
	劣化ウラン	ядуурсан уран
	～廃棄物	ядуурсан ураны хаягдал
	六フッ化ウラン	ураны гексафторид
	炉心	реакторын гол хэсэг
	露天掘り	ил уурхай, уурхайн ил малтлага

核エネルギー関係用語集（モンゴル語－日本語）

	モンゴル語	日本語
а	альфа туяа	アルファ線
	Арева корпораци	アレバ社
	атомын цахилгаан станц (АЦС), цөмийн цахилгаан станц	原子力発電所
	ашигласан цөмийн түлш	使用済み核燃料 (UNF)
	ашигласан цөмийн түлшийн агуулах	使用済み核燃料プール
	ашигт малтмал, гарзын баялаг	地下資源
б	бага төвшний цацраг идэвхит хаягдал	低レベル放射性廃棄物
	байгалийн уран	天然ウラン原石
	байгалийн хий	天然ガス
	байгалийн эх үүсвэрээс авах цацрагийн тун	自然から受ける被曝量
	байгаль орчинд үзүүлэх нөлөөний үнэлгээ	環境アセスメント
	байгаль орчны хяналт (шинжилгээ)	環境モニタリング
	бамбай булчирхай	甲状腺
	баяжуулалт	濃縮
	баяжуулах	精鍊
	баяжуулсан ураны гексафторид	濃縮六フッ化ウラン
	беккерель	ベクレル (Bq)
	бетта туяа	ベータ線
	биомасс	バイオマス
	боловсруулах	成形加工
	булшлах, хугацаагүй хадгалах, бүр хадгалах	最終処分
	буцааж авах, эргүүлж авах	回収
	бүх нийтийн санал асуулга	国民投票
г	гадаргууны ус	表層水
	газрын гүний дулаан (геотермал)	地熱
	газрын судалгаа, эрэл хайгуул хийх	地質調査
	газрын тос, нефт	石油
	газрын тосны хямрал, нефтийн хямрал	オイルショック, 石油危機
	гамма туяа	ガンマ線
	гамшигт нэрвэгдсэн газрын сэргээн босголт	災害復興
	грей	グレイ (Gy)
	гүн суваг, шуудуу	トレンチ
	гүн суваг, шуудуу, цооногт	坑道
д	даралтат усан реактор	加圧水型原子炉 (Pressurized Water Reactor)
	дахин боловсруулах	再処理

д	дахин хувиргах	再転換
	дулааны цахилгаан станц	火力発電
	дэлхийн дулаарал	地球温暖化
	дэмжих	推進する
ж	жишиг хэмжээ, стандарт хэмжээ	基準値
з	задлан хийх	解剖する
	зиверт	シーベルト (Sv)
и	идэвхжил багатай цацраг	低線量
	изотоп	アイソトープ
	ил уурхай, уурхайн ил малтлага	露天掘り
м	микротиверт	マイクロシーベルト
	монитарингийн хэмжигч	モニタリング・ポスト
н	насанд хүрэгч	成人
	натри	ナトリウム
	нөөцний урьдчилсан тооцоо, нөөцний хэмжээний таамаг	推定埋蔵量
	нүүрс	石炭
	нүүрстөрөгчийн давхар исэл, нүүрс хүчил	二酸化炭素
о	олборлолт	採鉱
	Олон Улсын Цөмийн Энергийн Агентлаг	IAEA, 国際原子力機関
ө	өндөр төвшний цацраг идэвхит хаягдал	高レベル放射性廃棄物(高濃度廃棄物、HLW)
	өөрчлөлт орох	変異
	өрөмдлөг хийх	ボーリング
п	плутон	プルトニウム
р	радон хий	ラドン
	реакторын битүүмжит сав	格納容器
	реакторын гол хэсэг	炉心
	реакторын даралтат сав	压力容器
	рентген туяа	エックス線
с	стронци	ストロンチウム
	сэргээгдэх эрчим хүч	再生可能エネルギー
т	тогтвортой иодын бэлдмэл	安定ヨウ素剤
	тогтвортой хөгжил	持続可能な発展
	трیتی	トリチウム
	түр (хугацаанд) хадгалах	中間貯蔵
у	удамшлын генийг гажуудуулах, удамшлын генийг өөрчлөх	遺伝子を傷つける
	улсын өндөр зэрэглэлийн нууц	国家機密

у	уран, ураан	ウラン
	уран-плутони холимог түлш	MOX 燃料, 混合酸化物燃料
	ураны гексафторид	六フッ化ウラン
	ураны диоксид	二酸化ウラン
	ураны орд	ウラン鉱山
	ураны түлш	ウラン燃料体
	ураны хаягдал	ウラン廃棄物
	ураны хаягдал шавар	ウラン鉱滓, ウランテイリン
	ураны хүдэр	ウラン原石
	устгах	処分
	уугуул иргэд	先住民
	уур амьсгалын өөрчлөлт	気候変動
ү	үндэсний эрх ашиг	国益
	үхлийн үнс	死の灰
	үхлийн үүл, үхлийн хар үүл	黒い雲
х	хагас задралын үргэлжлэх хугацаа (үе)	半減期
	хорт хавдар	癌
	хөнгөн усны реактор	軽水炉
	хувиргах	転換
	хурдан нейтроны цөмийн реактор	高速増殖炉
	хуримтлах	蓄積する
	хүлэмжийн хий	温室効果ガス
	хүнд усны реактор	重水炉
	хүргүүлэх бодис	冷却剤
ц	цацраг (идэвхит) туяа	放射線
	цацраг идэвхит бодис цэвэрлэх ажил	除線作業
	цацраг идэвхит бодисоор гаднаасаа хордох, биеийн гадна хэсэг цацраг туяанд өртөх, гадна хордолт	外部被曝
	цацраг идэвхит бодисоор дотроосоо хордох, цацрагийн дотор хордолт	内部被曝
	(цацраг идэвхит бодисын) дам хордолт	二次被曝(間接被曝)
	(цацраг идэвхит бодисын) шууд хордолт	直接被曝
	цацраг идэвхит изотоп	放射性同位元素, 放射性同位体, RI (ラジオ・アイソトープ)
	цацраг идэвхит хаягдал	放射性廃棄物
	цацраг идэвхит элемент	放射性元素
	цацраг туяанаас хамгаалах хувцас	放射線防護服
	цацраг хэмжигч	線量計
	цацрагийн бохирдол	放射能汚染
	цацрагийн хожуу илрэх хордолт, цацраг идэвхит бодисын хожуу илрэх хор уршиг	晩発性放射線障害

ц	цацрагийн хордолт, цацраг идэвхит бодисоор хордох, цацраг идэвхит туяанд өртөх,	被曝
	цацрагийн хордолтын хэмжээ, хүлээн авсан цацраг идэвхит бодисын хэмжээ	被曝量
	цацрагт иод	放射性ヨウ素
	цөмийн бодисоос хамгаалах заалт	核物質防護規定
	цөмийн бохирдол	核の汚染
	цөмийн гамшиг	原子力災害
	цөмийн задрал	核分裂
	Цөмийн зэвсэг үл дэлгэрүүлэх гэрээ	核兵器不拡散条約
	цөмийн реактор	核反応炉
	Цөмийн санаачлага төсөл	核イニシアチブ
	цөмийн синтез	核融合
	цөмийн түлш	核燃料, 原子燃料
	цөмийн түлш хайлах	メルトダウン
	цөмийн түлшийг дахин боловсруулах үйлдвэр	核燃料再処理工場
	Цөмийн түлшний иж бүрэн үйлчилгээ, цөмийн түлш зээлдүүлэх үйлчилгээ	CFS
	цөмийн түлшний лийзинг	核燃料リース
	цөмийн түлшний хаягдал	核燃料廃棄物
	цөмийн түлшний цикл	核燃料サイクル
	цөмийн урвал	核反応
	цөмийн хаягдал	核廃棄物
	цөмийн эрчим хүч	核エネルギー
	цус цагаан эстэх, цусны хорт хавдар	白血病
ч	(чулуужсан) малтмал түлш	化石燃料
ш	шар нунтаг	イエローケーキ
	шингэрүүлсэн хий	液化天然ガス
э	элсэн чулуун дахь цардсыг нэрж гаргах шингэрүүлсэн хий	シェールガス
	энх тайвны зорилгоор ашиглах	平和利用
	эрдэс баялаг, ашигт малтмалын баялаг	鉱物資源
	эрчим хүч, энерги	エネルギー
	эрчим хүчний компани	電力会社
я	ядуурсан уран	劣化ウラン
	ядуурсан ураны хаягдал	劣化ウラン廃棄物
	ялган цэвэрлэх үйлдвэр	精製工場

編集後記

◇昨年夏の夏の水禁（原水爆禁止 2012 年世界大会・科学者集会）での今岡さんの報告（「モンゴル国におけるウラン開発、原発建設、使用済み核燃料問題」）の一部を見せてもらって以来、『モンゴル研究』にこの問題について載せなければならない、といった思いに取り憑かれた。モンゴル研究会内には、モンゴル核問題研究会ができていて活動していた。例会で二度この問題を取り上げ、モンゴル核問題研究会の方々に話をしてもらった。知れば知るほど、ほっとけない気持ちになった。この問題を掘り下げること、皆に知ってもらうことが必要だと思った。

◇とにかく特集号として、また、拙速を恐れず出そうということで、この春から短期間で編集し、7 月、『モンゴル研究』28 号、モンゴル核問題特集号が形となった。職業や研究対象を異にするメンバーが 1 つの問題に協力して取り組む過程は、長年『モンゴル研究』の編集・製作に関与してきたが初めての経験で、研究会の底力を感じた。

◇さらに、編集会議での会話から開催へ至った緊急勉強会は、有益な貴重な時間となった。

◇現在進行形のこの問題、継続して取り組み、深化させることは勿論、その都度、何らかの形で提示していくことになる。忍耐強くありたいと思う。（る）

◇「モンゴル研究」も 28 号を数えることになりました。この特集号は、研究会が大切にしてきたものがよく出ていると思います。

◇アリオンボルドさんの話の中で、主人も客も不安を抱えながら、「肺に黒いものがあったり、白いものが他の臓器にあたり」する山羊や、乳を入れた茶を、不安を抱きつづいた話話話話は衝撃的でした。客に供した山羊は、大量生産の名も無き一頭ではありません。ともに暮らし育ててきた、他にはいない山羊なのです。主人自ら屠殺するわけですが、もちろん無造作に屠殺できるわけではありません。その山羊を客はいただく、いや、主人も客もいただくわけです。それを不安を抱えながらいただかなくてはならないとは…。原因は未だ特定はされてはいませんが、大地を汚染するとはこういうことなのだということがひしひしと伝わって来ました。水俣病の場合は猫であったと…。

◇これからも、核問題だけではなく、今までよりさらに多様に、モンゴルの大地や人々の営みから学び、この世界の中で、この社会の中で生きていくこととしっかりと結びついた研究でありたい。「苦しみも未来もともに」できる研究でありたいと思います。（周）

モンゴル研究 第 28 号

2013 年 7 月 31 日発行 定価 300 円

編集・発行 モンゴル研究会

〒 562 - 8558 箕面市粟生間谷東 8 - 1 - 1 国立大学法人大阪大学

言語文化研究科 今岡良子研究室気付

モンゴル研究会 HP: <http://mongolkenkyukai.jp/>

e-mail: mail@mongolkenkyukai.jp

MONGOL-KENKYŪKAI (the Society of Mongolian Studies, Founded in 1970)

c/o Imaoka's office, Osaka UNIVERSITY, Studies in Language and Society,
Graduate School of Language and Culture, Aomatanihigashi 8-1-1, Minoo-
shi, Osaka

MONGOL-KENKYŪ

Journal of Mongolian Studies

Special Issue "Mongolian Nuclear Crisis"

No.28

CONTENTS

Jul. 2013

Remarks for Special Issue on "Mongolian Nuclear Crisis".....	1
Aspects of the Nuclear Problem in Mongolia <i>Yutaka SHIBAYAMA</i>	3
A Nomad says "Don't Dig Our Homeland. Uranium is nothing but material for Nuclear Bomb": A Report from Mardai in 2012	<i>Ryoko Imaoka</i> .. 23
There's Something Happening in East Gobi: COGEGOBI (Areva Mines Subsidiary) and the Pollution at Dulaan Uul	<i>Ryoko Imaoka</i> ... 41
There was a program deleted from the 2013's Budget. — No.6 Program, "Radioactive Mineral Resources and the Use of Nuclear Energy	<i>Ryoko Imaoka</i> ... 55
"Nuclear Samurais, Hand off Mongolia! We Have a Strong Bond with Fukushima!" Anti Nuclear Movement Mongolia appeals to Japanese Prime Minister Abe	<i>Ryoko Imaoka</i> ... 66
Introduction to Anti Nuclear Movement in Mongolia	<i>Joe Minohara</i> ... 72
"Sharing the Pain,Realizing a Brighter Future Together" From a Dialogue between the Leader of Golomt Anti-Nuclear Movement and Participants at the Study Session on "Mongolian Nuclear Crisis"	<i>Ruriko Yoshimoto</i> ... 74

Timeline

Timeline of the history of the Nuclear Problem in Mongolia	<i>Ryoko Imaoka</i> ... 79
--	----------------------------

Glossary

Glossary of Mongolian Nuclear Terms	<i>Joe Minohara</i> ... 89
---	----------------------------

Edited by

MONGOL-KENKYŪKAI

Osaka Japan